

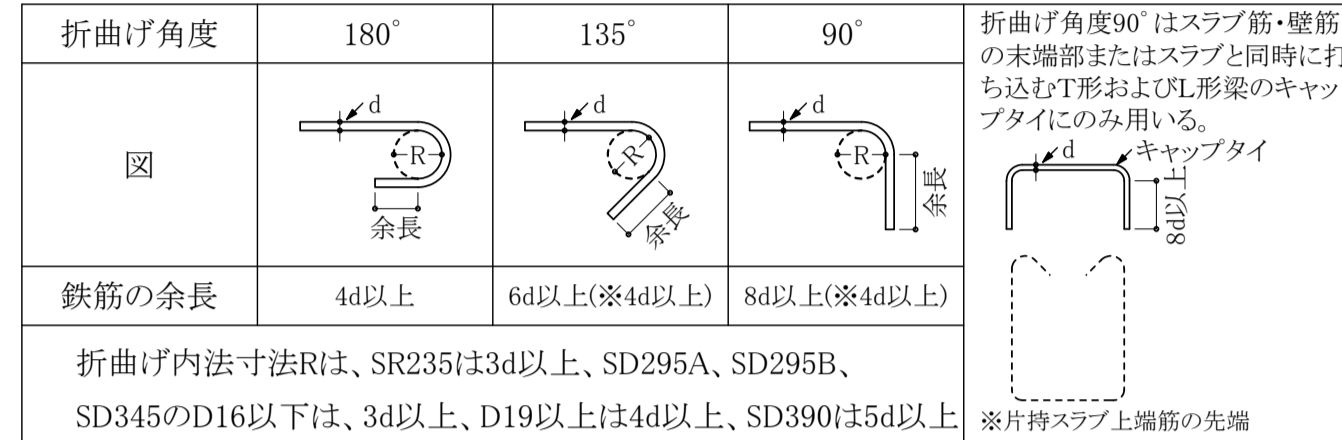
鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
 d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D…部材の成 R…直径
 @…間隔 r…半径 e…中心線 l…部材間の内法距離 ho…部材間の内法高さ
 ST…あばら筋 HOOP…帯筋 S.HOOP…補強帯筋 φ…直径又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状



(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

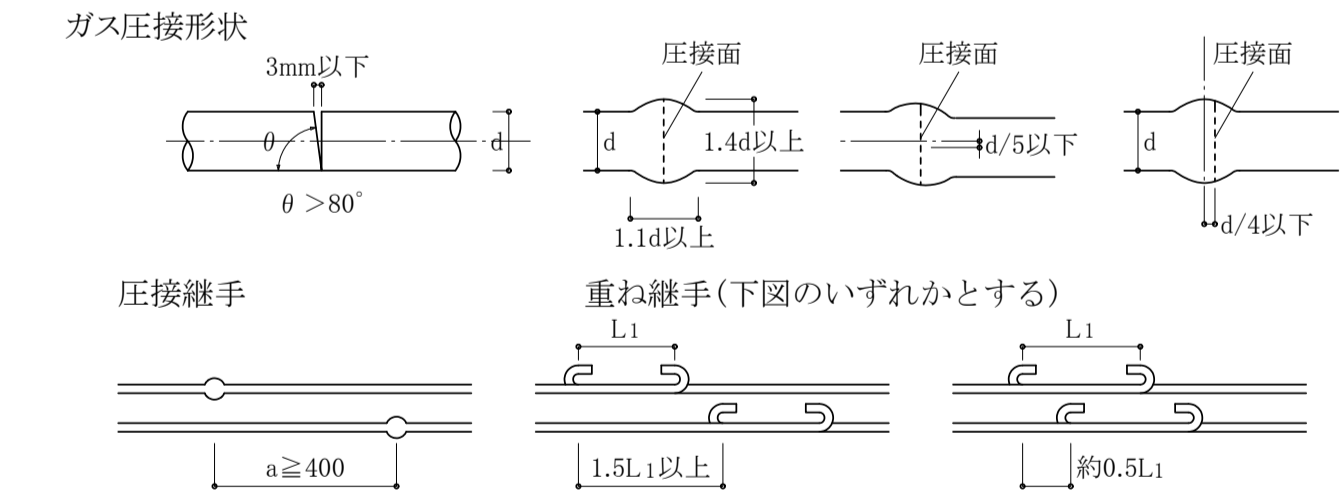
図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内の寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ以下 D16	3d以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SD295A SD295B、SD345 SD390	16φ以下 D16 19φ～25φ D19～D25 28φ～32φ D29～D38	4d以上 6d以上 8d以上

(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm ²)	定着の長さ			特別の定着及び重ね継手の長さ(L ₁)
		一般(L ₂)	下ば筋(L ₃)		
SR235	21～36	35d フックつき	25d フックつき	15cm フックつき	40d フックつき
	18以下	45d フックつき			45d フックつき
SD295A SD295B SD345	21～36	35d または 25d フックつき	25d または 15d フックつき	10d かつ 15cm以上	40d または 30d フックつき
	18以下	40d または 30d フックつき			45d または 35d フックつき
SD390	27～36	35d または 25d フックつき	25d または 15d フックつき	10d かつ 15cm以上	40d または 30d フックつき
	27未満	40d または 30d フックつき			45d または 35d フックつき

継手

- 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長とする
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
- 鉄筋径の差が7mmを越える場合は、圧接としてはならない

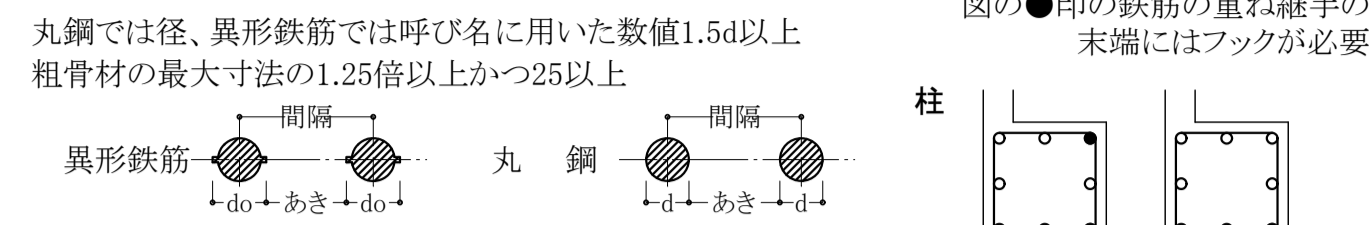


(4) かぶり厚さ(単位: mm)

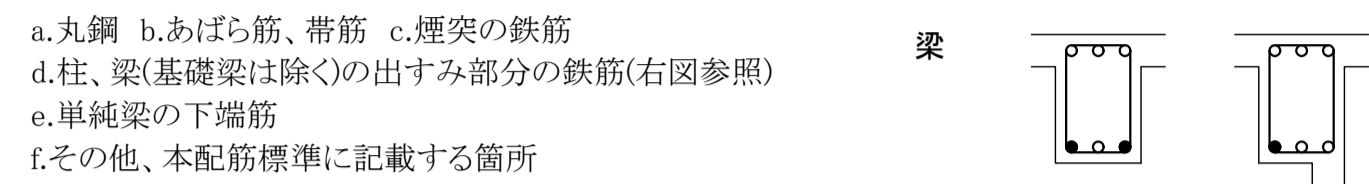
部位	設計かぶり厚さ(mm)	
	設計かぶり厚さ	最小かぶり厚さ
土に接しない部分	屋根スラブ	屋 内 30 20
	床スラブ	屋 外 40 ⁽¹⁾ 30(20)
	非耐力壁	屋 内 40 30
	柱	屋 外 50 ⁽²⁾ 40 ⁽¹⁾ (30)
土に接する部分	耐力壁	50 ⁽³⁾ 40
	擁壁	50 40
	柱・はり・床スラブ・耐力壁	50 40 ⁽⁴⁾
基礎・擁壁	70 60 ⁽⁴⁾	

- [注] (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。
 (2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
 (3) コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
 (4) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
 (5) ()内は仕上げがある場合。

(5) 鉄筋のあき

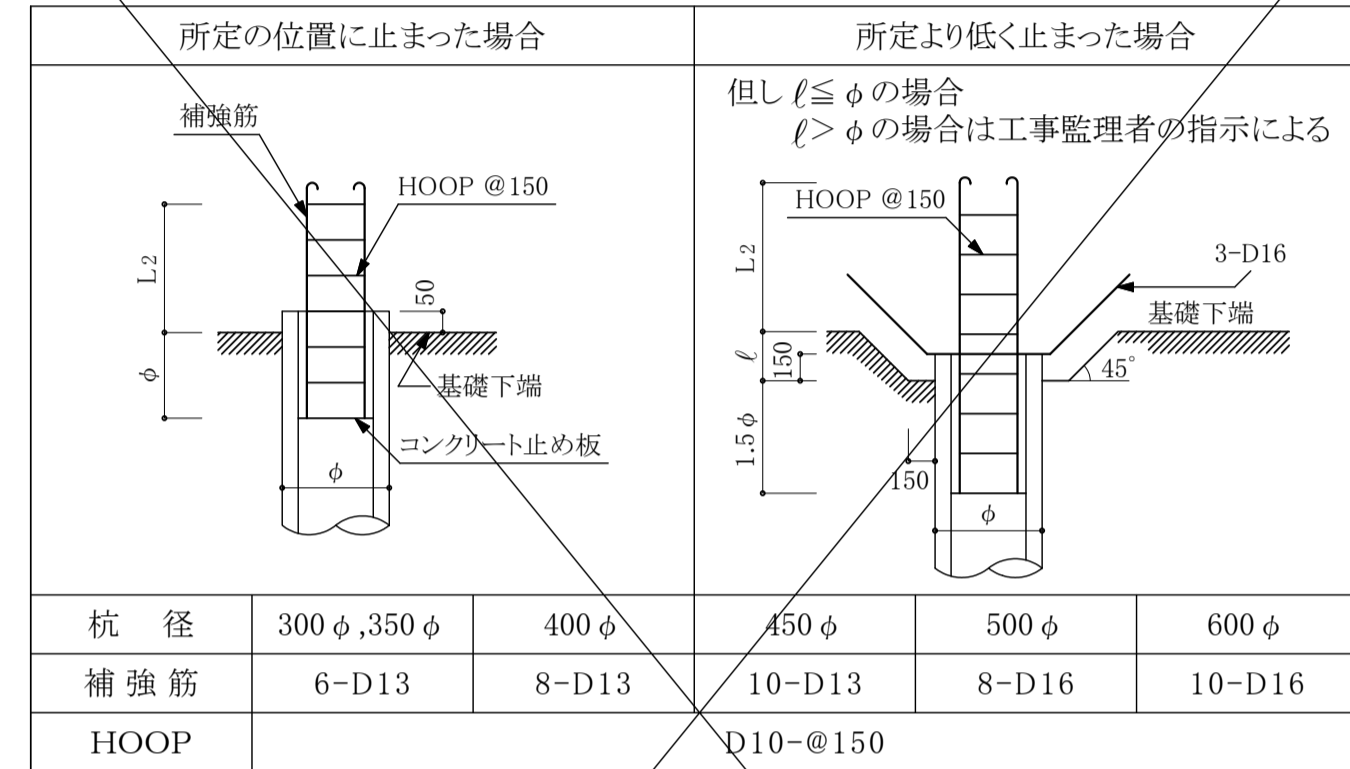


(6) 鉄筋のフック (a～cを示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

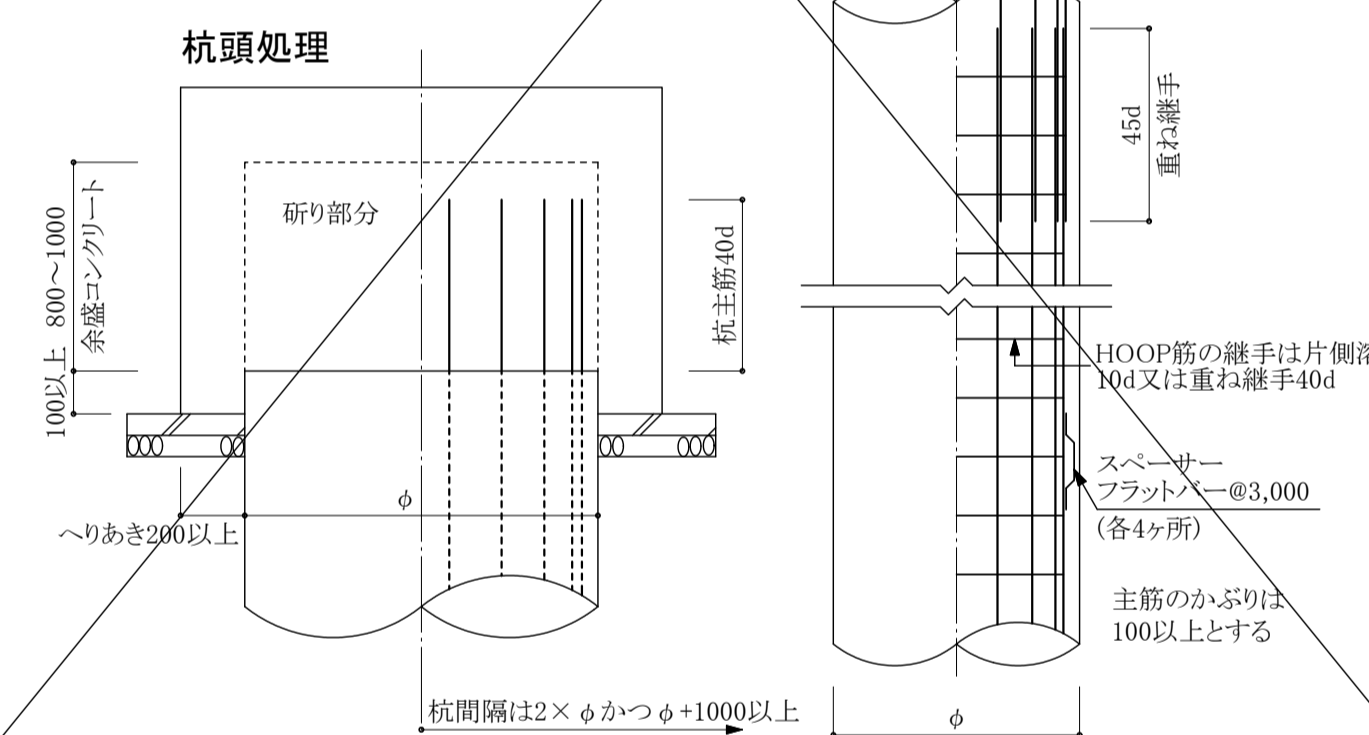


3. 杭(地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

(1) PRC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

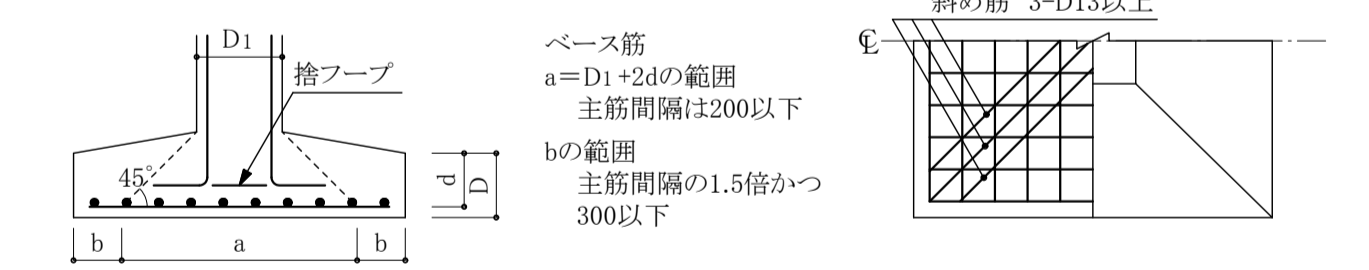


(2) 現場打ちコンクリート杭

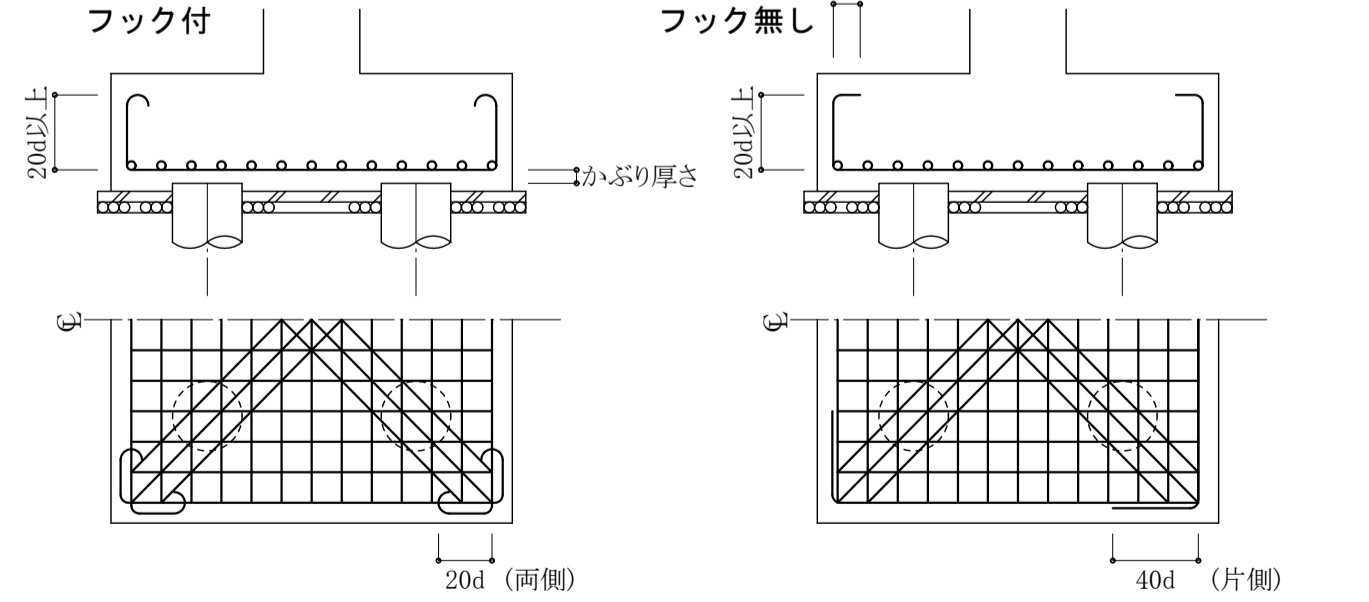


4. 基礎

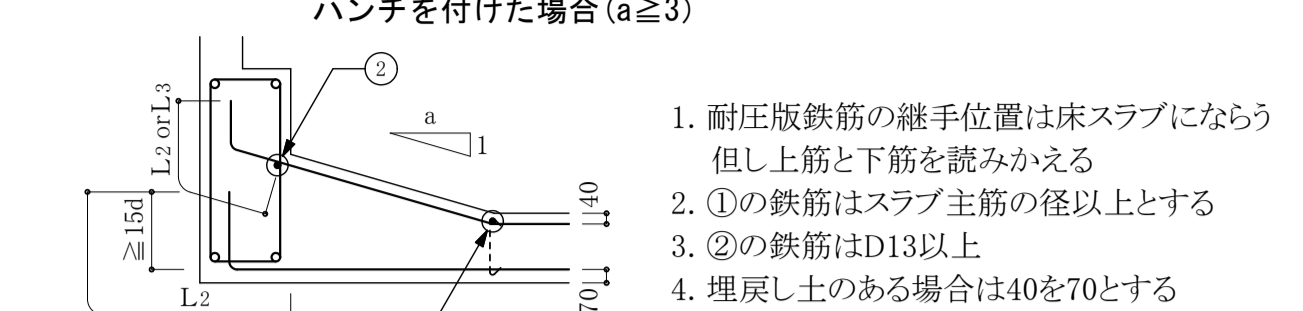
(1) 直接基礎



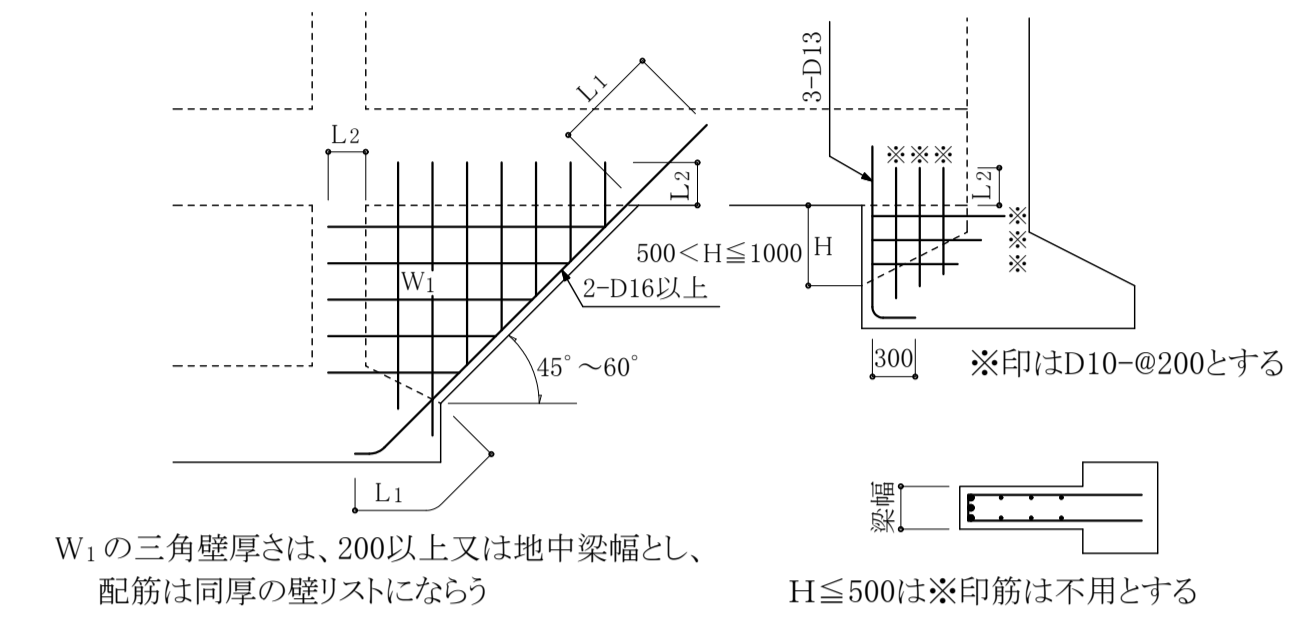
(2) 杭基礎



(3) ベタ基礎

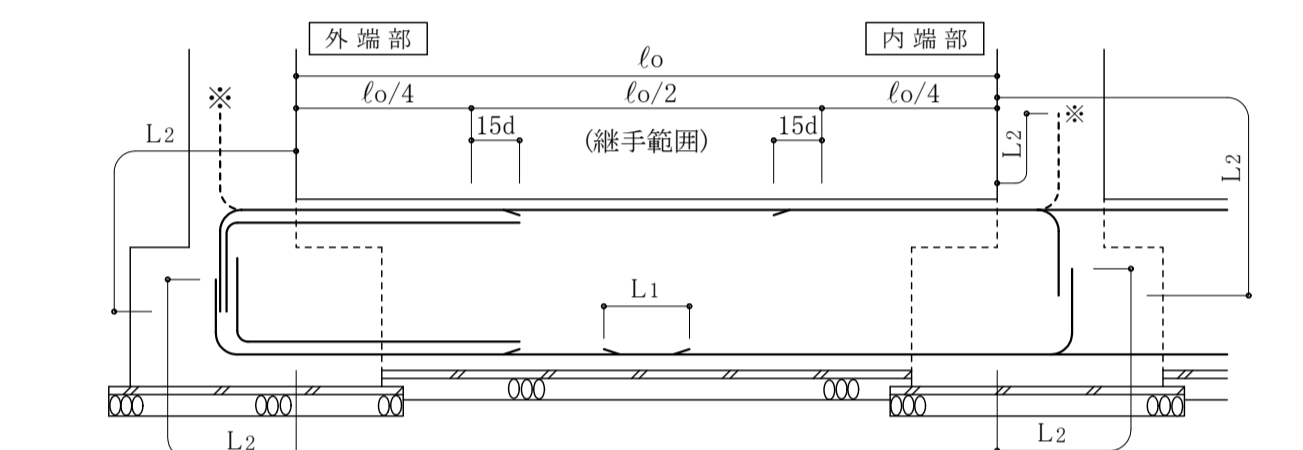


(4) 基礎接合部の補強

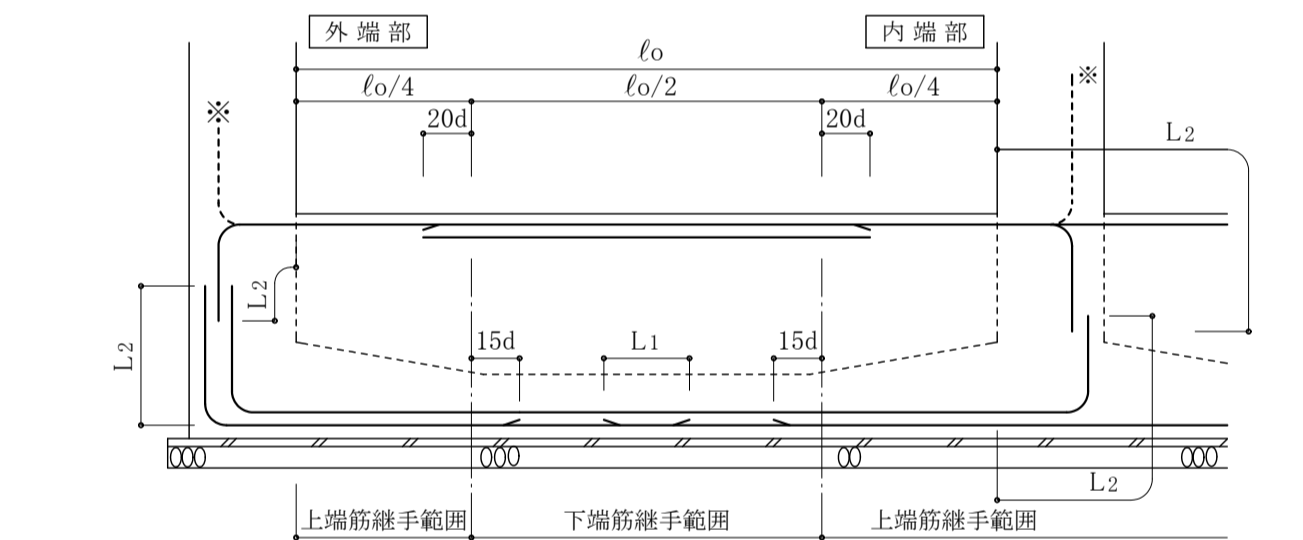


5. 地中梁

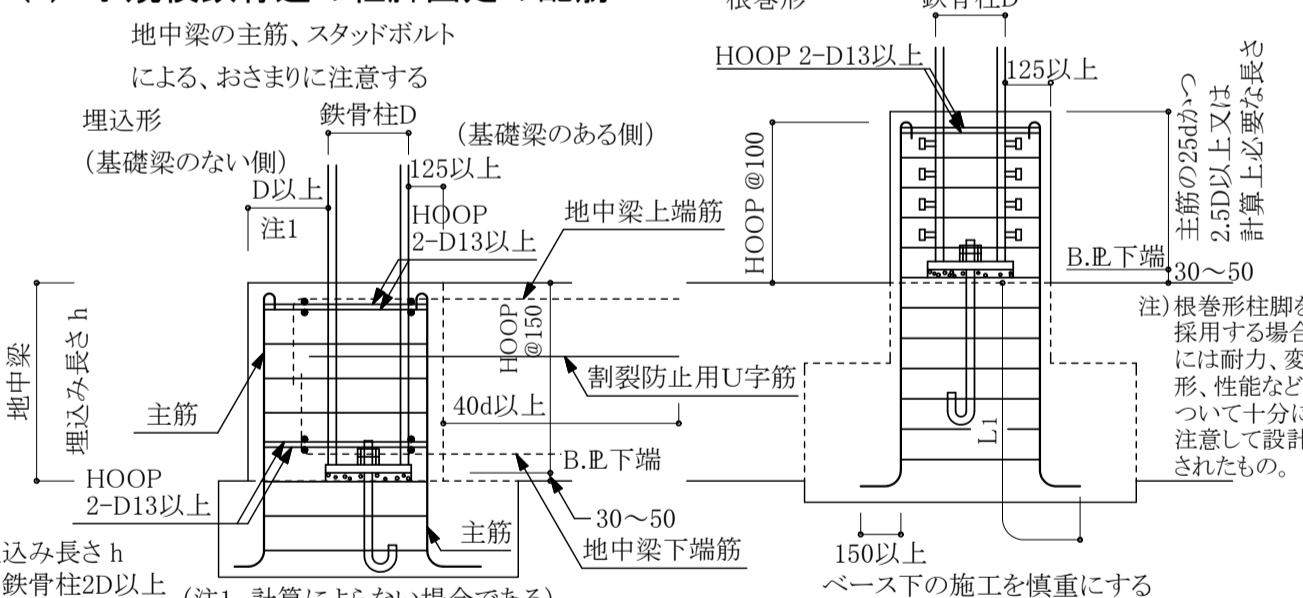
(1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)



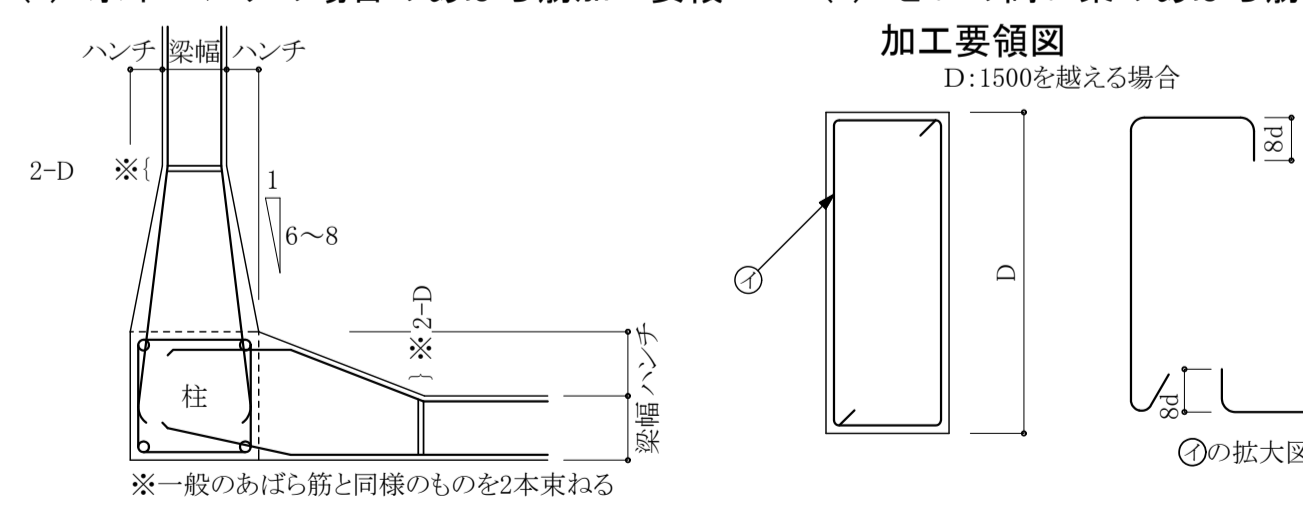
(2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)



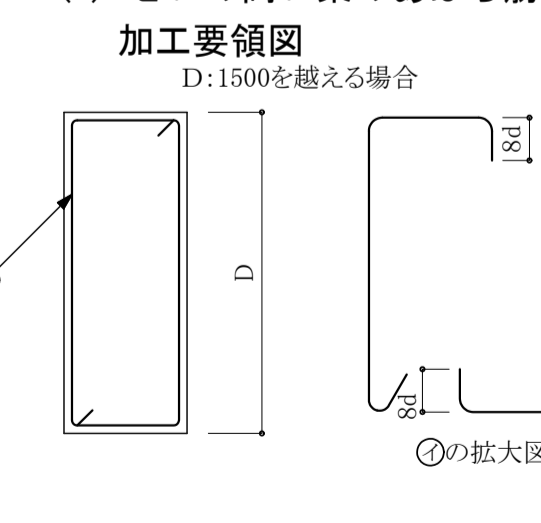
(3) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋



(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

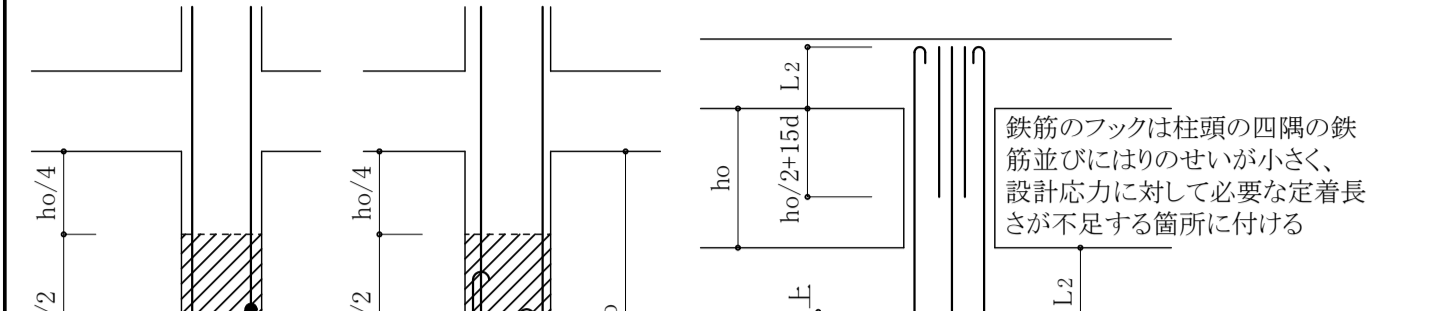


(5) せいの高い梁のあばら筋加工要領

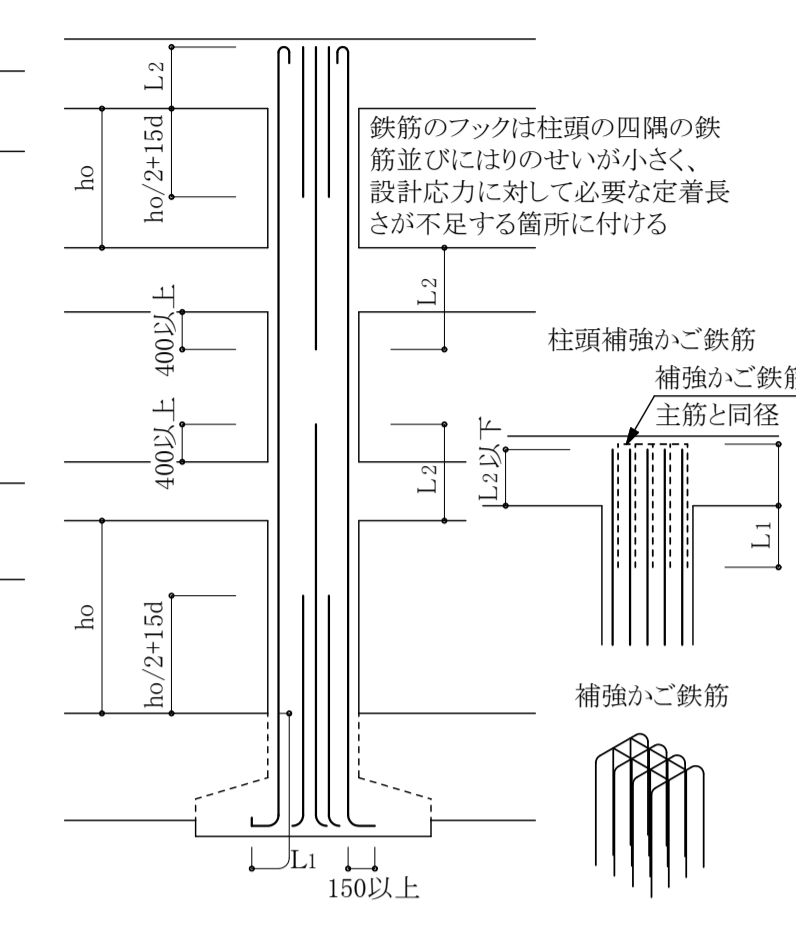


6. 柱

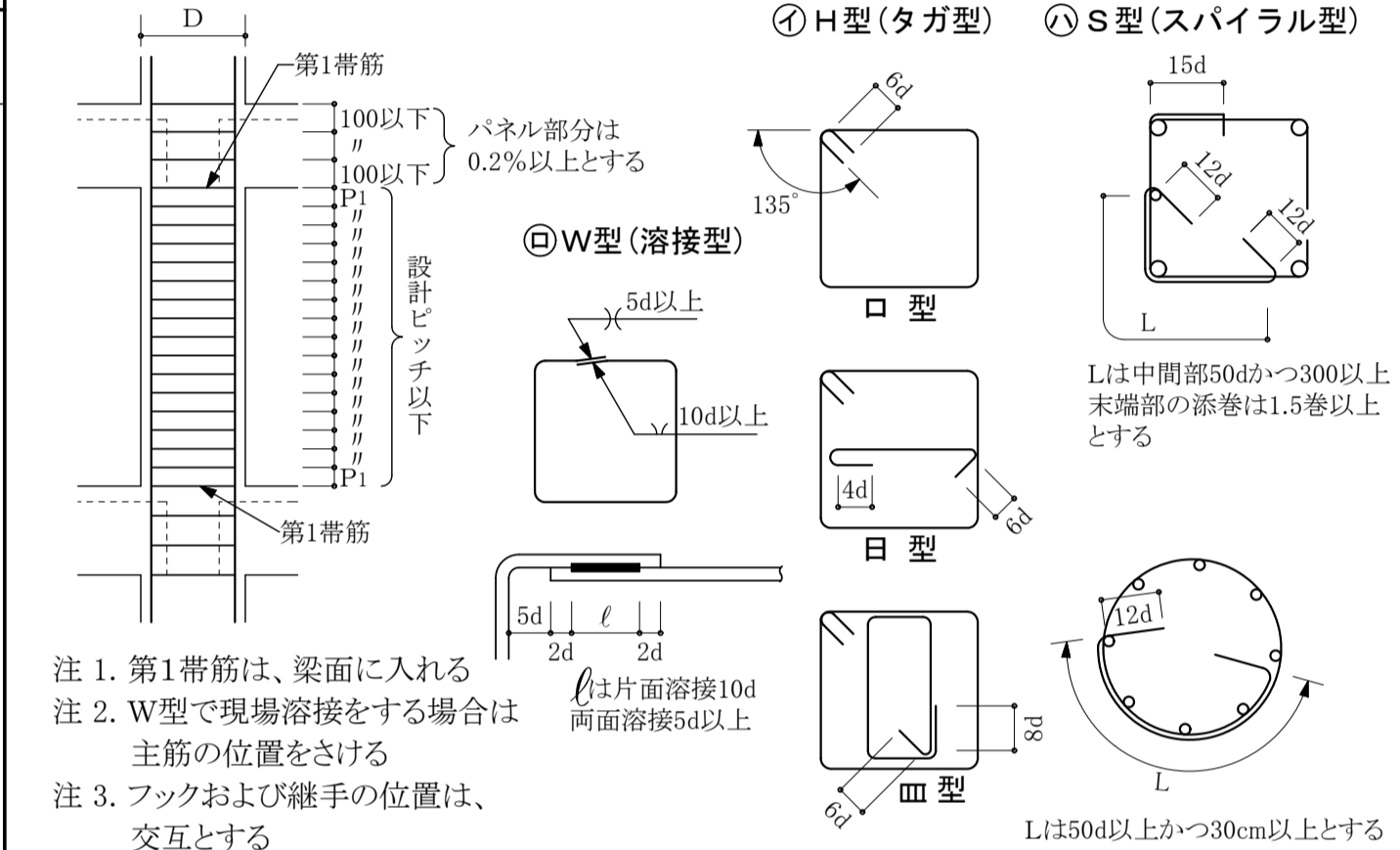
(1) 柱主筋の継手



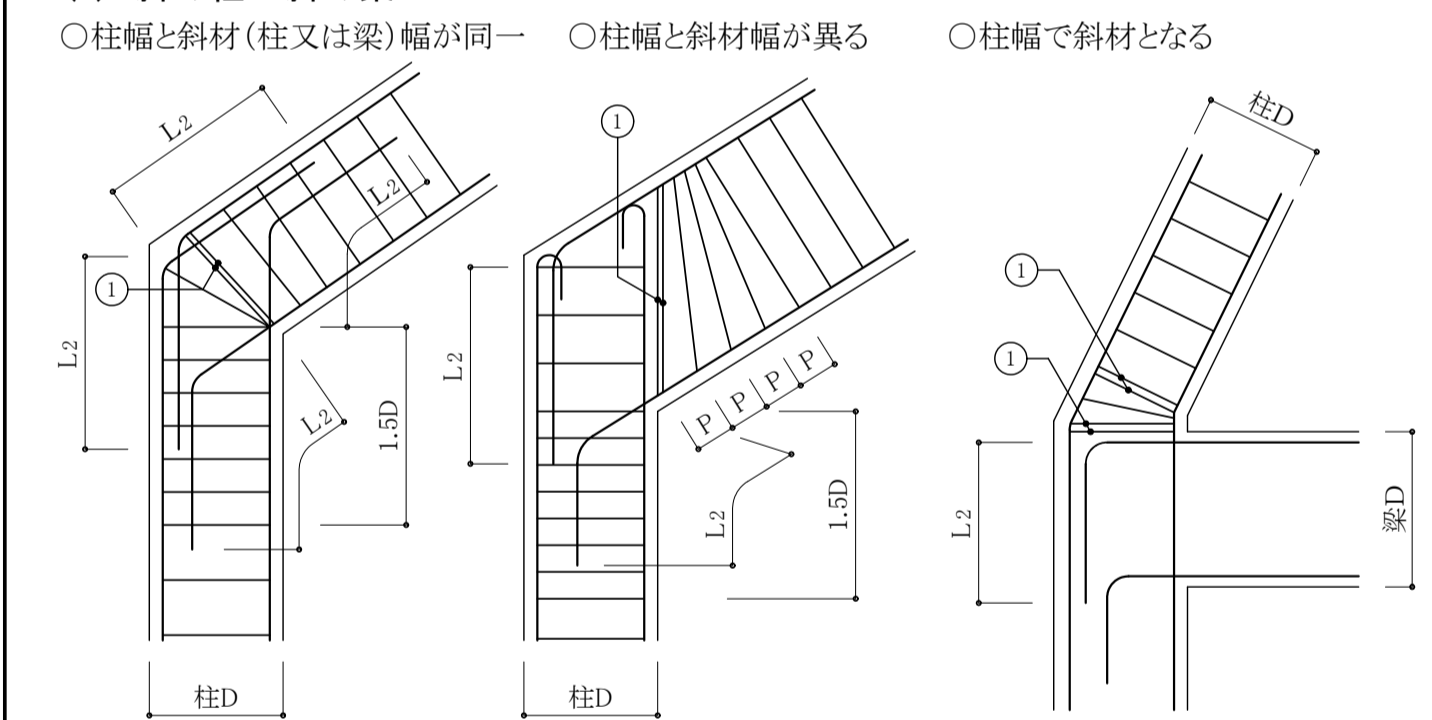
(2) 柱主筋の定着



(3) 帯筋

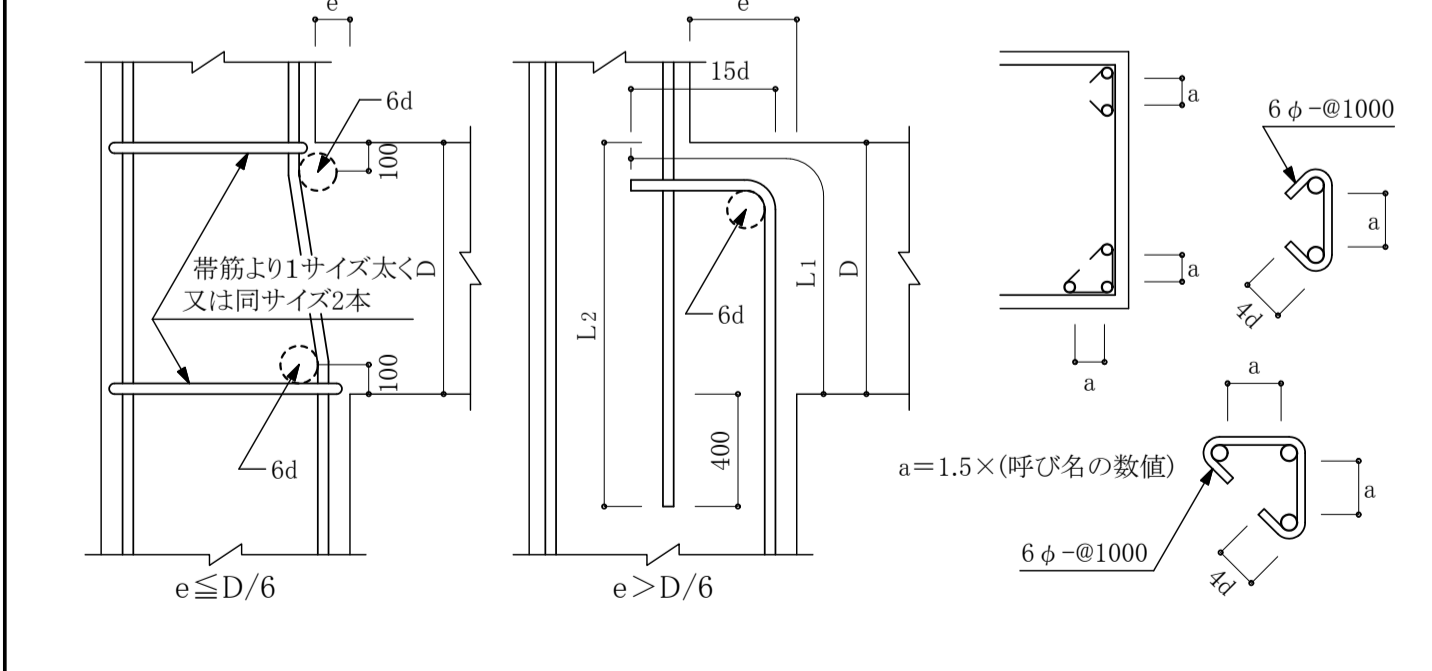


(4) 斜め柱・斜め梁



- 注 1. 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし@100以下とする
 注 2. ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする

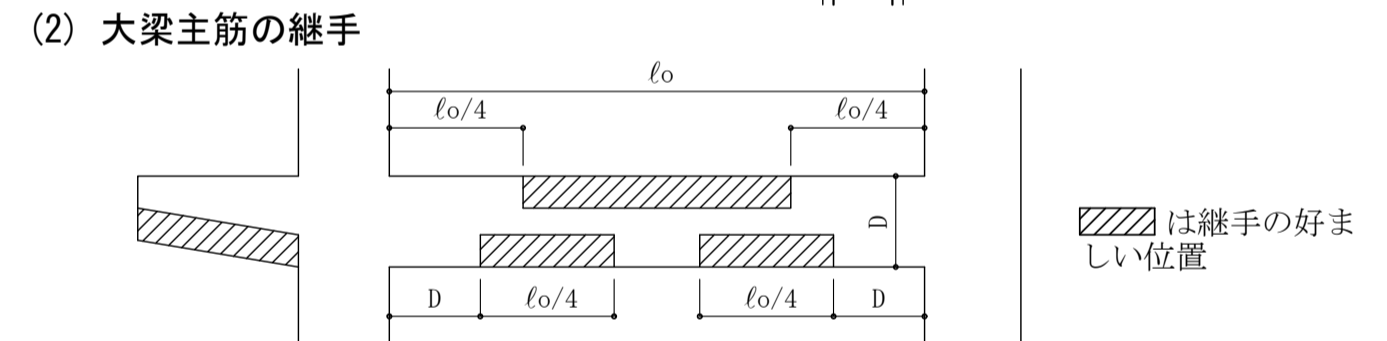
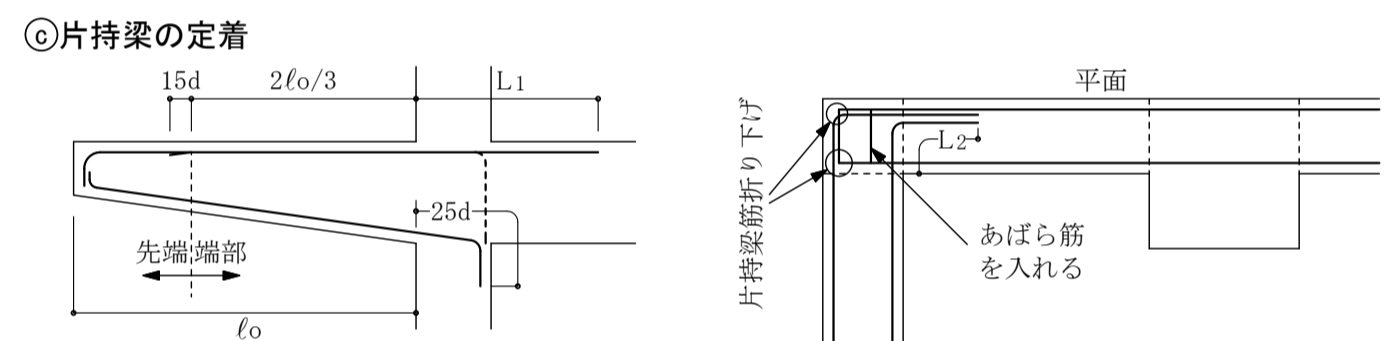
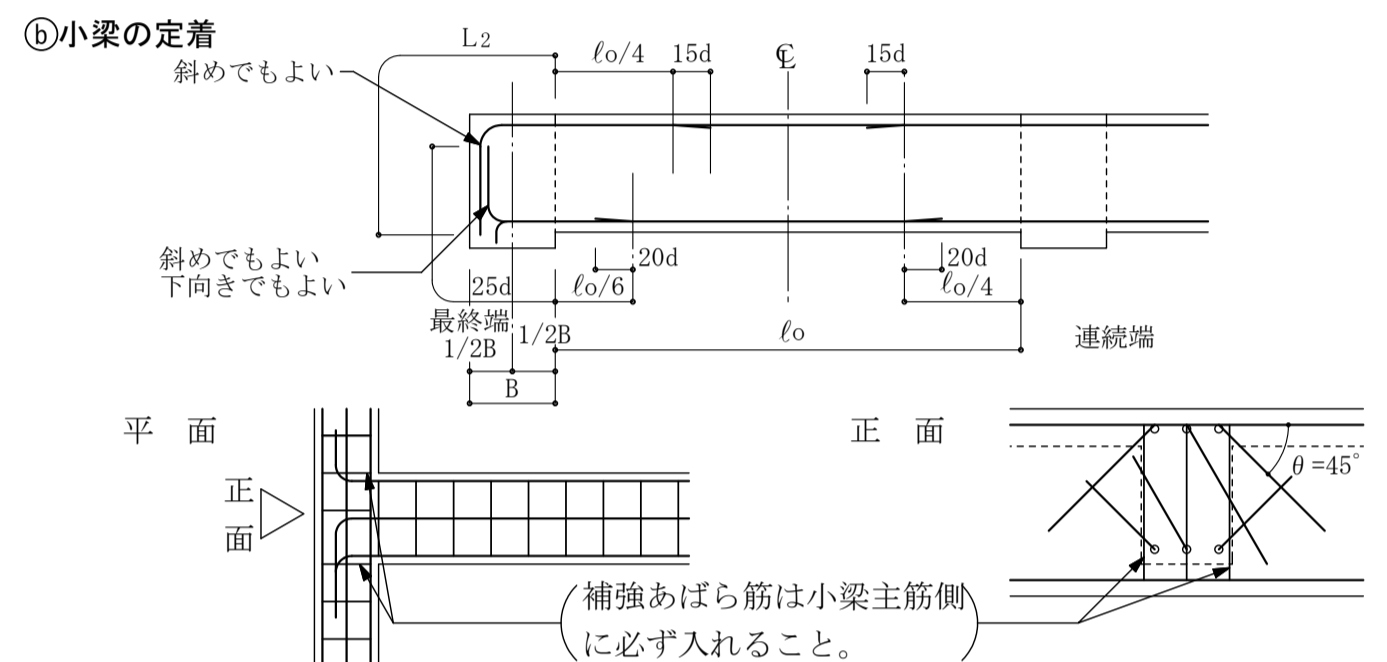
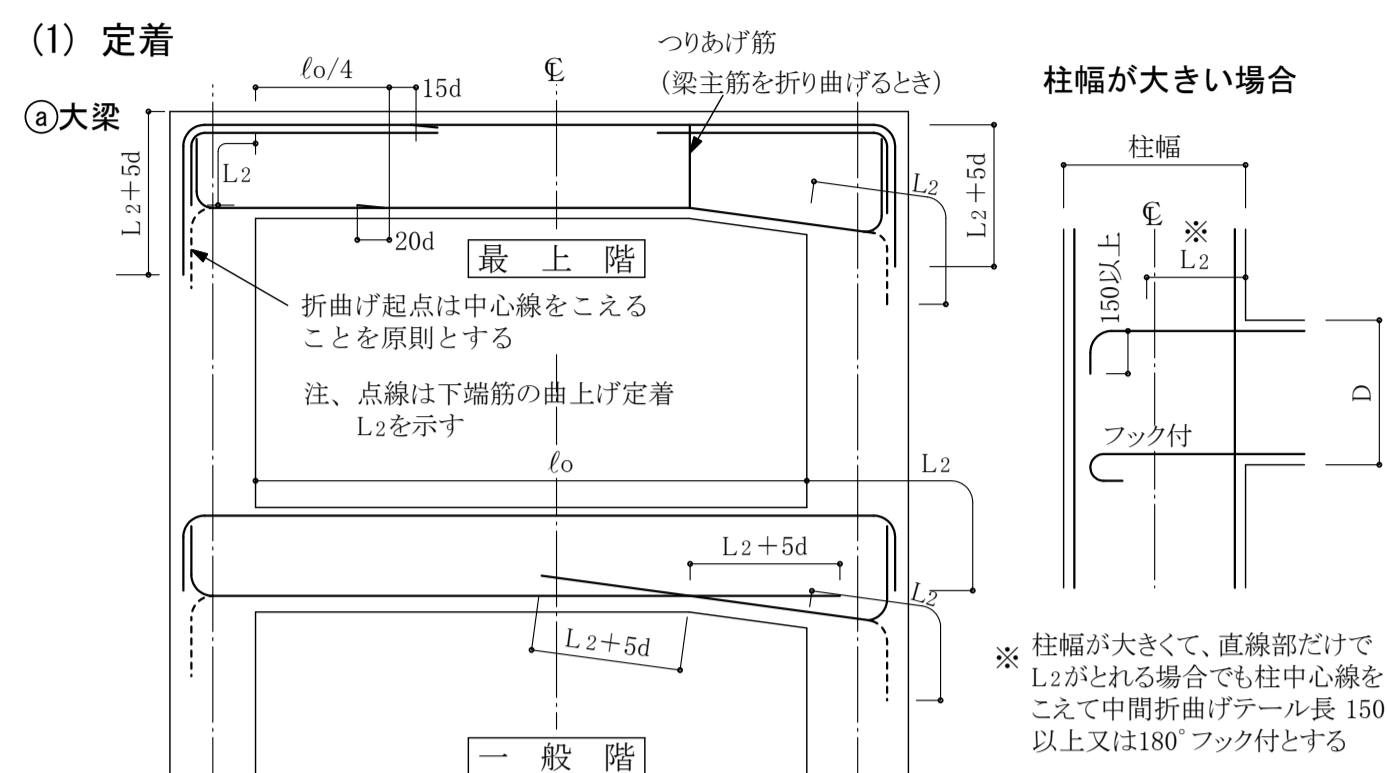
(5) 絞リ



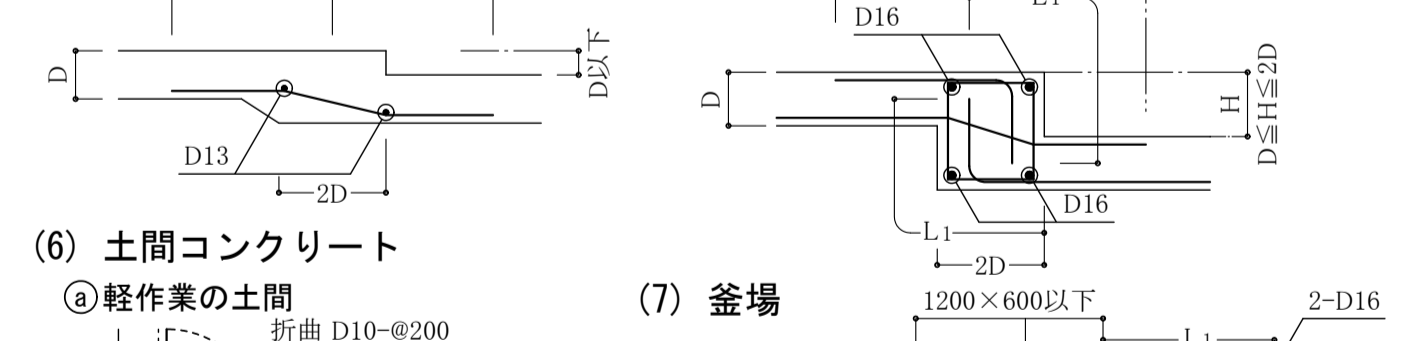
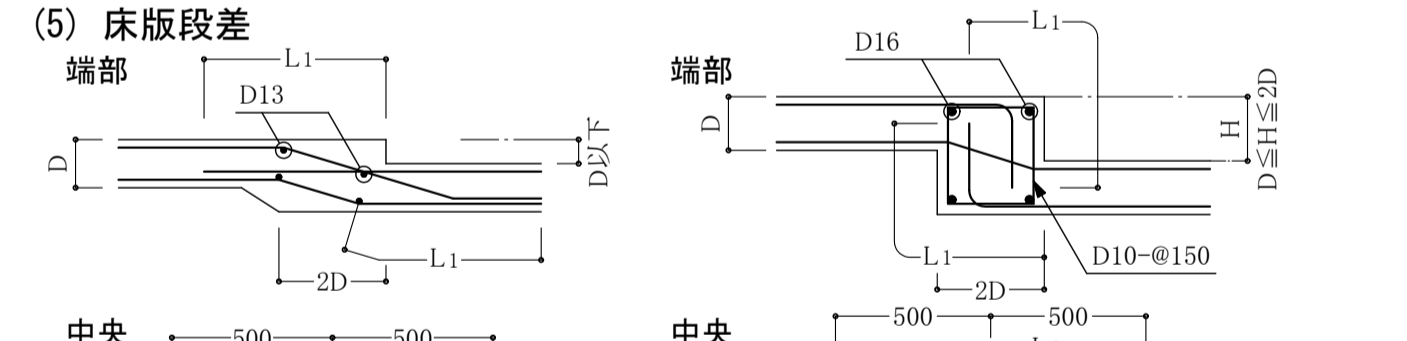
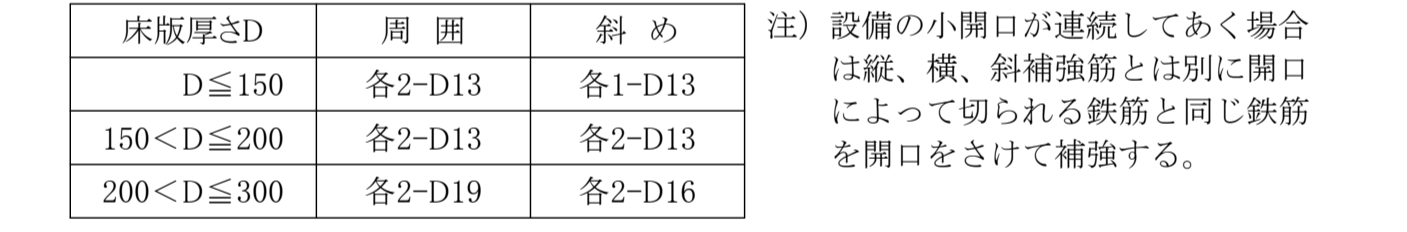
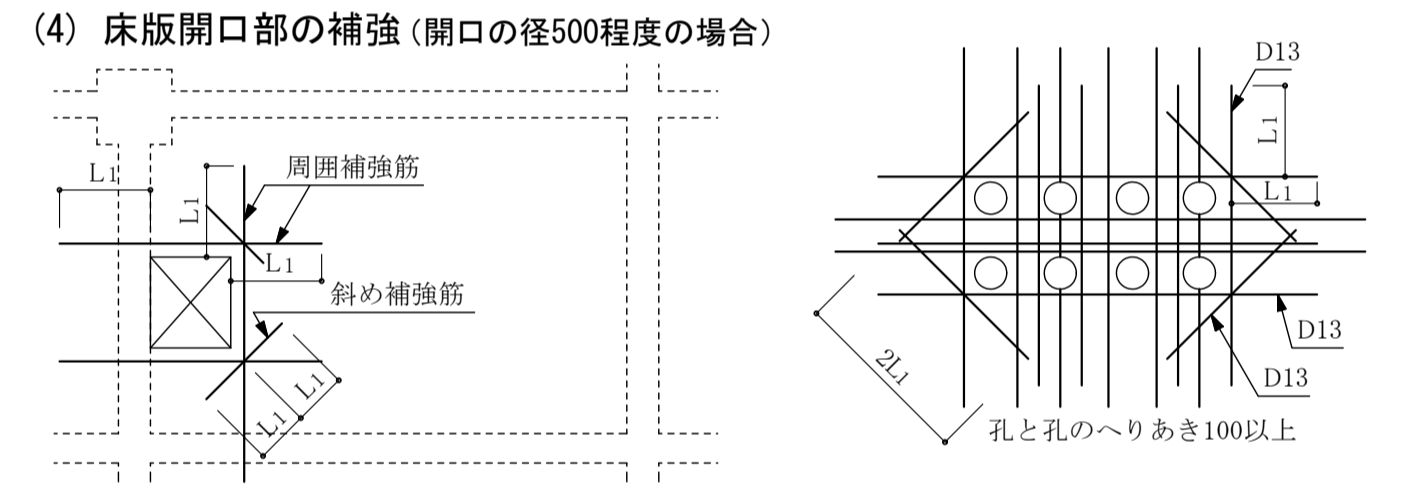
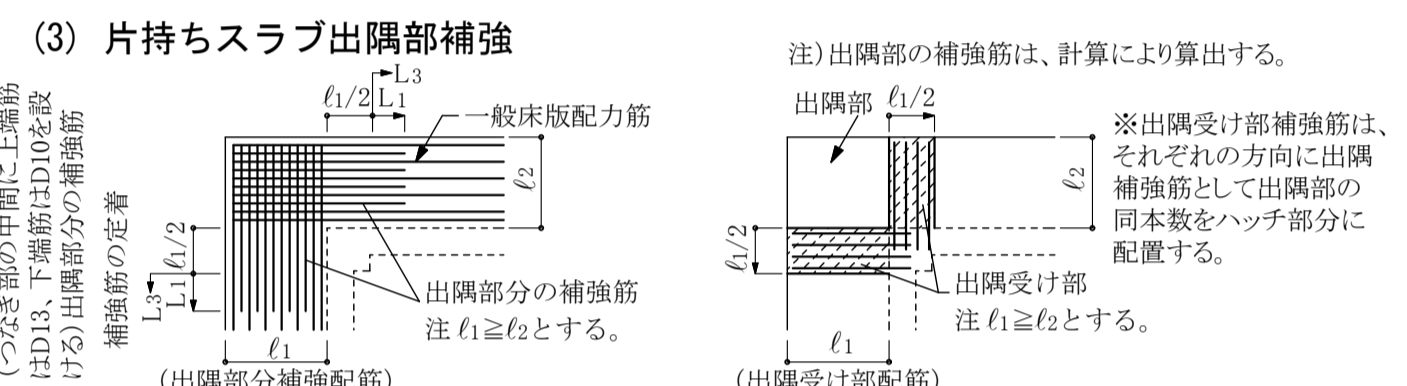
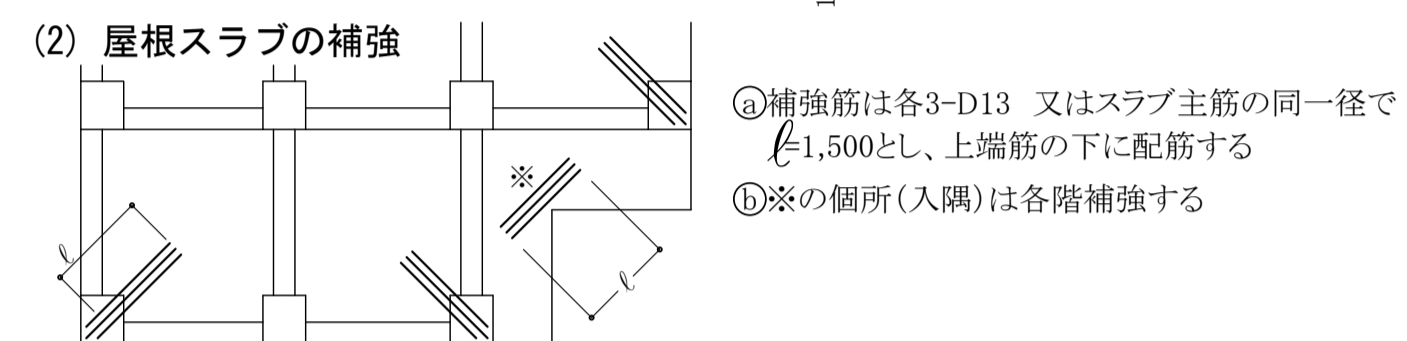
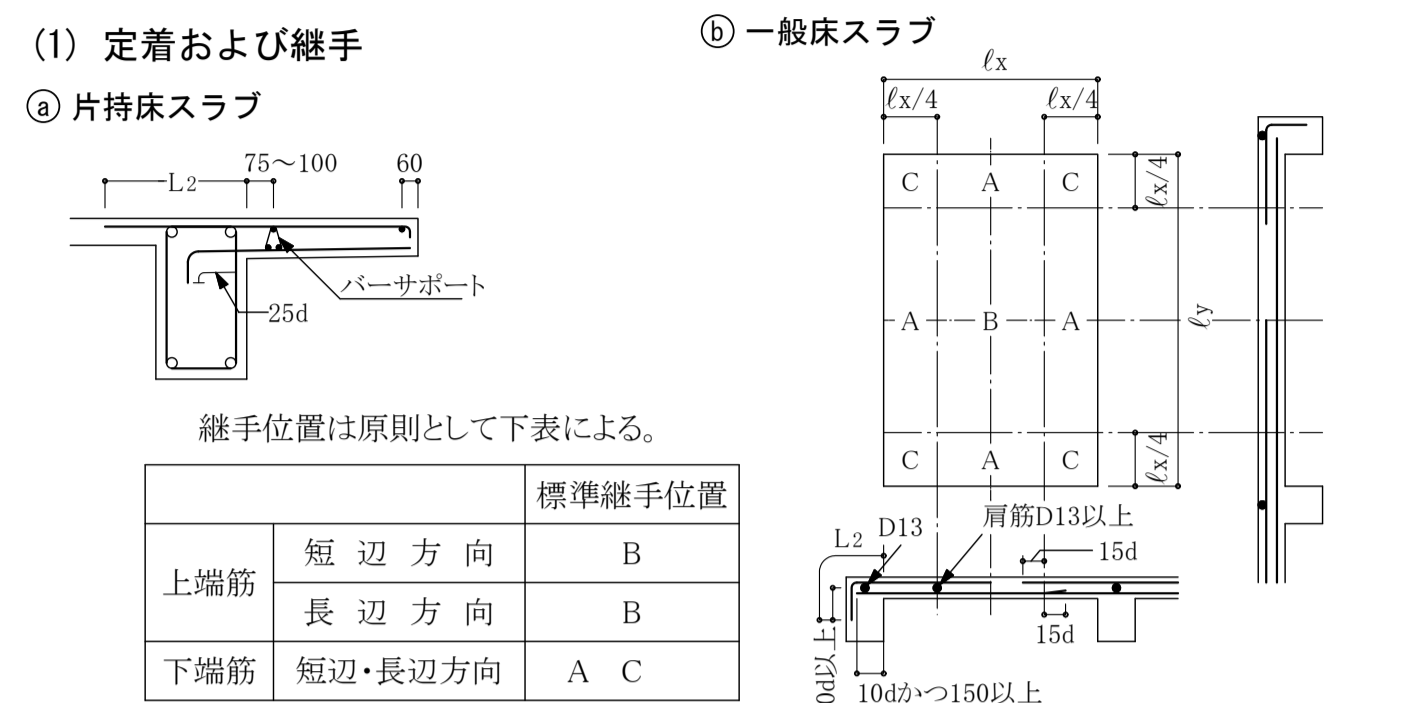
鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

L=鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

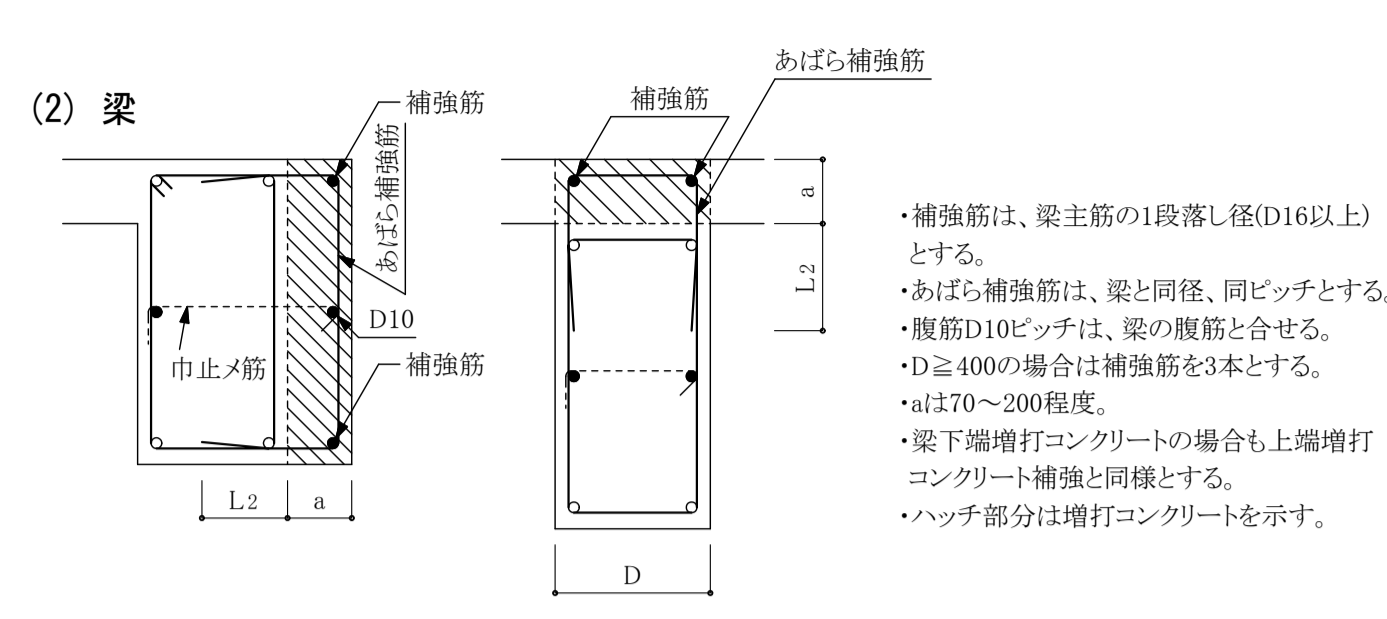
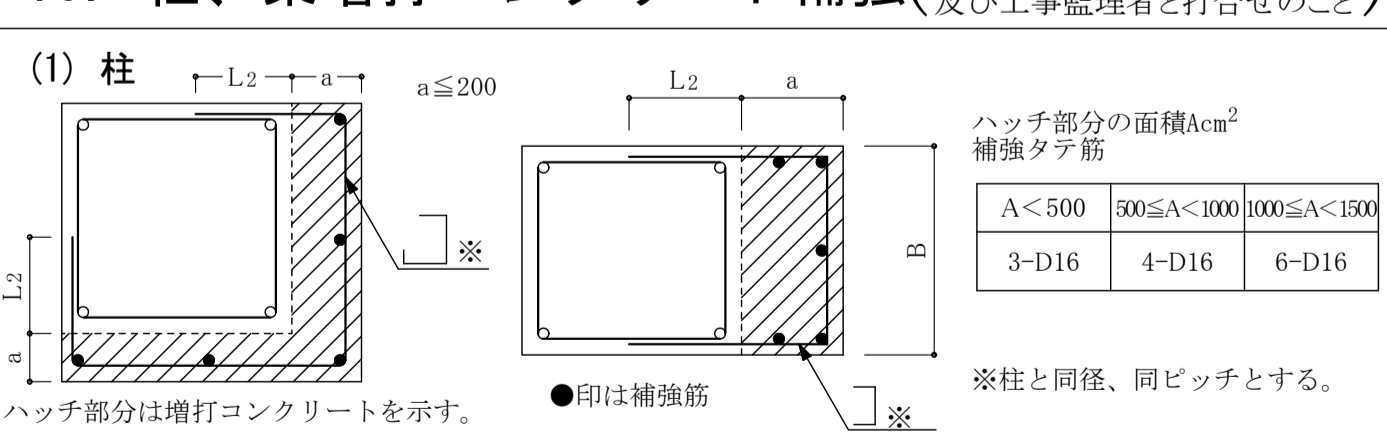
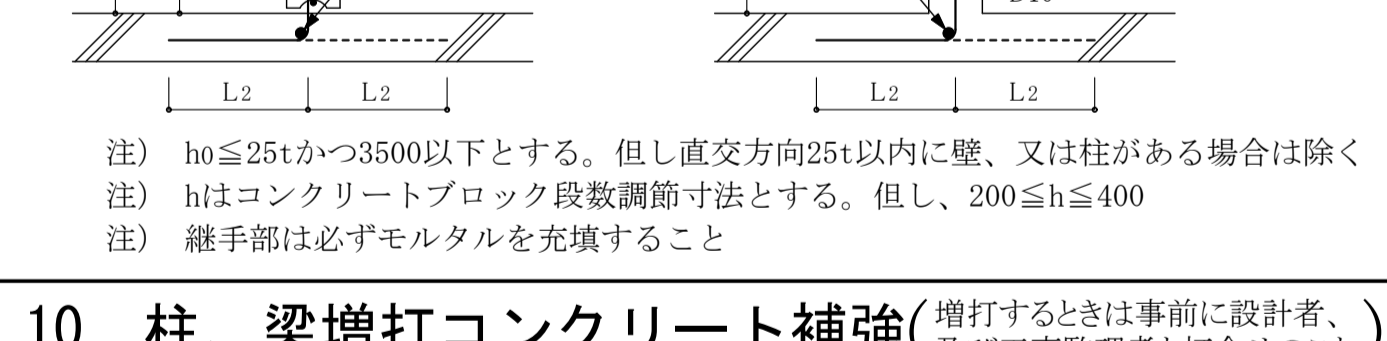
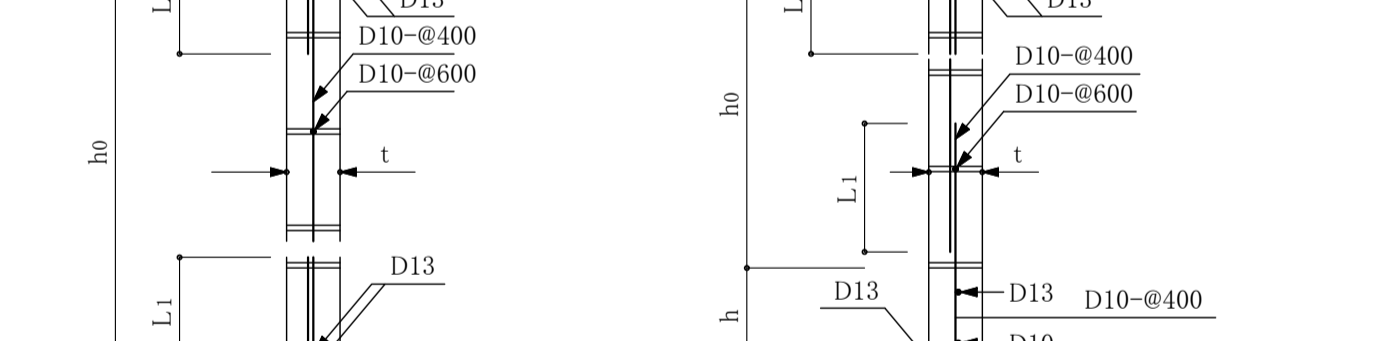
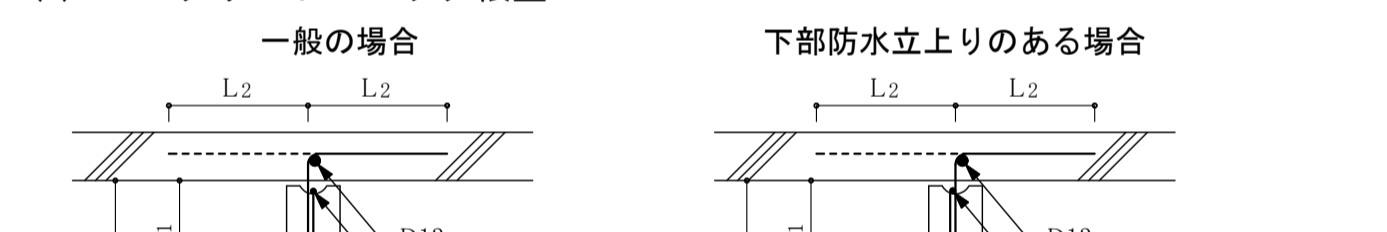
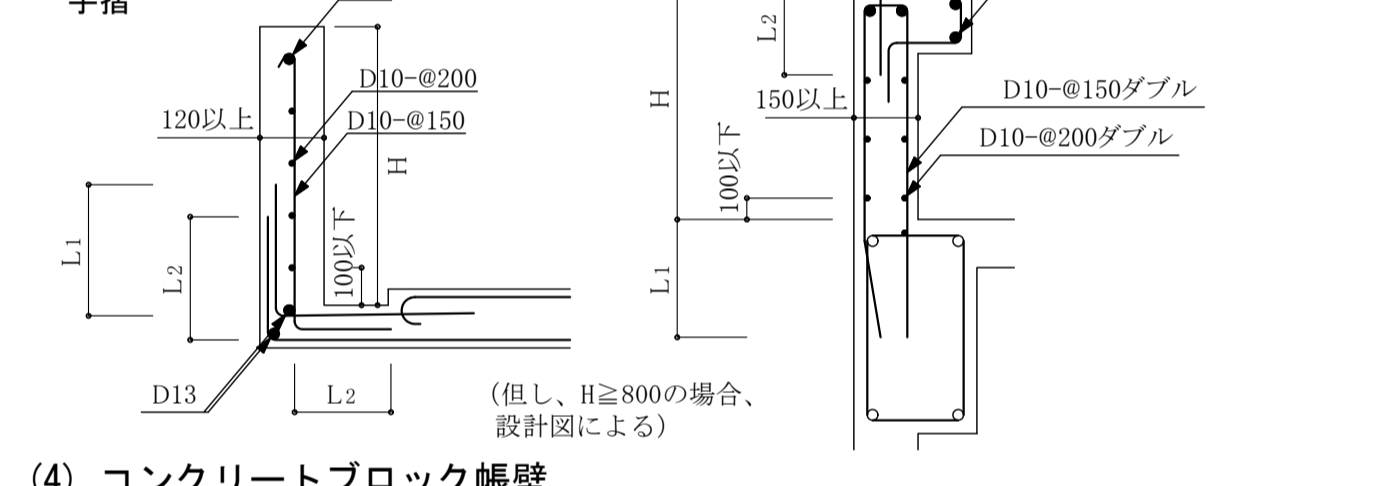
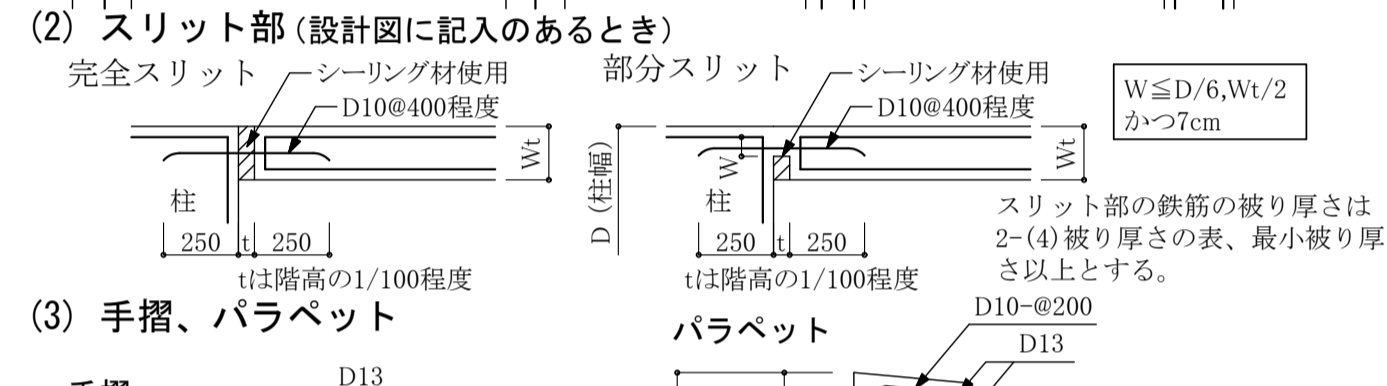
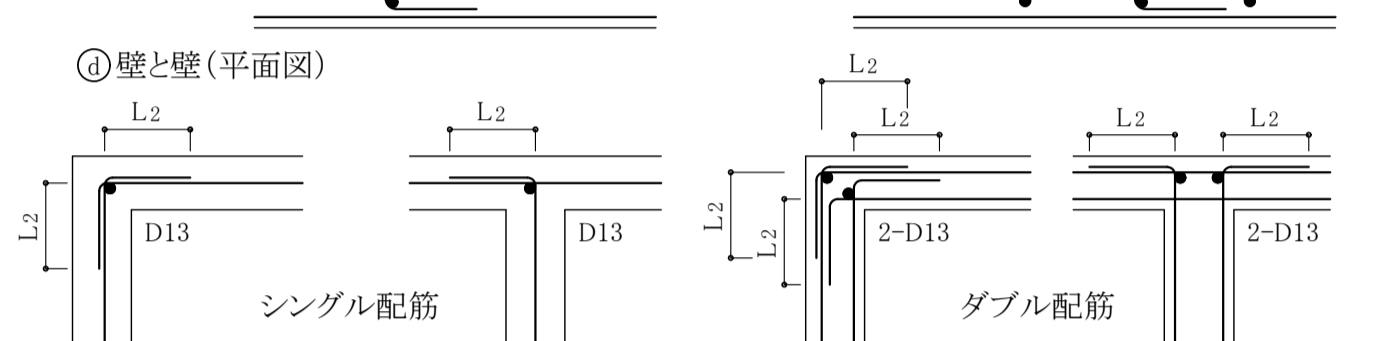
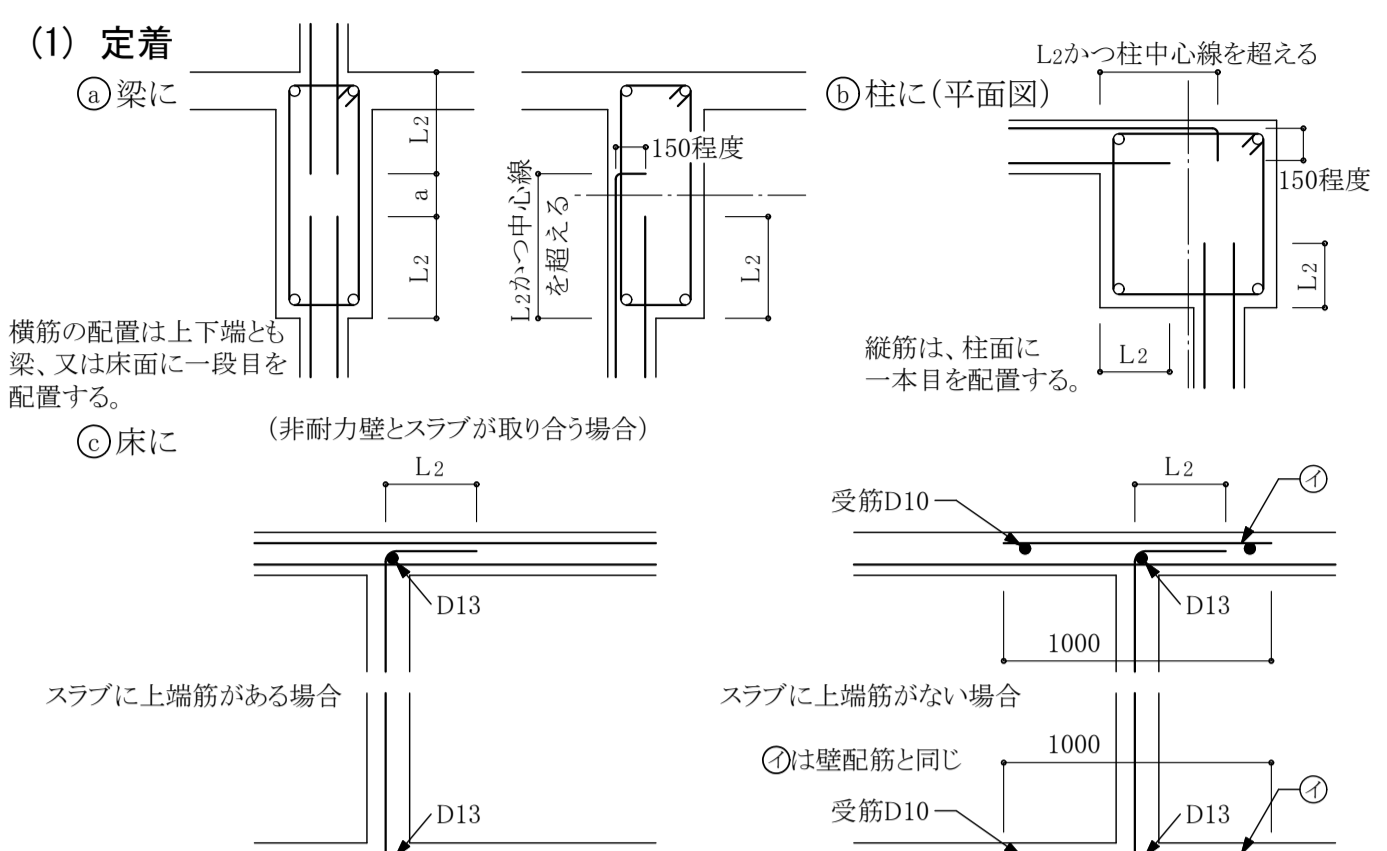
7. 大梁、小梁、片持梁



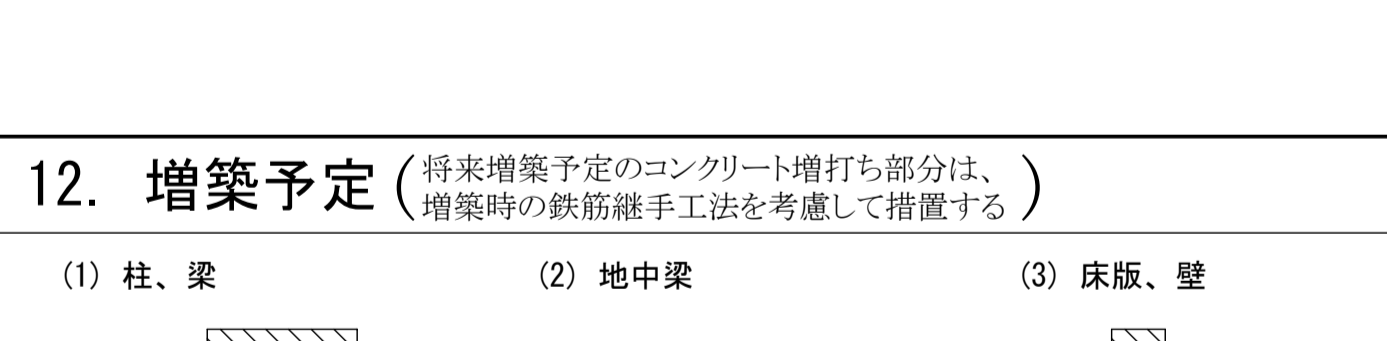
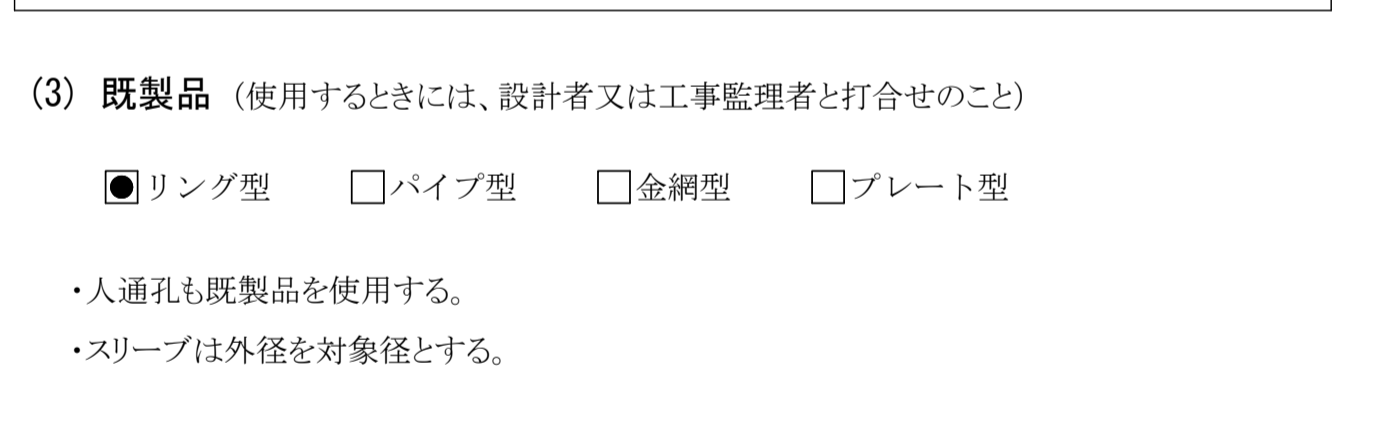
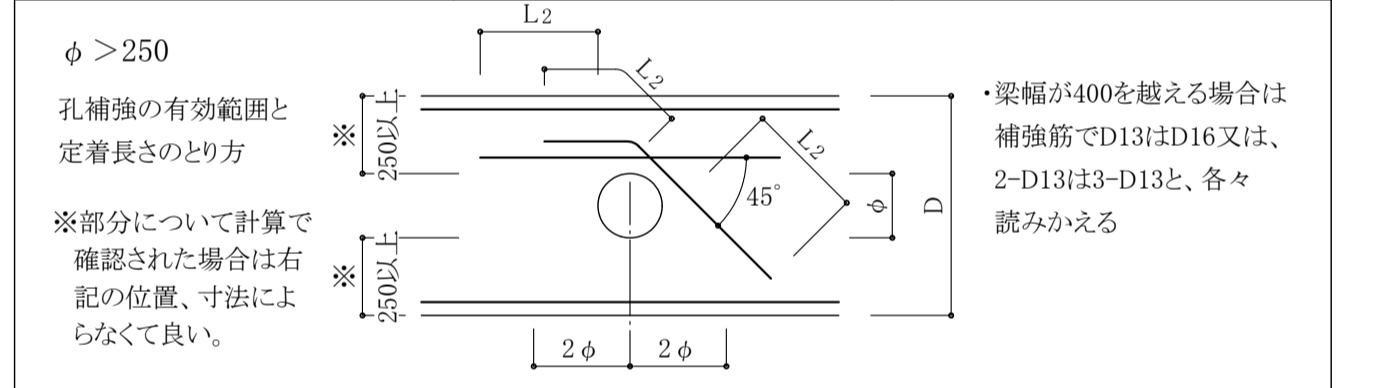
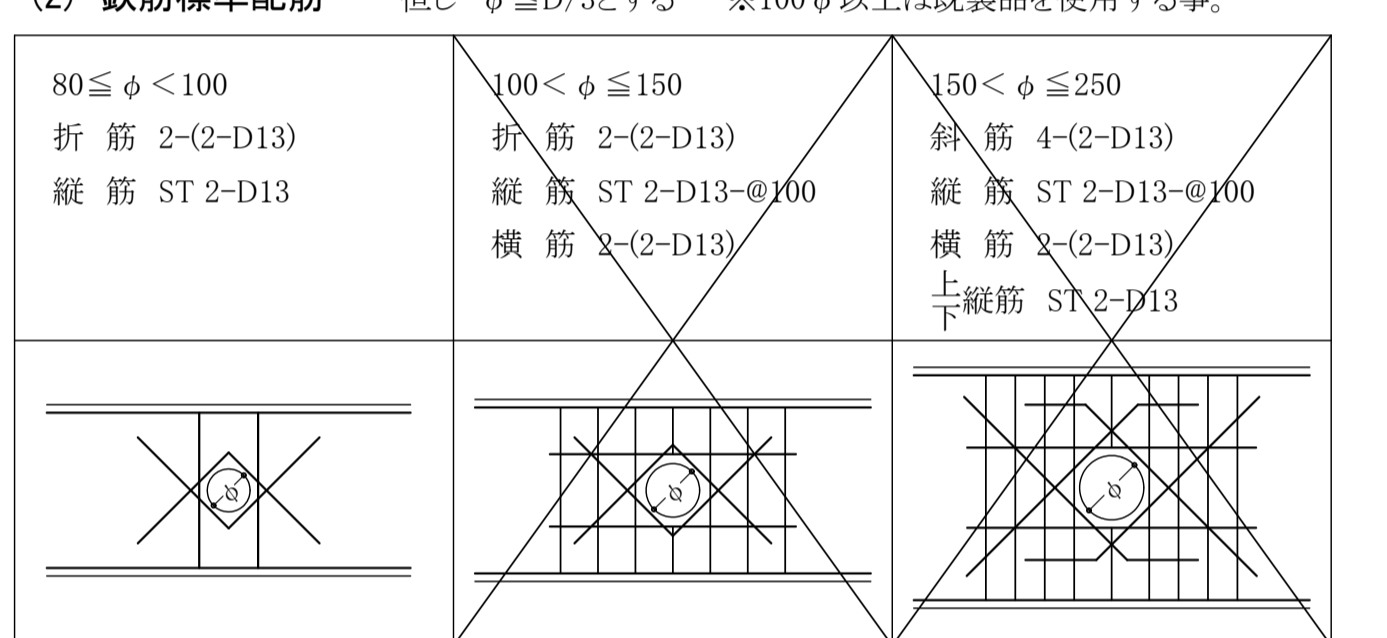
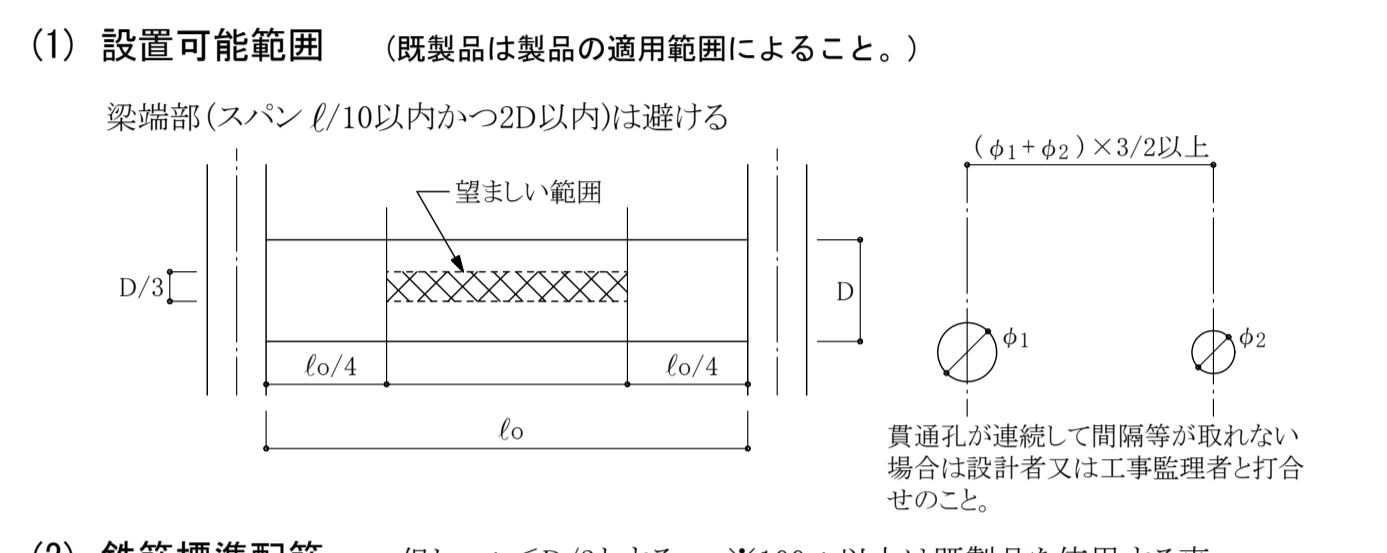
8. 床版



9. 壁



11. 梁貫通孔補強 (既製品を使用する。100φ以上)



梁貫通孔補強材設計・施工標準仕様書

参考図 MAXリンプレンK型 設計・施工標準仕様書

◎標準図

1、一般事項

- 本仕様書は、MAXリンプレンK型の標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。
- 本仕様書に定めなき事項は、日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」、「鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」、「建築工事標準仕様書・同解説（JASS5）」、「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」及び、「鉄骨鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。

2、適用範囲

- 適応対応梁の構造
 - 梁の構造種別：鉄筋コンクリート造及び、鉄骨鉄筋コンクリート造
 - コンクリート (Fc)
 - a あばら筋に普通鉄筋を用いた梁 $18 \leq Fc \leq 60N/mm^2$
 - b あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁 $21 \leq Fc \leq 100N/mm^2$
 - 鉄筋
 - a 主筋 JIS・G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」
 - b あばら筋 JIS・G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」及び、建築基準法 37条二号の大臣認定を取得している $685 \cdot 785 \cdot 1275N/mm^2$ 級の高強度鉄筋
- 開孔径及び、開孔位置
 - 孔径 (H)： $H \leq D/3$ ただし、 $80 \leq H \leq 750$ (mm)
 - 孔の水平方向中心間距離 (A)： $A \geq 3H$
 - 孔の鉛直方向中心間距離 (G)： $G \geq 3H$ ただし、 $\Sigma H \leq D/4$ 且つ、2開孔までとする。
 - 柱際からの開孔距離
 - a 曲げ破壊先行型で設計された梁 柱際から開孔中心までの距離 (B)： $B \geq D$
ただし、梁端降伏型の設計ではないことを確認した基礎梁は $B \geq C$ C：有効補強範囲
 - b せん断破壊先行型で設計された梁 柱際から開孔までの距離 (B')： $B' \geq D$
 - 孔上下位置 (Hc)
 - $450 \leq D < 700$ $Hc \geq 175$
 - $700 \leq D < 900$ $Hc \geq 200$
 - $900 \leq D$ $Hc \geq 250$
 かつ $Hc \geq D/5$

図1 貫通孔の適用開孔位置

3) 補強量の範囲

- MAXリンプレンK型の補強筋比 (Pr)
 - a あばら筋に普通鉄筋を用いた梁 $Pr \leq 1.0$ (%)
 - b あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁 $Pr \leq 1.2$ (%)
- 有効補強範囲内のあばら筋の補強筋比 (Ps)
 - a あばら筋に普通鉄筋を用いた梁 $Ps \leq 1.2$ (%)
 - b あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁 $Ps \leq 1.0$ (%)
- 有効補強範囲内のせん断補強筋比 ($\Sigma Pwo = Pr + Ps$)
 - a あばら筋に普通鉄筋を用いた梁 $0.2 \leq \Sigma Pwo \leq 1.8$ (%)
 - b あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁 $0.2 \leq \Sigma Pwo \leq 2.2$ (%)

◎補強算定式

MAXリンプレンK型を用いた有孔梁の終局せん断耐力式 (修正広沢式)

$$Q_{su1} = \alpha \left\{ \frac{0.053Pt^{0.23}(18+Fc)}{M/Qd+0.12} \left(1 - 1.61 \frac{H}{D}\right) + 0.85 \sqrt{Pr \cdot r_{oy} + Ps \cdot s_{oy}} \right\} bj$$

α ：低減係数
 あばら筋が普通鉄筋 ($\alpha N = 1.00$)
 あばら筋が高強度鉄筋 ($\alpha H = 0.94$)
 Pt ：引張鉄筋比
 Fc ：コンクリートの設計基準強度 (N/mm²)
 M/Qd ：せん断スパン比で、3以上のときは3とする。
 H ：孔径 (mm)
 D ：梁の全せい (mm)
 Pr ：MAXリンプレンK型の補強筋比
 r_{oy} ：MAXリンプレンK型の規格降伏点強度 (785N/mm²) ただし $r_{oy} \leq 25Fc$
 Ps ：有効範囲内の閉鎖形せん断補強筋のせん断補強筋比
 s_{oy} ：あばら筋の降伏応力度 (N/mm²)
 b ：梁幅 (mm)
 j ：応力中心間距離で、 $j = \frac{7}{8}d$ (mm) とする。
 d ：梁の有効せい (mm)

◎施工管理要領

- 施工に先立ち、設計図書又は、配筋図に基づき有効梁の補強計算を行ない、補強筋及び開孔位置を確認する。次にMAXリンプレンK型の枚数及び、必要あばら筋組数を確認する。
- MAXリンプレンK型には製品の型式が記載されたラベルが取付けてあるので、適用な製品であるか又、変形や傷がないか、スペーサー部にキャップが付いているか必ず確認する。キャップは開孔径別に色分けを施している。
- MAXリンプレンK型を直接地面に置くことは避け、各サイズ毎に整理し、雨・泥・油等で汚さないように保管する。

◎標準配筋図

1、MAXリンプレンK型の取り付け

- MAXリンプレンK型はあばら筋の内側に取り付ける。3枚以上の場合は、中子筋に取り付け、MAXリンプレンK型の間隔は50mm以上とする。

図2 MAXリンプレンK型の取り付け

2、開孔際あばら筋の基本配筋

- 開孔際あばら筋は、一般あばら筋と同種同形状とし、基本組数を開孔径が、 $H < 250$ のとき開孔際1組、 $250 \leq H$ のとき開孔際2組とする。(図3、4参照)
- 開孔際あばら筋は、開孔際から50mmのかぶり厚とし、2組目以上の場合50mmピッチとする。(図4参照)

3、孔上下部の補強

- 開孔径が $250 \leq H$ のときは孔上下にあばら筋の設計ピッチ以内 (X') で幅止め筋を設ける。(図4参照)
- 開孔径が $250 \leq H$ のとき、主筋とMAXリンプレンK型の端部間隔 (S) が300mm以上の場合は、孔上下にあばら筋の設計ピッチ以内 (X') であばら筋を設ける。(図5参照)
- 横筋は設計あばら筋径と同等径以上を用い、定着長さは開孔際から40d以上とする。(図4、5参照)

図3 開孔際あばら筋の基本配筋 H < 250

図4 開孔際あばら筋の基本配筋 250 ≤ H

図5 大開孔の補強配筋例

4、MAXリンプレンK型の取り付け向き

- MAXリンプレンK型は、必ずつめ部が上下方向になるように取り付ける。

図6 MAXリンプレンK型の取付け向き

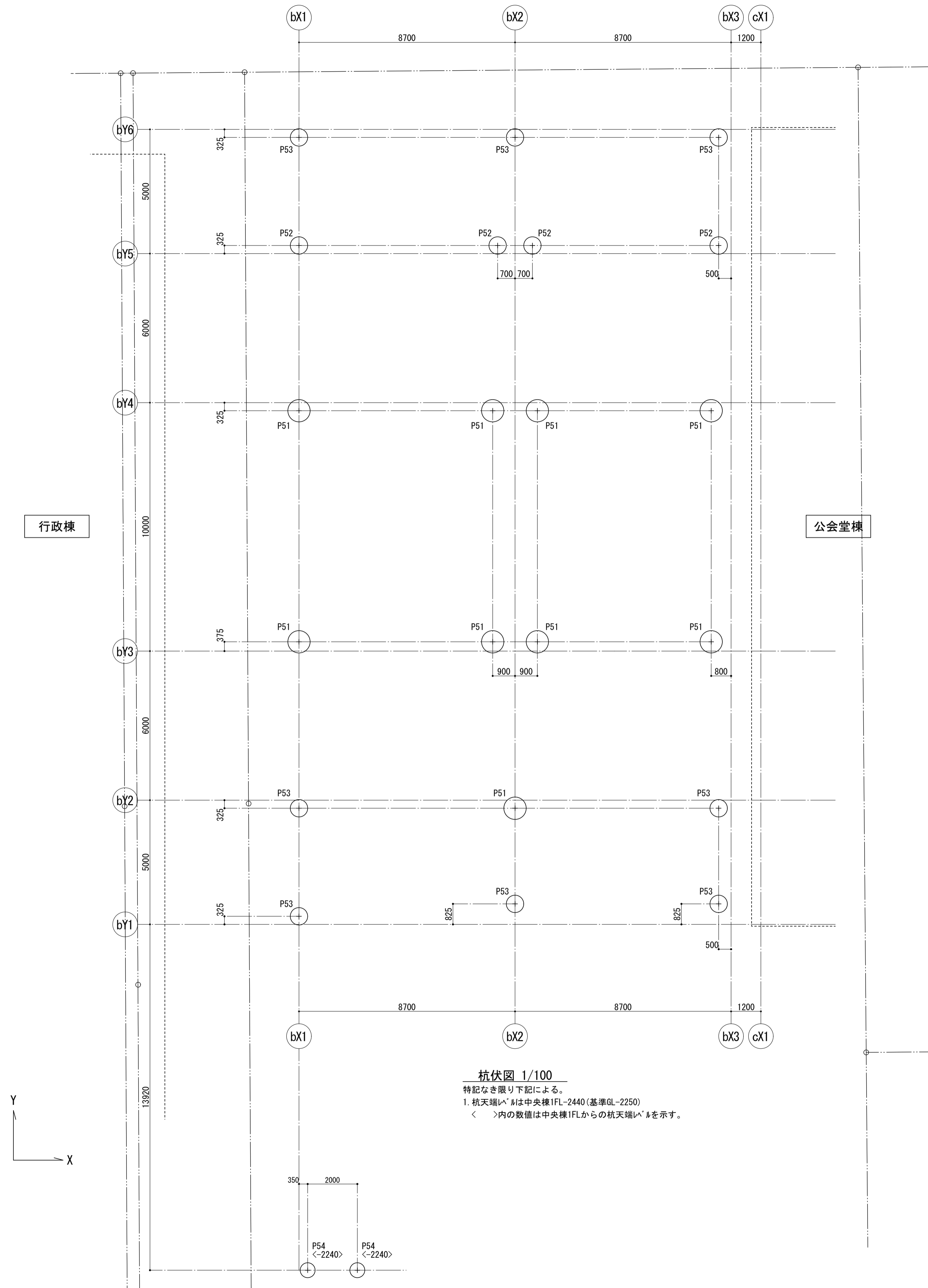
◎仕様

型式	開孔径 H	寸法			使用鉄筋	有効断面積 mm ²	キャップ色別
		W1	W2	W3			
K-0806R K-0808R K-0810R K-0813R	φ80	253	292	180	S6	89.6	赤
		264	298	180	S8	140.0	
		289	319	190	S10	201.8	
		296	334	200	S13	358.4	
K-1006R K-1008R K-1010R K-1013R	φ100	283	327	205	S6	89.6	黒
		294	334	205	S8	140.0	
		320	354	215	S10	201.8	
		327	369	225	S13	358.4	
K-1206R K-1208R K-1210R K-1213R	φ125	313	363	230	S6	89.6	緑
		325	369	230	S8	140.0	
		350	389	240	S10	201.8	
		357	404	250	S13	358.4	
K-1216R K-1506R K-1508R K-1510R	φ150	350	405	250	S16	561.7	白
		344	398	255	S6	89.6	
		355	404	255	S8	140.0	
		380	425	265	S10	201.8	
K-1513R K-1516R K-1706R K-1708R	φ175	388	440	275	S13	358.4	赤
		380	441	275	S16	561.7	
		374	433	280	S6	89.6	
		385	440	280	S8	140.0	
K-1710R K-1713R K-1716R K-2006R	φ175	411	460	290	S10	201.8	黒
		418	475	300	S13	358.4	
		411	476	300	S16	561.7	
		404	469	305	S6	89.6	
K-2008R K-2010R K-2013R K-2016R	φ200	416	475	305	S8	140.0	白
		441	495	315	S10	201.8	
		448	510	325	S13	358.4	
		441	511	325	S16	561.7	
K-2508R K-2510R K-2513R K-2516R	φ250	500	567	365	S8	140.0	黒
		525	587	375	S10	201.8	
		532	602	385	S13	358.4	
		525	603	385	S16	561.7	
K-3008R K-3010R K-3013R K-3016R	φ300	600	680	440	S8	140.0	白
		625	701	450	S10	201.8	
		632	716	460	S13	358.4	
		625	716	460	S16	561.7	
K-3508R K-3510R K-3513R K-3516R	φ350	675	758	490	S8	140.0	黒
		700	778	500	S10	201.8	
		707	793	510	S13	358.4	
		700	794	510	S16	561.7	
K-4010R K-4013R K-4016R K-4510R	φ400	761	849	550	S10	201.8	白
		768	864	560	S13	358.4	
		761	865	560	S16	561.7	
		850	941	610	S10	201.8	
K-4513R K-4516R K-5010R K-5013R	φ450	857	956	620	S13	358.4	黒
		850	957	620	S16	561.7	
		911	1,012	660	S10	201.8	
		918	1,027	670	S13	358.4	
K-5016R K-5510R K-5513R K-5516R	φ500	911	1,028	670	S16	561.7	白
		986	1,089	710	S10	201.8	
		993	1,104	720	S13	358.4	
		986	1,104	720	S16	561.7	
K-6010R K-6013R K-6016R K-6510R	φ600	1,046	1,160	760	S10	201.8	黒
		1,053	1,175	770	S13	358.4	
		1,046	1,176	770	S16	561.7	
		1,135	1,252	820	S10	201.8	
K-6513R K-6516R K-7010R K-7013R	φ650	1,142	1,267	830	S13	358.4	白
		1,135	1,268	830	S16	561.7	
		1,196	1,323	870	S10	201.8	
		1,203	1,338	880	S13	358.4	
K-7016R K-7510R K-7513R K-7516R	φ700	1,196	1,339	880	S16	561.7	黒
		1,257	1,394	920	S10	201.8	
		1,264	1,409	930	S13	358.4	
		1,257	1,409	930	S16	561.7	

鉄筋の材質 KSS785-K (認定番号 MSRB-0004)

有効断面積 (ar) は A-A部の断面 × √2

※コンクリート梁貫通補強は、本工法と同等の性能のものを採用することとする。



杭伏図 1/100

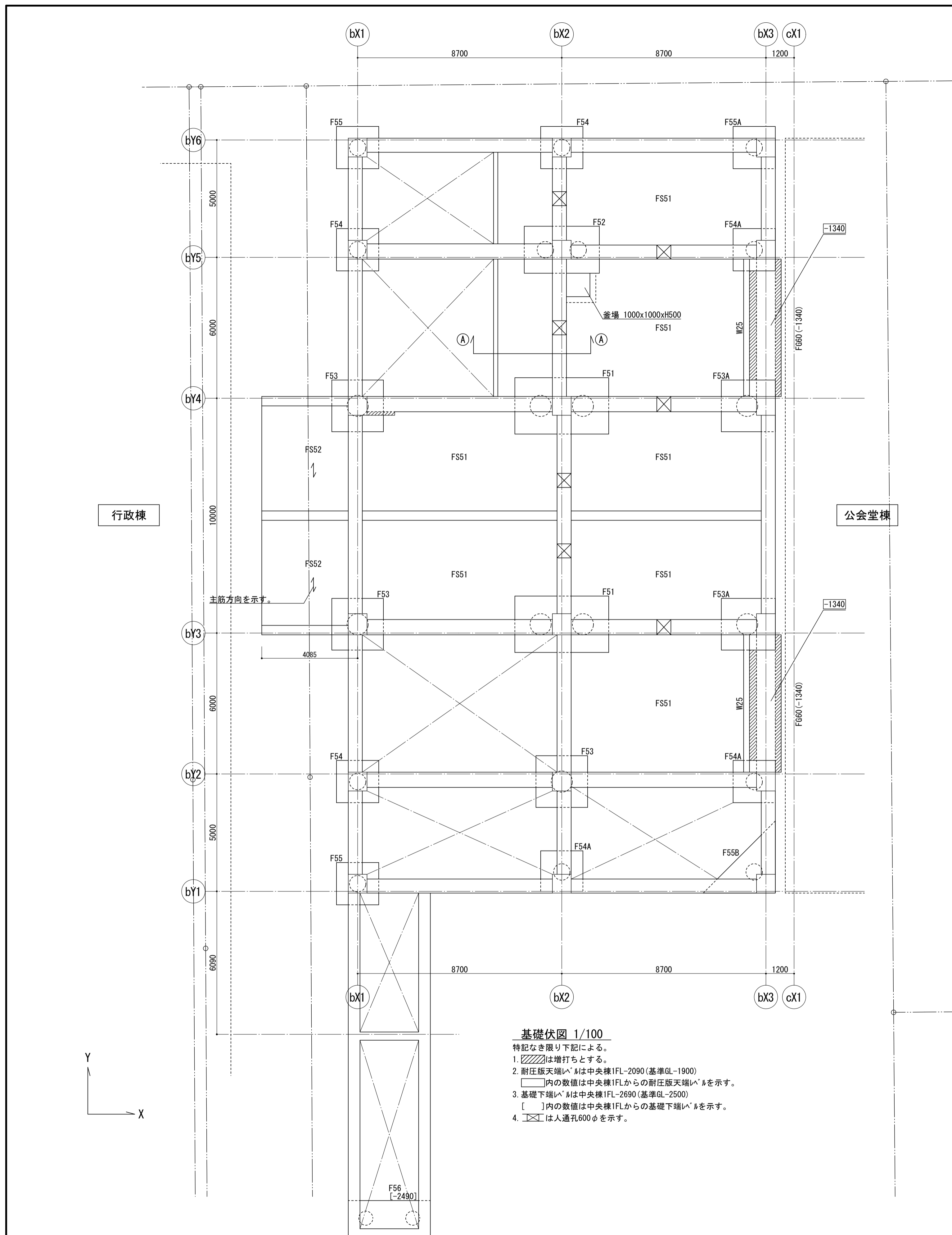
特記なき限り下記による。
 1. 杭天端は中央棟1FL-2440 (基準GL-2250)
 < >内の数値は中央棟1FLからの杭天端を示す。

杭リスト

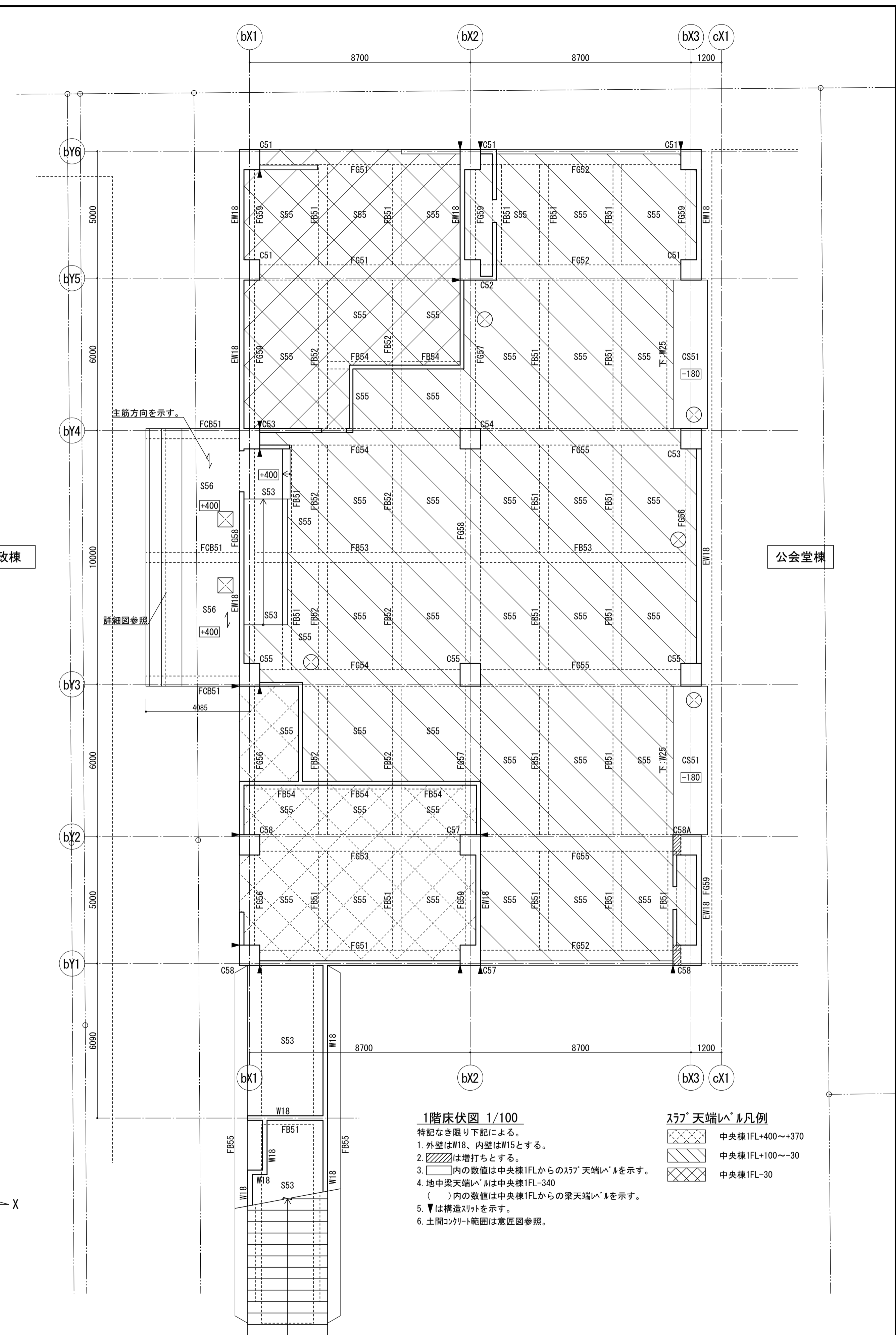
工法: プレキャスト杭大根固め工法 ($\alpha \geq 315$) とする。

符号	杭径	杭実長	上杭	中杭 1	中杭 2	下杭	本数	長期許容支持力	備考
P51	φ900	35m	SC杭105 φ900 L=5m (SKK490 t=12.0 105N)	PHCφ 1φ φ900 (A種) L=10m	PHCφ 1φ φ900 (A種) L=10m	PHCφ 1φ φ900 (A種) L=10m	9	Ra=3900kN/本	
P52	φ700	35m	SC杭105 φ700 L=5m (SKK490 t=12.0 105N)	PHCφ 1φ φ700 (B種) L=10m	PHCφ 1φ φ700 (A種) L=10m	PHCφ 1φ φ700 (A種) L=10m	4	Ra=2300kN/本	
P53	φ700	35m	SC杭105 φ700 L=5m (SKK490 t=14.0 105N)	PHCφ 1φ φ700 (B種) L=10m	PHCφ 1φ φ700 (A種) L=10m	PHCφ 1φ φ700 (A種) L=10m	8	Ra=2300kN/本	
P54	φ600	35m	SC杭105 φ600 L=5m (SKK490 t=12.0 105N)	PHCφ 1φ φ600 (B種) L=10m	PHCφ 1φ φ600 (A種) L=10m	PHCφ 1φ φ600 (A種) L=10m	2	Ra=1700kN/本	

計 23本



- 特記なき限り下記による。
 1. 耐圧版天端レベルは中央棟1FL-2090(基準GL-1900)
 2. 耐圧版天端レベルは中央棟1FLからの耐圧版天端レベルを示す。
 3. 基礎下地レベルは中央棟1FL-2690(基準GL-2500)
 4. 基礎下地レベルは中央棟1FLからの基礎下地レベルを示す。
 5. 人通孔600φを示す。

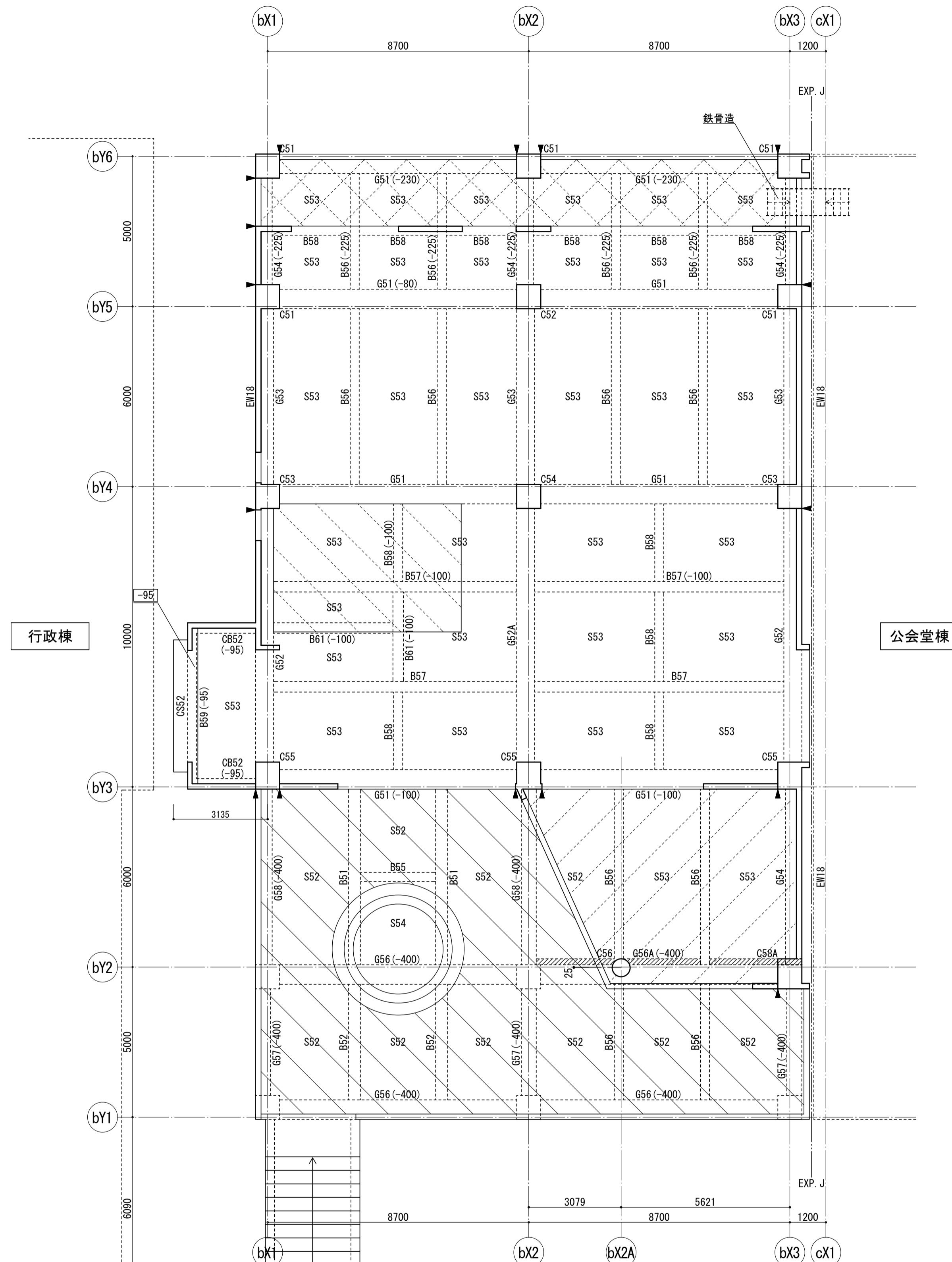


- 特記なき限り下記による。
 1. 外壁はW18、内壁はW15とする。
 2. 増打とする。
 3. 内の数値は中央棟1FLからのスラブ天端レベルを示す。
 4. 地中梁天端レベルは中央棟1FL-340
 ()内の数値は中央棟1FLからの梁天端レベルを示す。
 5. ▼は構造スリットを示す。
 6. 土間コンクリート範囲は意匠図参照。

スラブ天端レベル凡例

	中央棟1FL+400~+370
	中央棟1FL+100~-30
	中央棟1FL-30

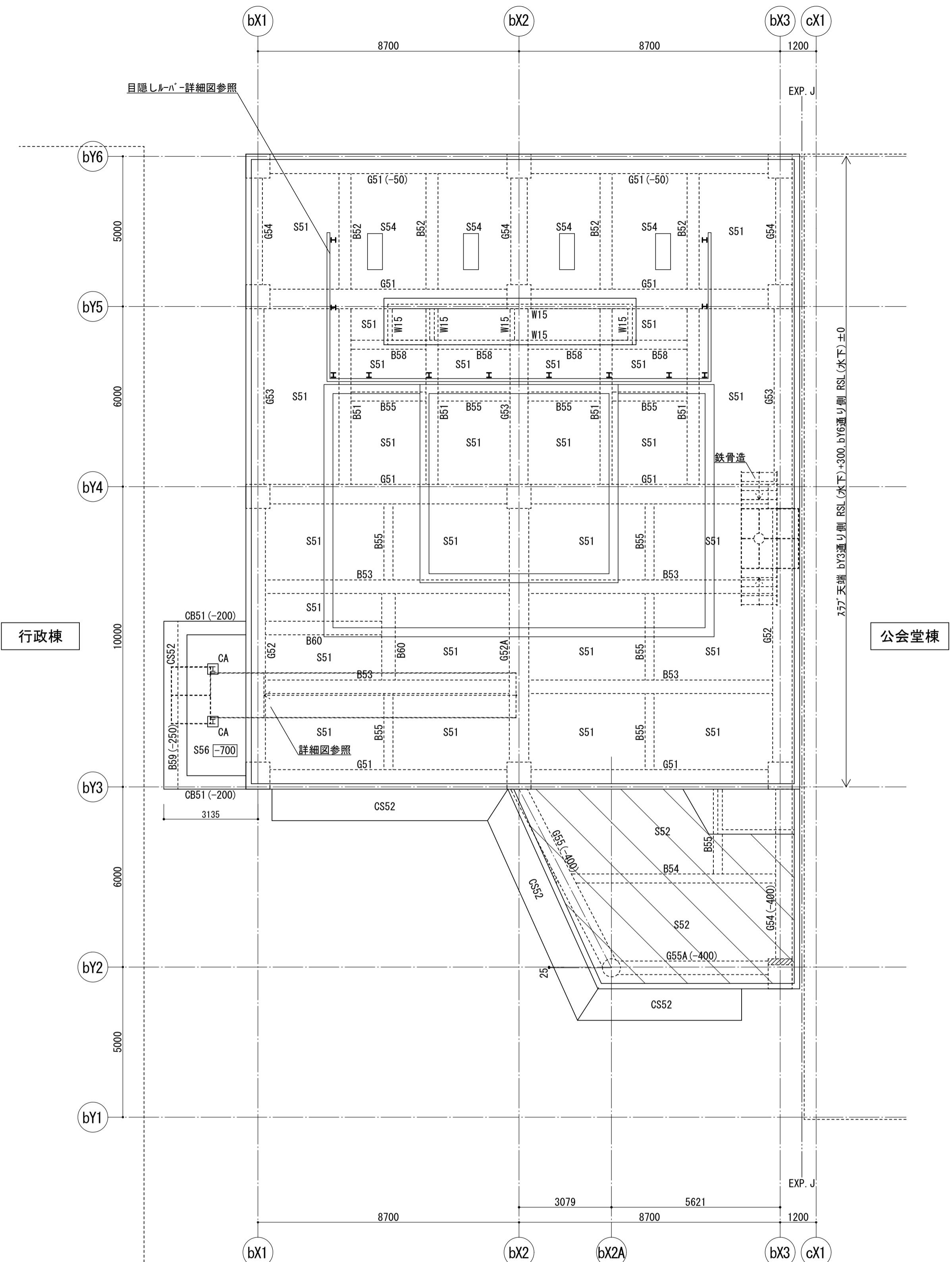
■注記	管理建築士	横浜市建築局	工 事 名	金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)
	一級建築士 登録第166404号 吉村久夫			
	年月日	平成28年8月	縮尺	A1=1/100 A3=1/200
	設計者	株式会社 国設計	図面枚数	1/1
	図面番号	S-C06	図面種類	構造



2階床伏図 1/100
 特記なき限り下記による。
 1. 外壁はW18、内壁はW15とする。
 2. 斜線は増打ちとする。
 3. 357°天端レールは2FL-20
 ()内の数値は2FLからの357°天端レールを示す。
 4. 梁天端レールは2FL-30
 ()内の数値は2FLからの梁天端レールを示す。
 5. 区民庁の範囲の小梁天端レールは357°勾配を考慮して決めること。
 ▼は構造スリットを示す。

357°天端レール凡例

斜線	2FL-100
斜線	2FL-170~200
斜線	2FL-150~300
斜線	2FL-250

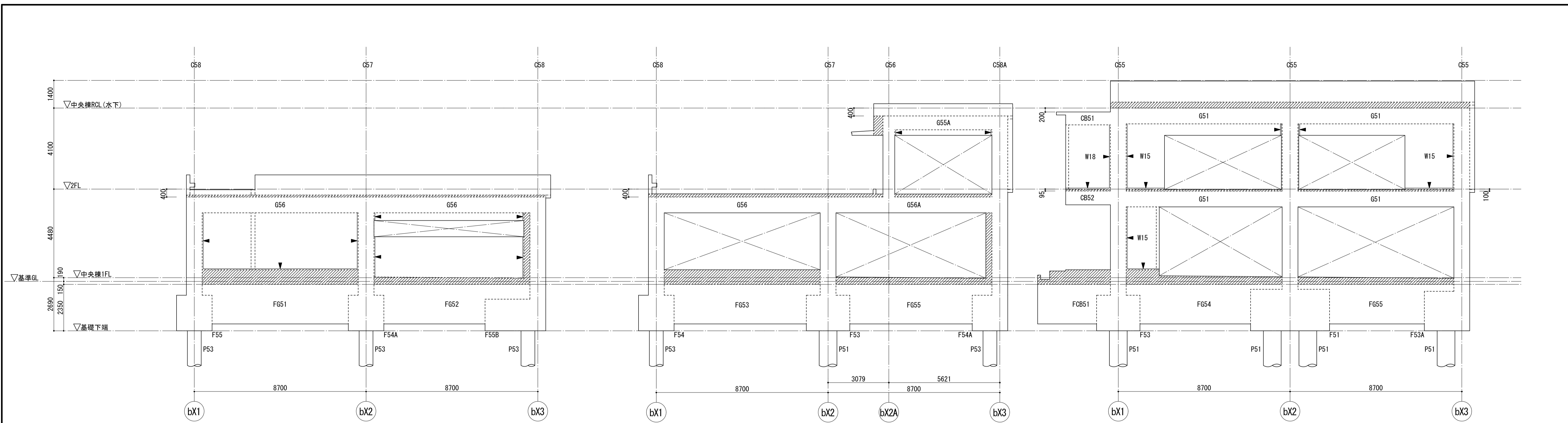


R2階床伏図 1/100
 特記なき限り下記による。
 1. 斜線は増打ちとする。
 2. ()内の数値は中央棟RCL(水下)からの357°天端レールを示す。
 3. 大梁天端レールは中央棟RCL(水下)±0
 ()内の数値は中央棟RCL(水下)からの大梁天端レールを示す。
 小梁天端レールは357°勾配を考慮して決めること。

357°天端レール凡例

斜線	中央棟RCL(水下)-320~400
----	--------------------

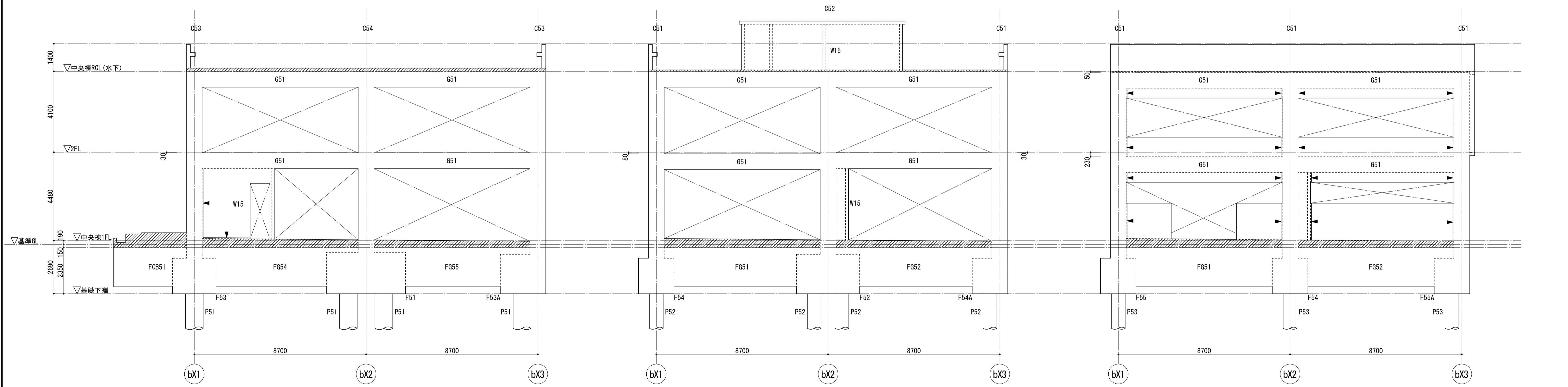
■注記)	管理建築士	横浜市建築局	工事名	金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)
	一級建築士 登録第166404号 吉村久夫			図面名称
	年月日	平成28年8月	縮尺	A1=1/100 A3=1/200
	設計者	株式会社 国設計	図面枚数	1/1
	図面番号	S-C07	図面種類	構造



bY1通り軸組図 1/100

bY2通り軸組図 1/100

bY3通り軸組図 1/100



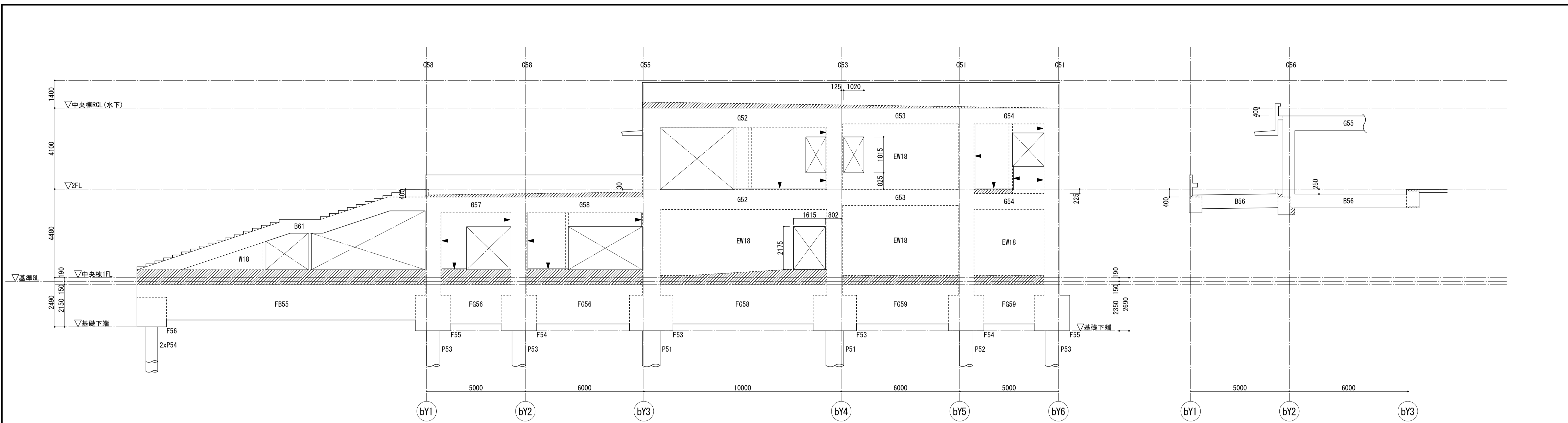
bY4通り軸組図 1/100

bY5通り軸組図 1/100

bY6通り軸組図 1/100

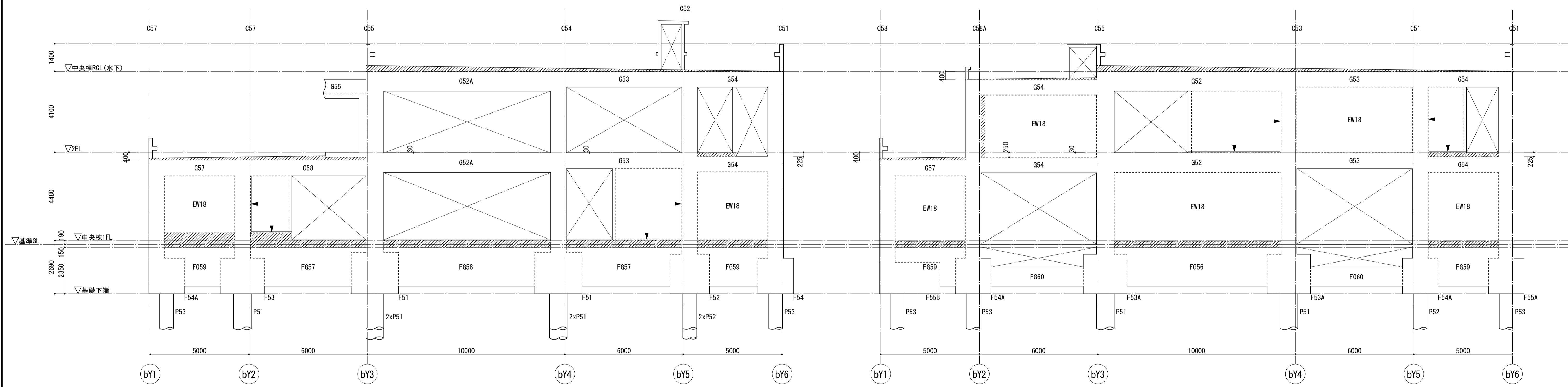
特記事項
 特記なき限り下記による。
 1. 外壁はW18、内壁はW15とする。
 2. 斜線は増打ちを示す。
 3. ◯印は構造列を示す。

■注記)	管理建築士	横浜市建築局	工事名	金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)
	一級建築士 登録第166404号 吉村久夫		図面名称	軸組図(1)
	年月日	平成28年8月	縮尺	A1=1/100 A3=1/200
	設計者	株式会社 国設計	施設番号	構造
			年度	完成年度
			図面枚数	図面枚数
			構造	S-C08



bX1通り軸組図 1/100

bX2A通り軸組図 1/100

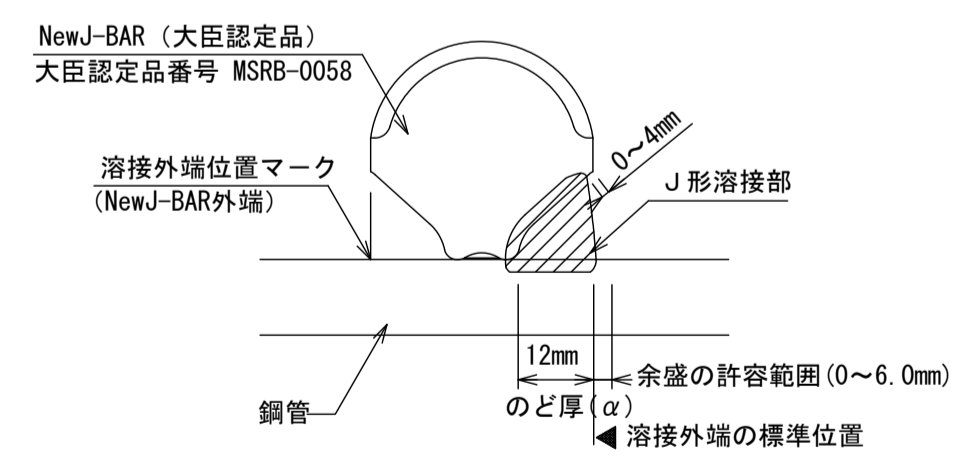
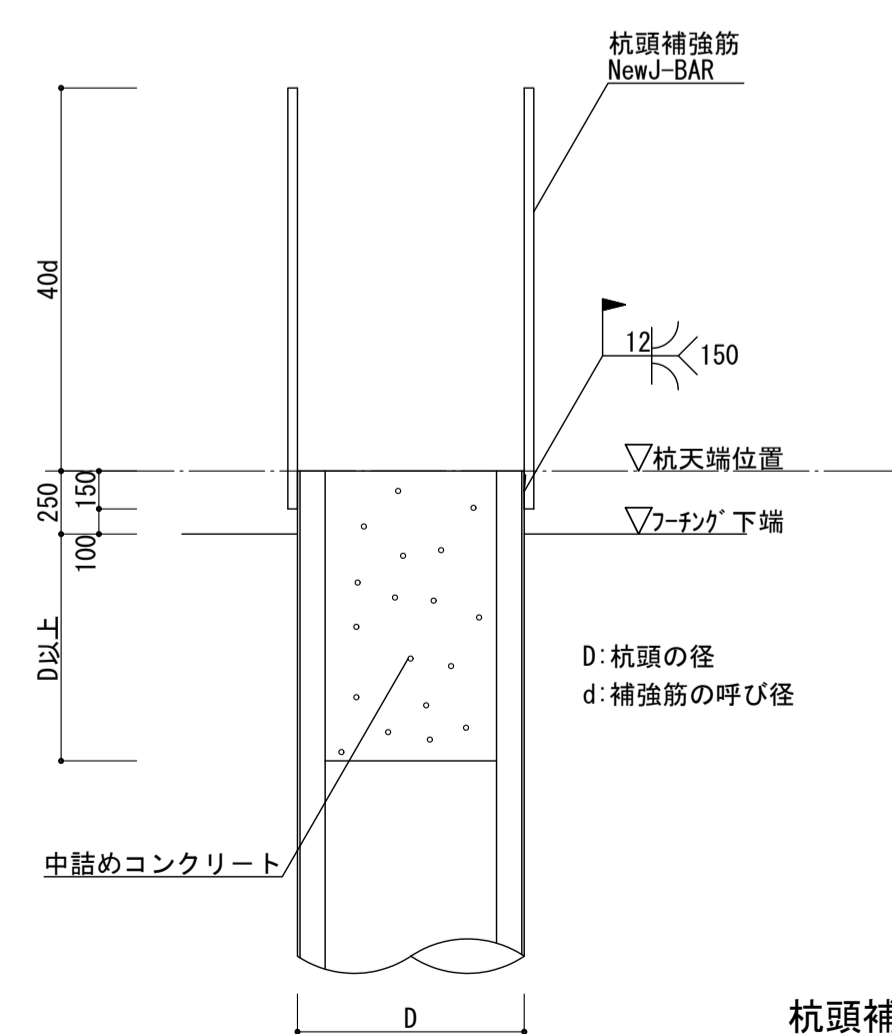
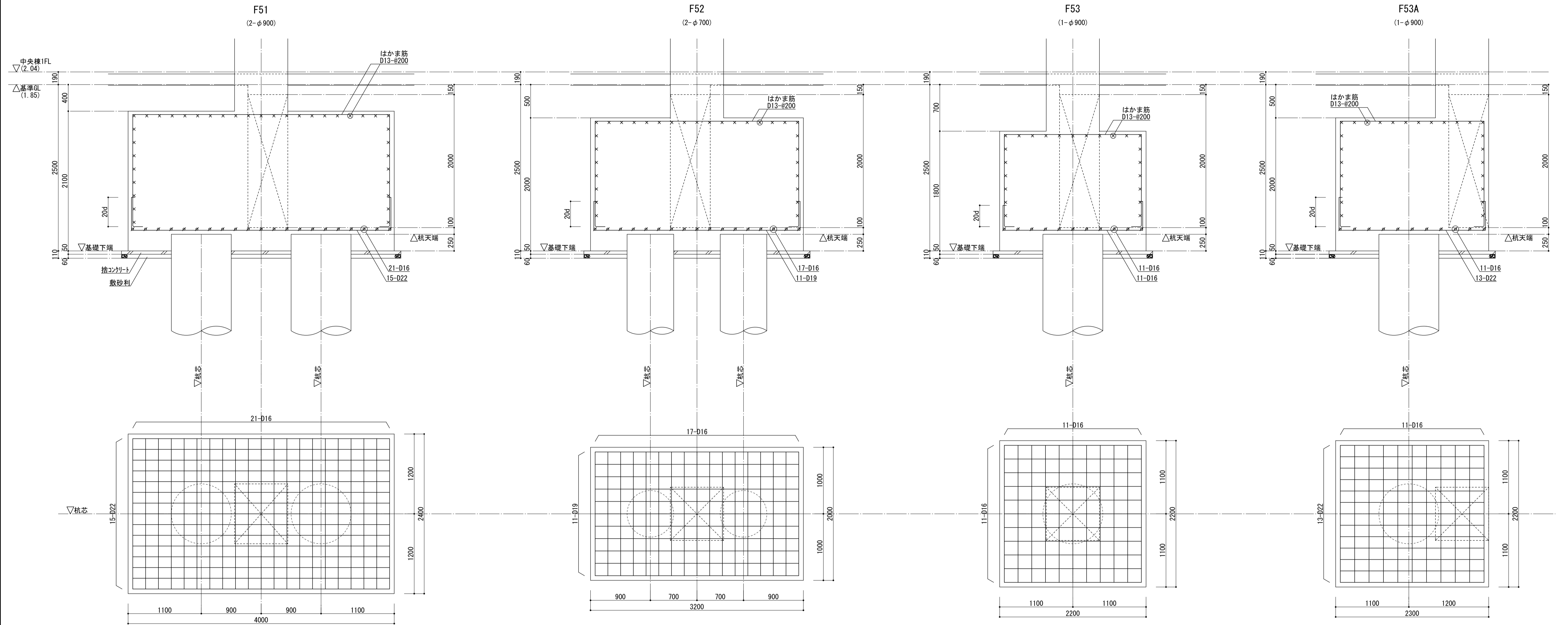


bX2通り軸組図 1/100

bX3通り軸組図 1/100

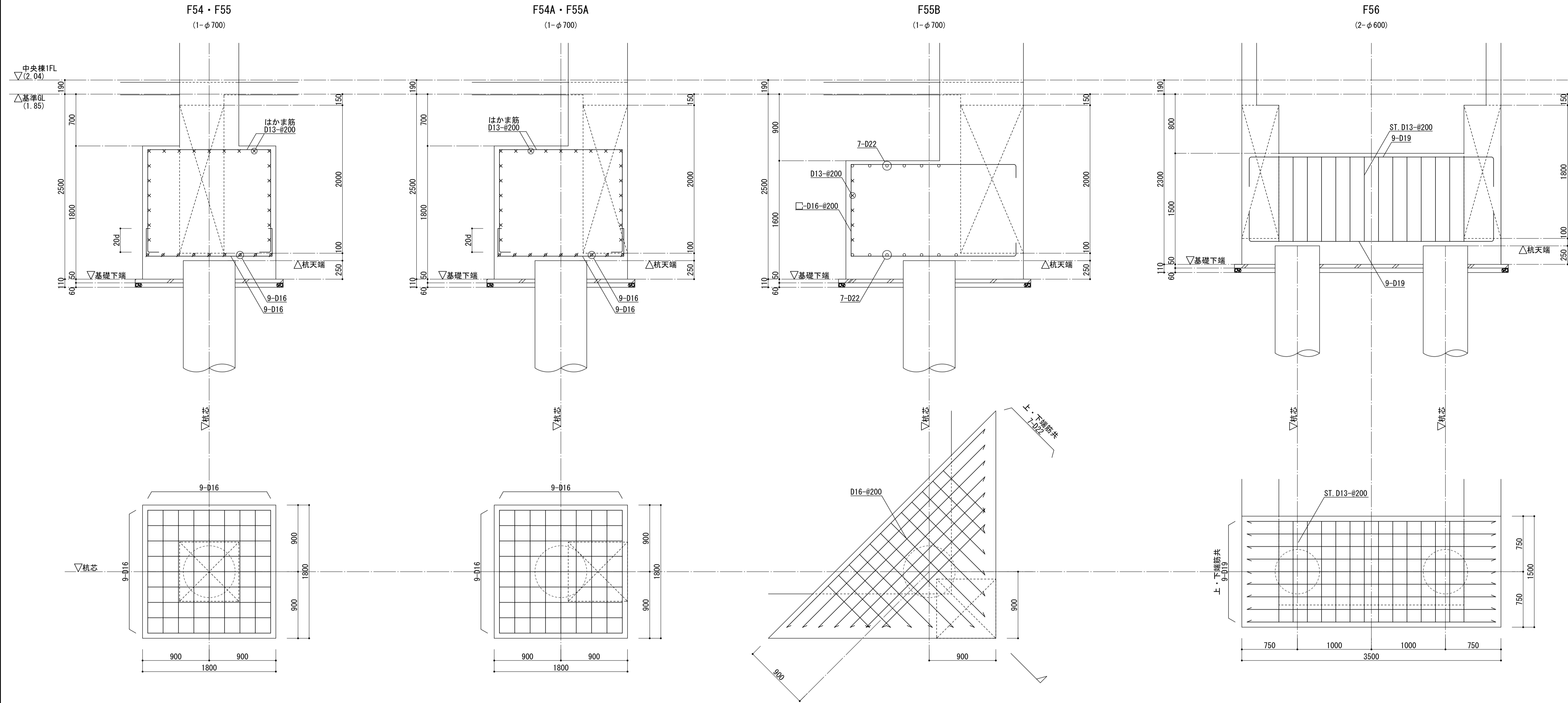
特記事項
 特記なき限り下記による。
 1. 外壁はW18、内壁はW15とする。
 2. 斜線は増打ちを示す。
 3. ◀印は構造スリットを示す。

■注記)	管理建築士	横浜市建築局	工事名	金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)
	一級建築士 登録第166404号 吉村久夫		図面名称	軸組図(2)
	年月日 平成28年8月	縮尺 A1=1/100 A3=1/200	設計者	株式会社 国設計
			図面枚数	図面枚数
			図面番号	S-C09



符号	杭頭補強筋
P51	21-WD38N
P52	16-WD38N
P53	18-WD38N
P54	13-WD38N

杭頭補強要領 1/30



■注記)

管理建築士 一級建築士 登録第166404号 吉村久夫	横浜市建築局	工事名 金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)
年月日 平成28年8月	縮尺 A1=1/30 A3=1/60	図面名称 基礎リスト(2)
設計者 株式会社 国設計	施設番号	構造
	年度	図面枚数
	棟数	図面番号 S-C11

地中梁断面リスト 1/30 特記なき限り 1. 中止筋 D10-#1000 2. 中吊り筋受け筋 D10-#1000 3. [] 内は加工の柱面からの寸法を示す。

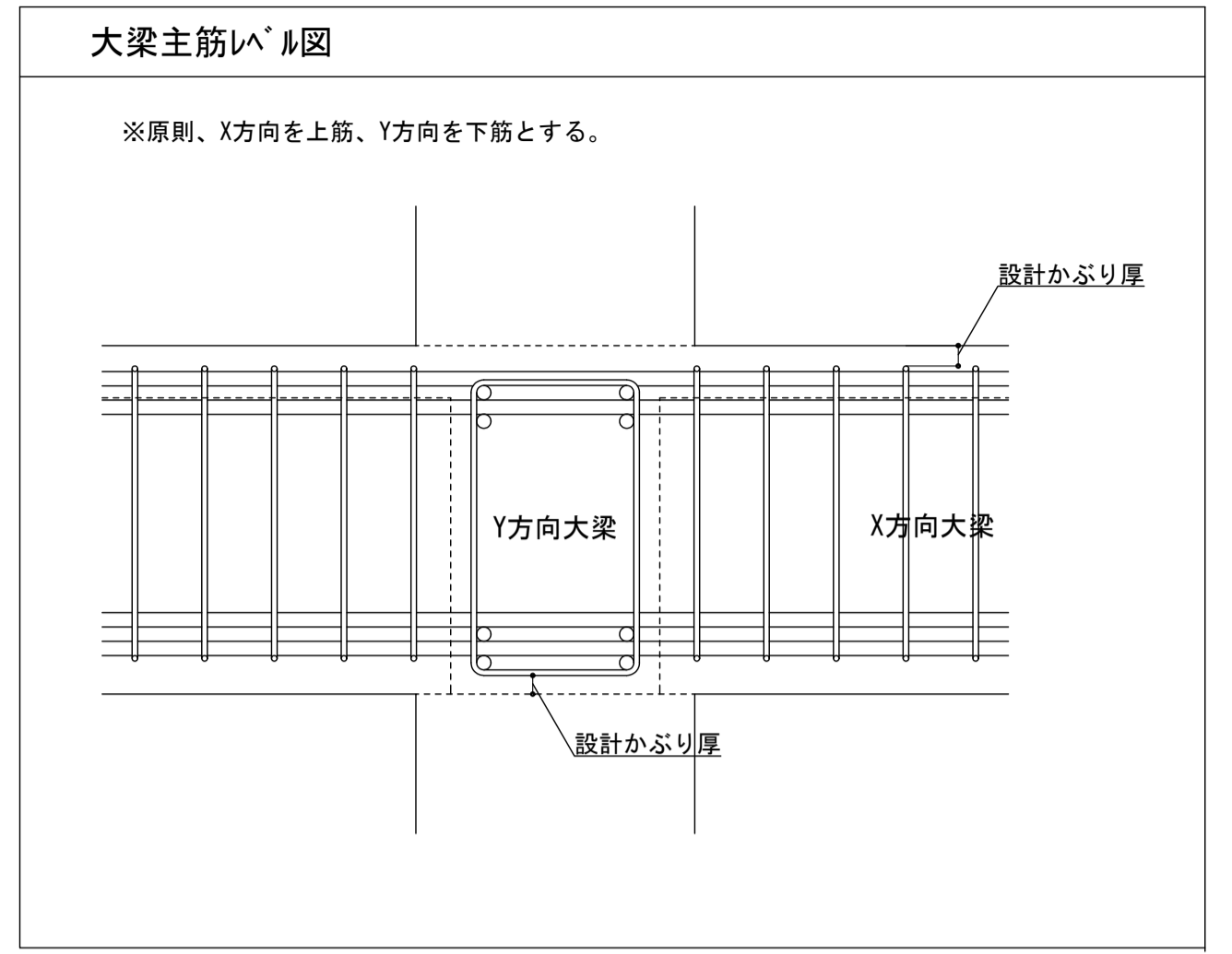
符号	FG51			FG52			FG53			FG54			FG55			FG56
	外端(bX1端)	中央	内端(bX2端)	内端(bX2端)	中央	外端(bX3端)	外端(bX1端)	中央	内端(bX2端)	外端(bX1端)	中央	内端(bX2端)	内端(bX2端)	中央	外端(bX3端)	全断面
位置																
▽基準GL																
断面	600 x 2 000			600 x 2 000			650 x 2 000			650 x 2 000			650 x 2 000			600 x 2 000
上筋	8-D29	6-D29	6-D29	6-D29	8-D29	10-D29	8-D29	7-D29	7-D29	11-D29	8-D29	8-D29	8-D29	13-D29	15-D29	5-D29
下筋	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	7-D29	6-D29	6-D29	6-D29	8-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	7-D29	5-D29
S T	□-D13-#150			□-D13-#150			□-D13-#150			□-D13-#150			□-D13-#100			□-D13-#150
腹筋	10-D13			10-D13			10-D13			10-D13			10-D13			10-D13
符号	FG57			FG58		FG59	FG60									
位置	bY2・bY5端	中央	bY3・bY4端	端部	中央	全断面	全断面									
▽基準GL																
断面	600 x 2 000			600 x 2 000		500 x 2 000	600 x 1 000									
上筋	6-D29	8-D29	10-D29	10-D29	6-D29	5-D29	6-D29									
下筋	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	8-D29	5-D29	6-D29									
S T	□-D13-#150			□-D13-#150		□-D13-#150	□-D13-#150									
腹筋	10-D13			10-D13		10-D13	4-D13									
符号	FB51	FB52	FB53		FB54	FB55		FB56	FCB51			地中梁上端増打要領 1/30				
位置	全断面	全断面	外端・中央	内端	全断面	端部	中央	全断面	全断面							
▽基準GL																
断面	350 x 650	350 x 650	400 x 2 000		300 x 500	550 x 1 800		500 x 1 800	400 x 2 000							
上筋	3-D22	4-D22	5-D25	6-D25	2-D19	6-D25	6-D25	4-D25	6-D25							
下筋	3-D22	4-D22	5-D25	4-D25	2-D19	8-D25	12-D25	4-D25	4-D25							
S T	□-D10-#150	□-D10-#150	□-D13-#200		□-D10-#200	□-D13-#200		□-D13-#200	□-D13-#200							
腹筋	2-D10	2-D10	10-D13		-	10-D13		10-D13	10-D13							

■注記

管理建築士 一級建築士 登録第166404号 吉村久夫	横浜市建築局	工事名 金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)
年月日 平成28年8月	縮尺 A1=1/30 A3=1/60	図面名称 地中梁断面リスト
設計者 株式会社 国設計	図面枚数 構造	図面番号 S-C12

柱断面リスト 1/30 特記なき限り 1. 巾止筋 D10-#500 2. S13はKSS785を示す。3. HOOPの加工方法は溶接型とする。(柱梁接合部は除く。) 4. 柱梁接合部は□-D13-#100とする。(地中梁部は□-D13-#150とする。) 5. 最上階柱頭の主筋は全180° フックとする。

符号	C51	C52	C53	C54	C55	C56	C57	C58	C58A
2階									
断面	800 x 800	800 x 800	800 x 800	800 x 800	800 x 900	600φ			800 x 800
主筋	18-D25	18-D25	18-D25	18-D25	26-D25	12-D22			16-D25
HOOP	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	○-D13-#100			□-D13-#100
1階									
断面	800 x 800	800 x 800	800 x 800	800 x 800	800 x 900		800 x 800	800 x 800	800 x 800
主筋	22-D25	18-D25	18-D25	18-D25	26-D25		24-D25	24-D25	26-D25
HOOP	□-S13-#100	□-S13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100		□-D13-#100	□-S13-#100	□-S13-#100



小梁断面リスト 1/30 特記なき限り 1. 巾止筋 D10-#1000 2. 中吊り筋受け筋 D10-#1000

符号	B51			B52		B53			B54		B55	B56	B57			B58	B59	
	外端	中央	内端	内端・中央	外端	外端	中央	内端	端部	中央	全断面	全断面	外端	中央	内端	全断面	全断面	
位置																		
断面	400 x 700			400 x 700		500 x 800			350 x 700		300 x 500	300 x 700	350 x 850			300 x 500	300 x 600	
上筋	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	4-D25	5-D25	6-D25	8-D25	3-D22	3-D22	3-D19	3-D22	3-D22	4-D22	6-D22	2-D19	3-D22	
下筋	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25	6-D25	7-D25	6-D25	4-D22	5-D22	3-D19	3-D22	4-D22	5-D22	4-D22	2-D19	3-D22	
S T	□-D13-#200			□-D13-#200		□-D13-#200			□-D10-#150		□-D10-#200	□-D10-#200	□-D10-#150			□-D10-#200	□-D10-#200	
腹筋	2-D10			2-D10		2-D10			2-D10		-	2-D10	2-D10			-	2-D10	
符号	B60		B61														CB51	CB52
位置	全断面		全断面														全断面	全断面
断面	450 x 650		350 x 700														450 x 650	350 x 700
上筋	5-D25		5-D25														5-D25	5-D25
下筋	4-D25		4-D25														4-D25	4-D25
S T	□-D13-#200		□-D10-#150														□-D13-#200	□-D10-#150
腹筋	2-D10		2-D10														2-D10	2-D10

■注記)

管理建築士 一級建築士 登録第166404号 吉村久夫	横浜市建築局	工事名 金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)
年月日 平成28年8月	縮尺 A1=1/30 A3=1/60	図面名称 柱・小梁断面リスト
設計者 株式会社 国設計	施設番号	構造
	年度	図面枚数
	棟号	図面番号
	構造	S-C13

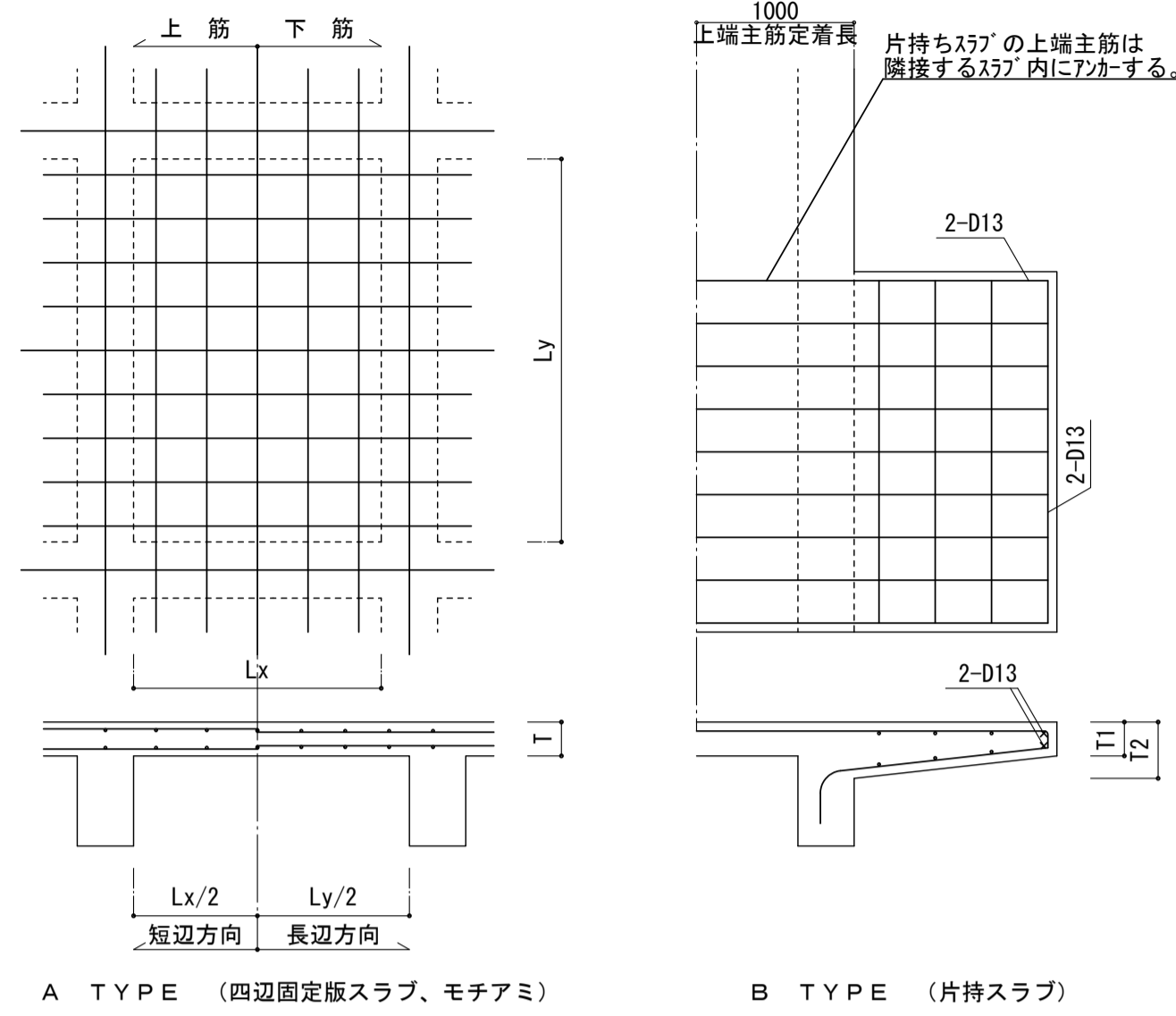
大梁断面リスト 1/30

特記なき限り 1. 巾止筋 D10-#1000 2. 中吊り筋受け筋 D10-#1000 3. [] 内は加付の柱面からの寸法を示す。

符号	G51			G52			G52A			G53			G54	G55			G55A		
	外端	中央	内端	Y3端	中央	Y4端	Y3端	中央	Y4端	Y4端	中央	Y5端	全断面	Y2端	中央	Y3端	全断面		
R階																			
断面	650 x 800			650 x 1 000			650 x 1 000			600 x 800			550 x 800	500 x 750			450 x 700		
上筋	8-D25	8-D25	13-D25	9-D25	9-D25	13-D25	10-D25	8-D25	13-D25	9-D25	8-D25	8-D25	5-D25	4-D25	5-D25	8-D25	5-D22		
下筋	8-D25	8-D25	11-D25	6-D25	8-D25	8-D25	9-D25	12-D25	9-D25	6-D25	6-D25	6-D25	5-D25	4-D25	5-D25	5-D25	4-D22		
S T	□-D13-#100			□-D13-#100			□-D13-#100			□-D13-#200			□-D13-#200	□-D13-#200			□-D13-#200		
腹筋	2-D10			4-D10			4-D10			2-D10			2-D10	2-D10			2-D10		
2階														(Diagrams for G55 and G55A are omitted as they are covered by the full section diagram in the R floor row)					
断面	650 x 800			600 x 1 000			600 x 1 000			600 x 800			550 x 800						
上筋	11-D25	7-D25	11-D25	9-D25	6-D25	9-D25	9-D25	6-D25	9-D25	7-D25	6-D25	7-D25	6-D25						
下筋	11-D25	7-D25	11-D25	6-D25	8-D25	6-D25	6-D25	8-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	5-D25						
S T	□-D13-#150			□-D13-#200			□-D13-#200			□-D13-#200			□-D13-#200						
腹筋	2-D10			4-D10			4-D10			2-D10			2-D10						
符号	G56			G56A			G57	G58											
位置	外端	中央	内端	Y2端	中央	Y3端	全断面	Y2端	中央	Y3端									
R階	(Diagrams for G56, G56A, G57, and G58 are omitted as they are covered by the full section diagram in the 2 floor row)																		
断面				650 x 800			650 x 900			500 x 800	500 x 800								
上筋				8-D25	9-D25	13-D25	13-D25	9-D25	13-D25	5-D25	5-D25	5-D25	7-D25						
下筋				7-D25	8-D25	8-D25	7-D25	9-D25	8-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25						
S T	□-D13-#100			□-D13-#100			□-D13-#200	□-D13-#200											
腹筋	2-D10			4-D10			2-D10	2-D10											

■注記)

管理建築士 一級建築士 登録第166404号 吉村久夫	横浜市建築局	工事名 金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)
年月日 平成28年8月	縮尺 A1=1/30 A3=1/60	図面名称 大梁断面リスト
設計者 株式会社 国設計	図面枚数 構造	図面番号 S-C14



スラブリスト

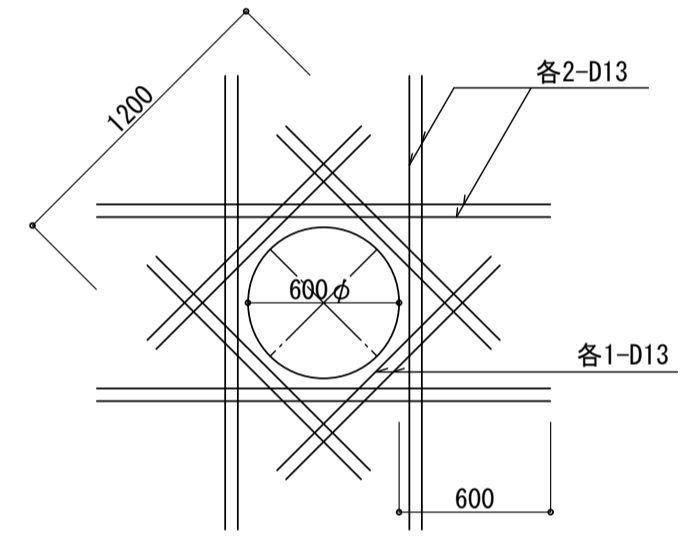
符号	タイプ	スラブ厚	位置	短辺方向		長辺方向		備考
				全断面	全断面	全断面	全断面	
S51	A	150	上筋 下筋	D13 -@200 D10D13-@200	D10D13-@200	D10 -@200	D10 -@200	モチアミ
S52	A	150	上筋 下筋	D10D13-@200	D10 -@200	D10 -@200	D10 -@200	モチアミ
S53	A	150	上筋 下筋	D10D13-@200	D10 -@200	D10 -@250	D10 -@250	モチアミ
S54	A	150	上筋 下筋	D13 -@200	D13 -@200	D13 -@200	D13 -@200	モチアミ
S55	A	170	上筋 下筋	D10D13-@200	D10 -@200	D10 -@200	D10 -@200	モチアミ
S56	A	200	上筋 下筋	D13 -@150	D13 -@150	D13 -@200	D13 -@200	モチアミ

片持スラブリスト

符号	タイプ	スラブ厚	位置	短辺方向		長辺方向		備考
				全断面	全断面	全断面	全断面	
CS51	B	200	上筋 下筋	D13 -@100	D13 -@250	D13 -@250	D13 -@250	先端 2-D13
GS52	B	150	上筋 下筋	D13 -@200	D10 -@200	D10 -@200	D10 -@200	先端 2-D13

耐圧版リスト

符号	タイプ	スラブ厚	位置	短辺方向		長辺方向		備考
				全断面	全断面	全断面	全断面	
FS51	A	250	上筋 下筋	D13 -@200	D13 -@250	D13 -@250	D13 -@250	耐圧版
FS52	A	250	上筋 下筋	D13 -@100	D13 -@200	D13 -@200	D13 -@200	耐圧版

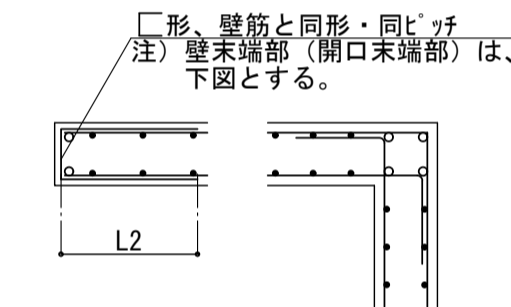


床開口補強要領 1/30

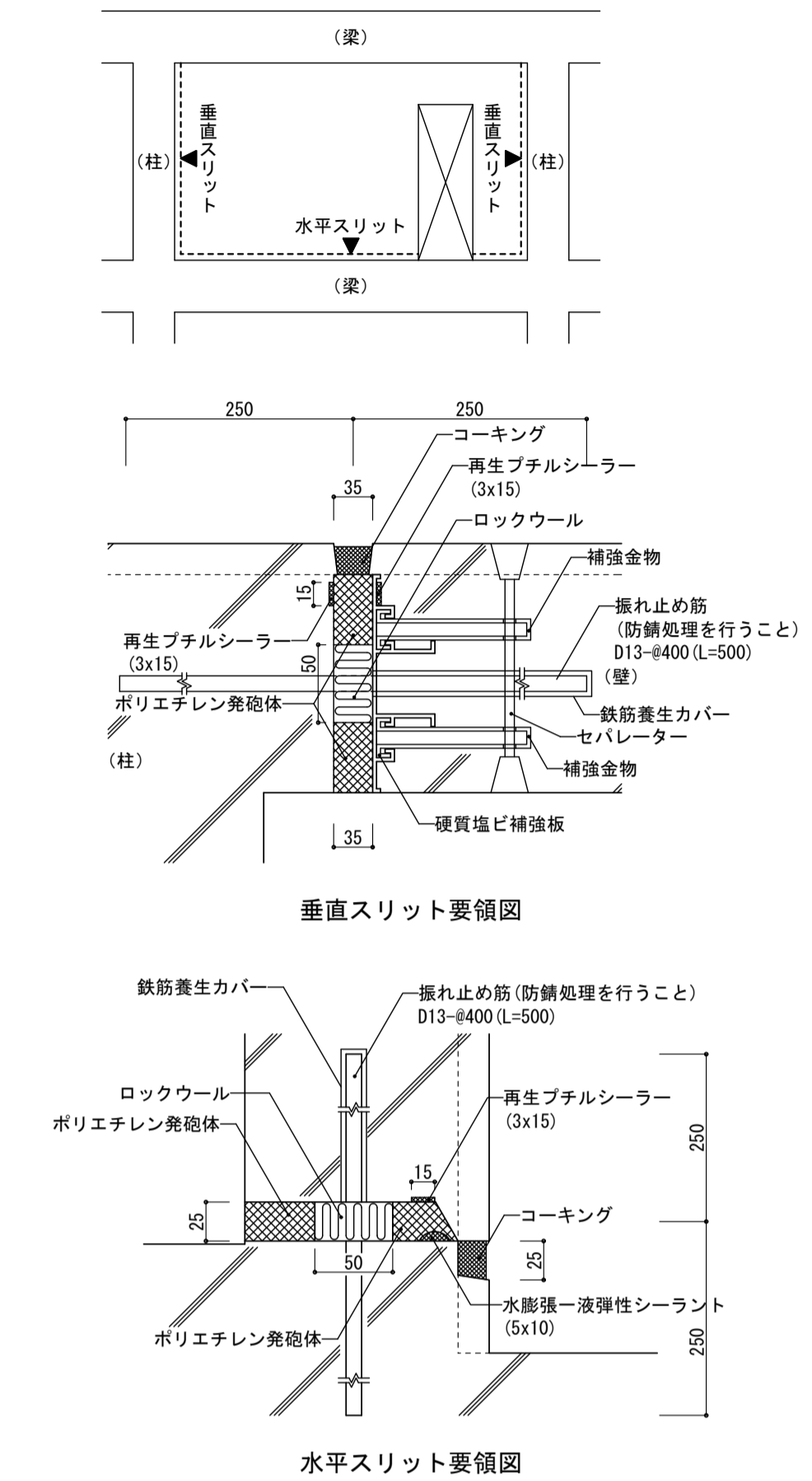
壁リスト 1/30 特記なき限り 1. 巾止筋 D10-@1000以内とする。

EW18		開口補強筋 縦筋 4-D16 横筋 4-D16 斜筋 1-D13
W25		開口補強筋 縦筋 2-D16 横筋 2-D16 斜筋 2-D13
W18		開口補強筋 縦筋 2-D16 横筋 2-D16 斜筋 1-D13
W15		開口補強筋 縦筋 2-D13 横筋 2-D13 斜筋 1-D13
CBW		開口補強筋 縦筋 1-D13 横筋 1-D13 斜筋 -

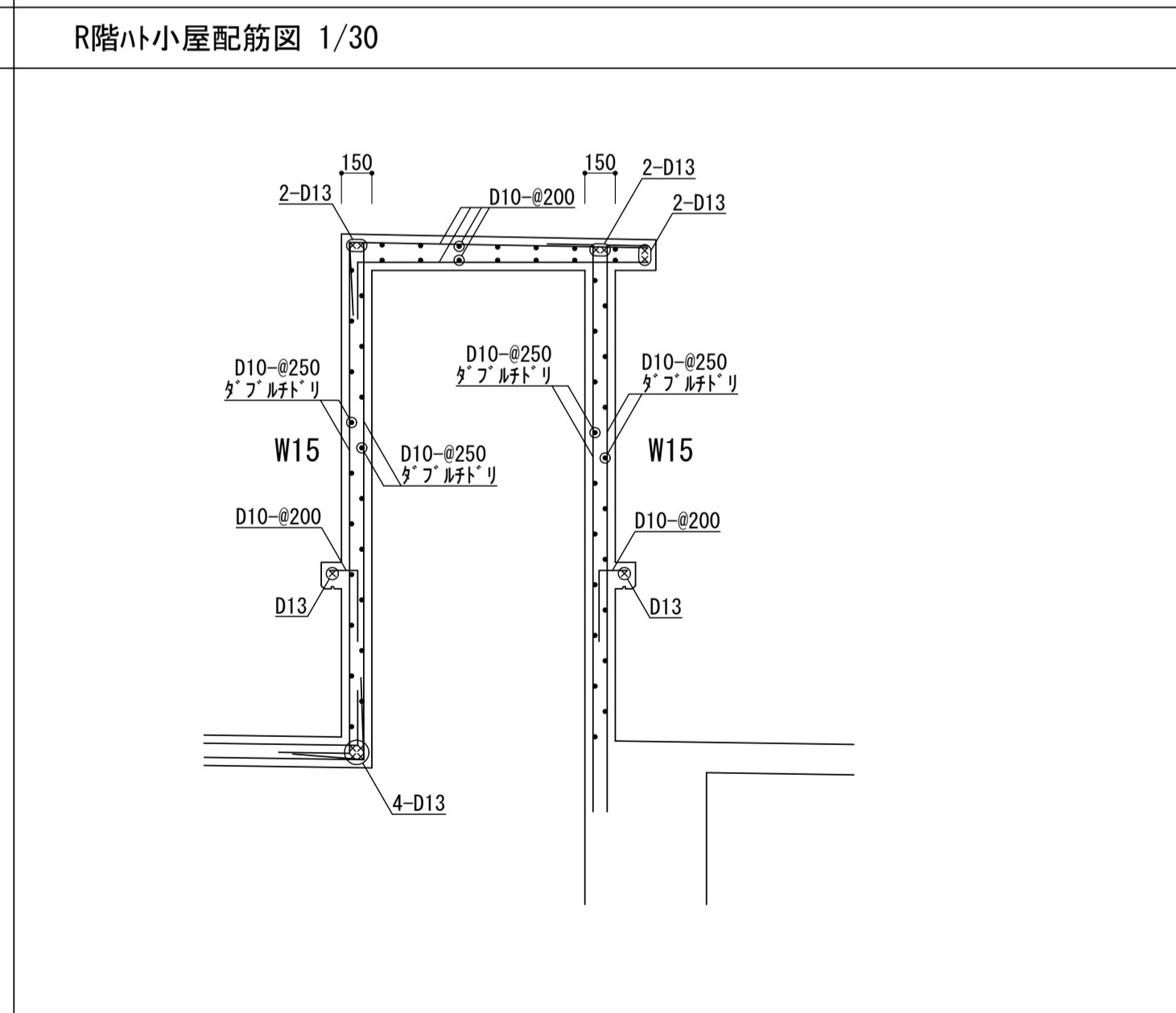
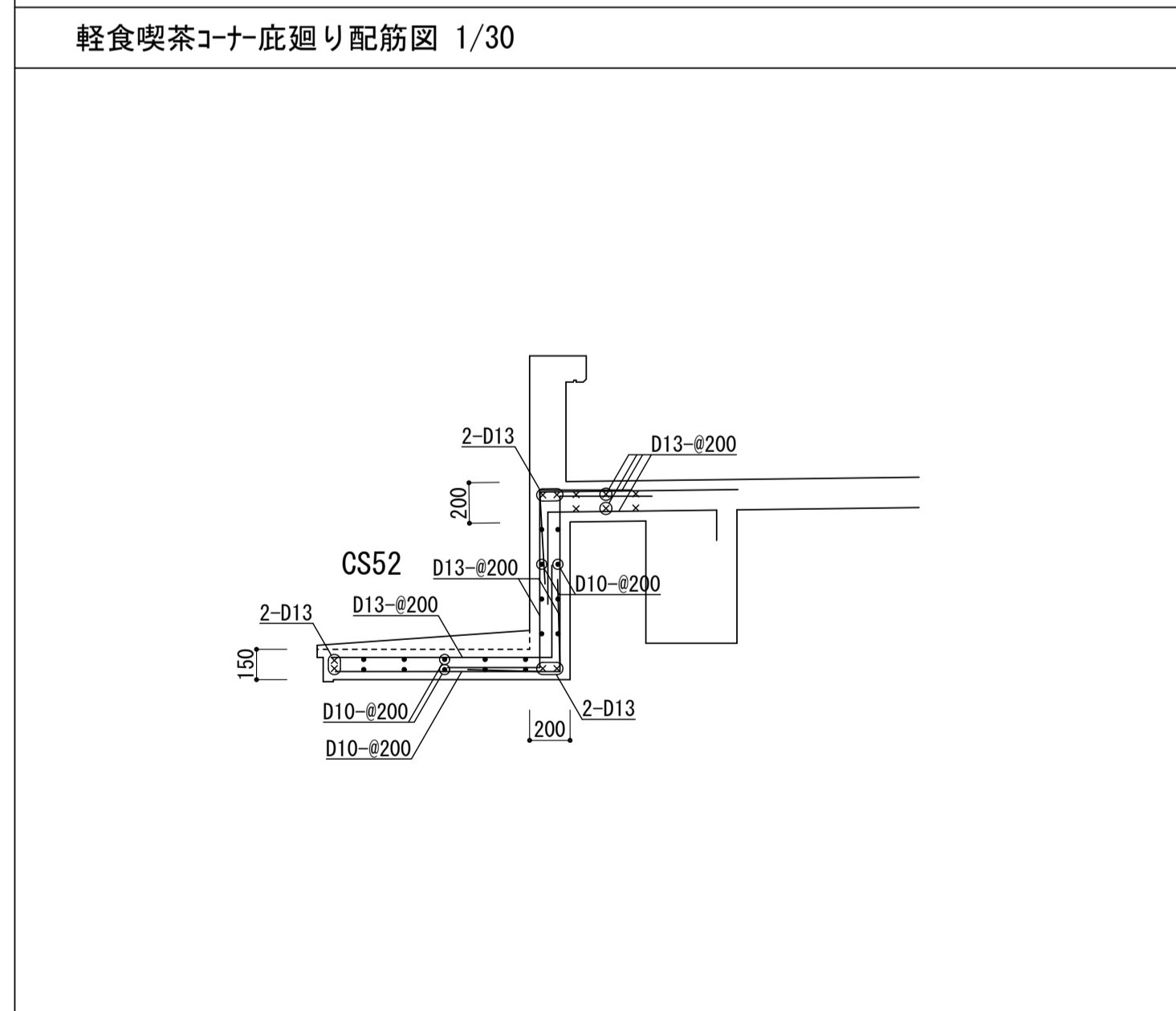
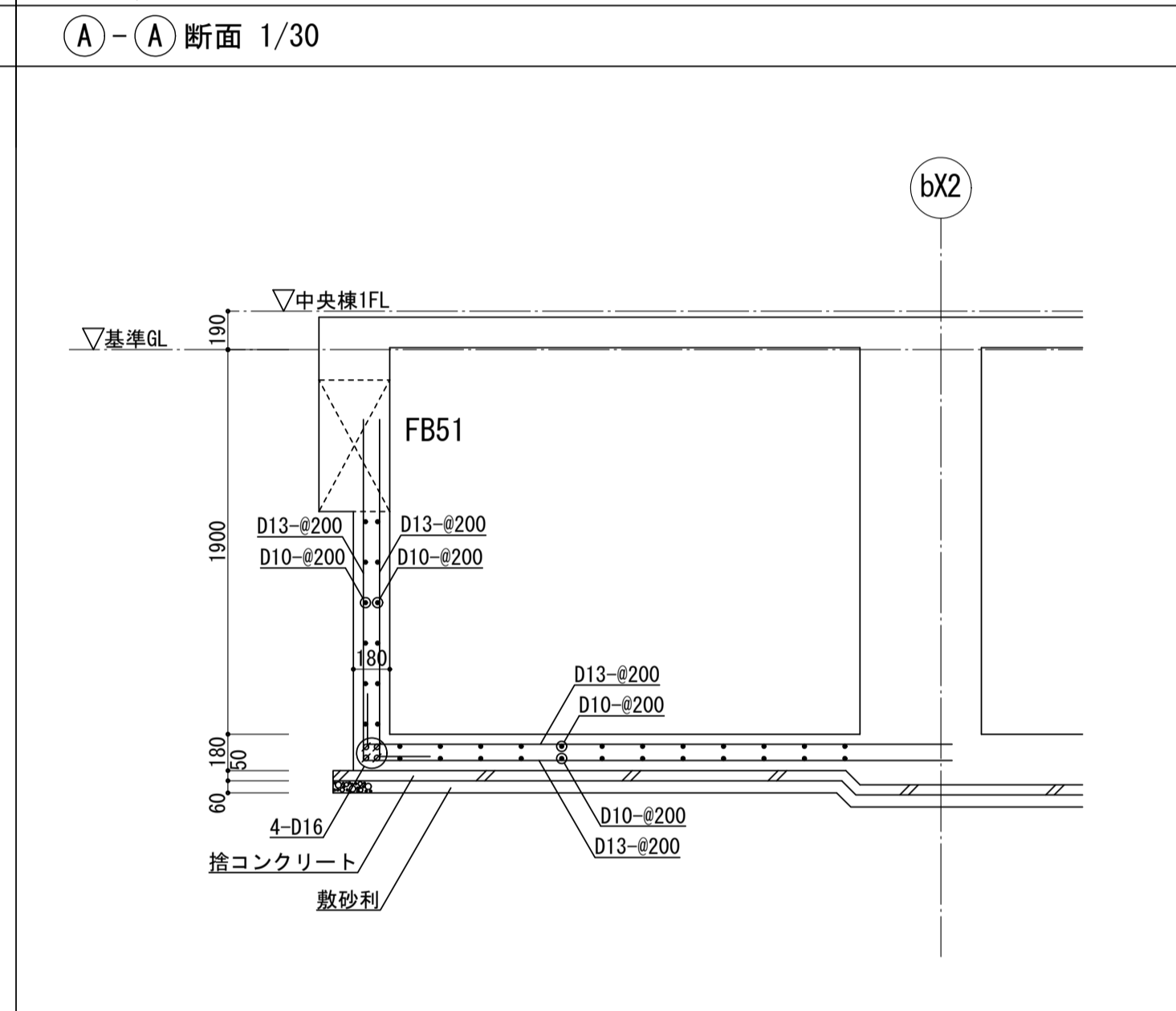
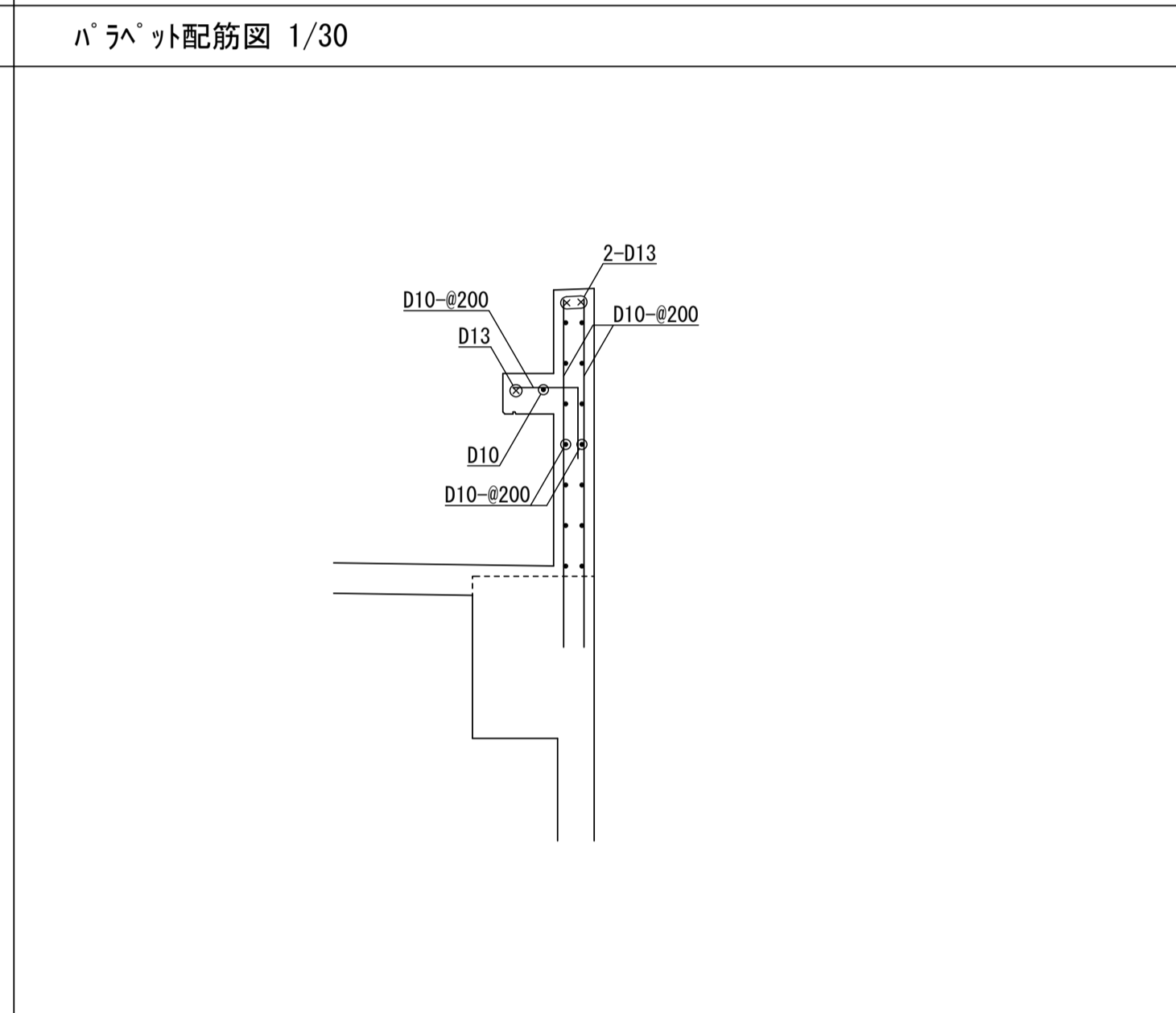
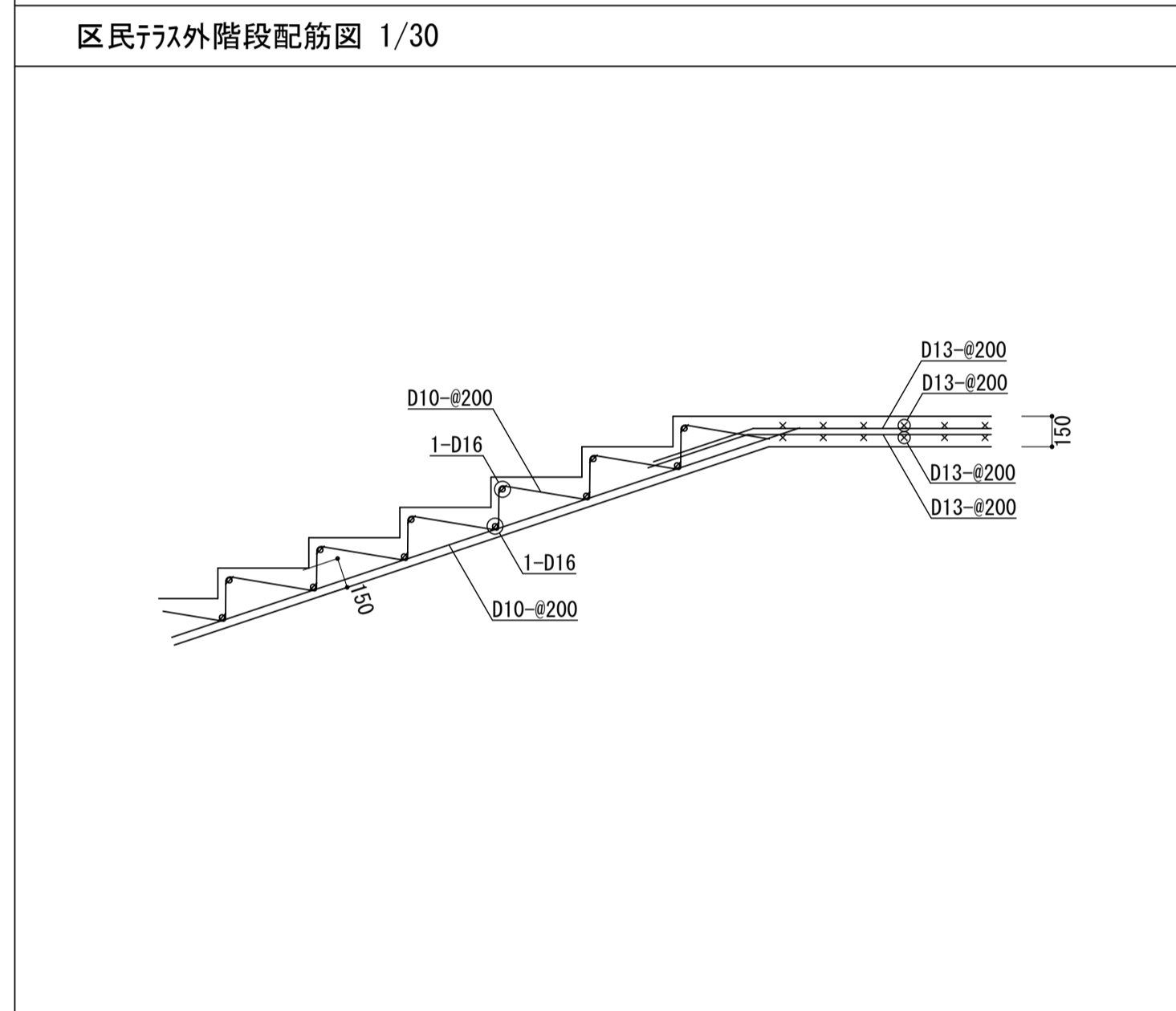
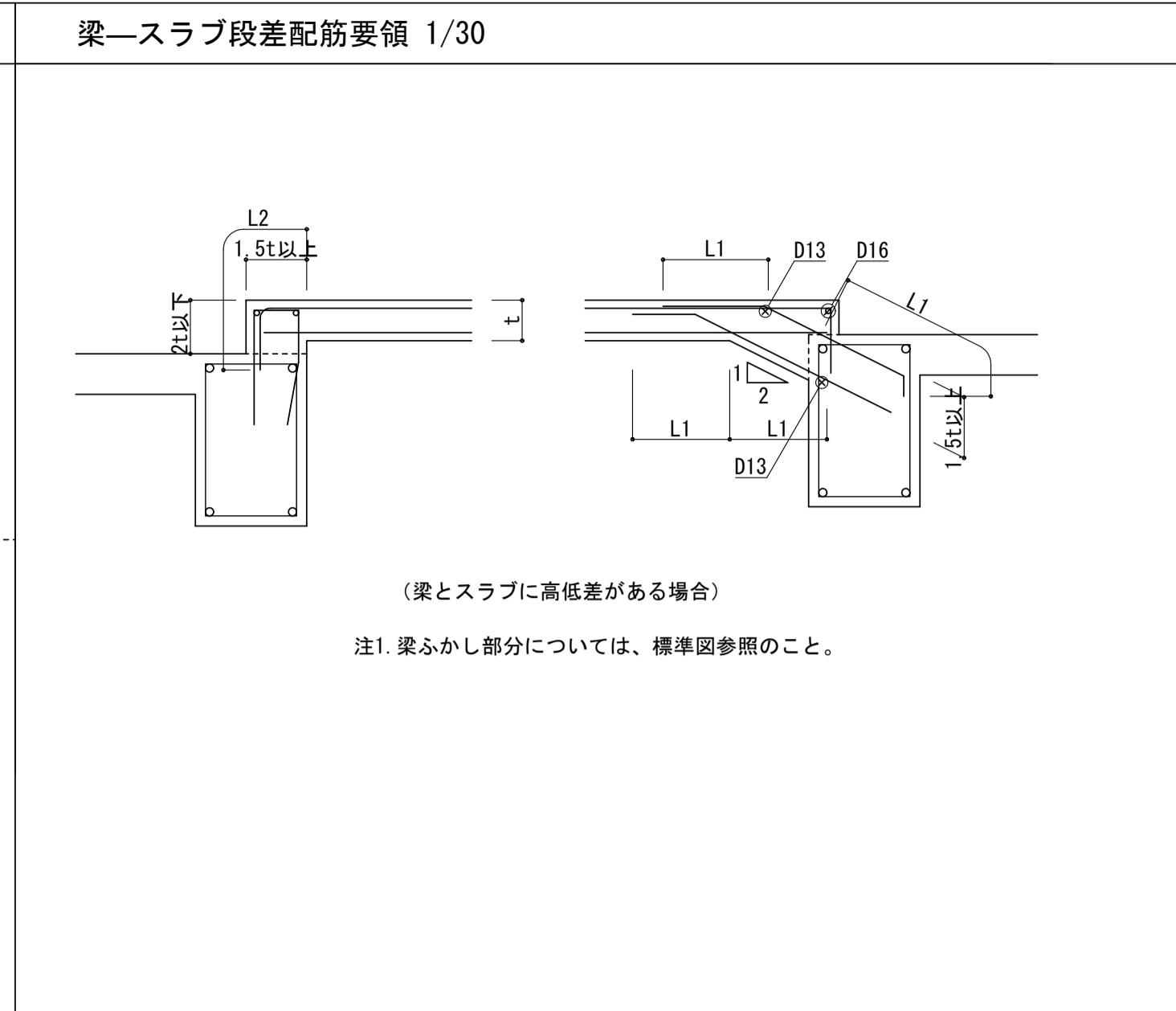
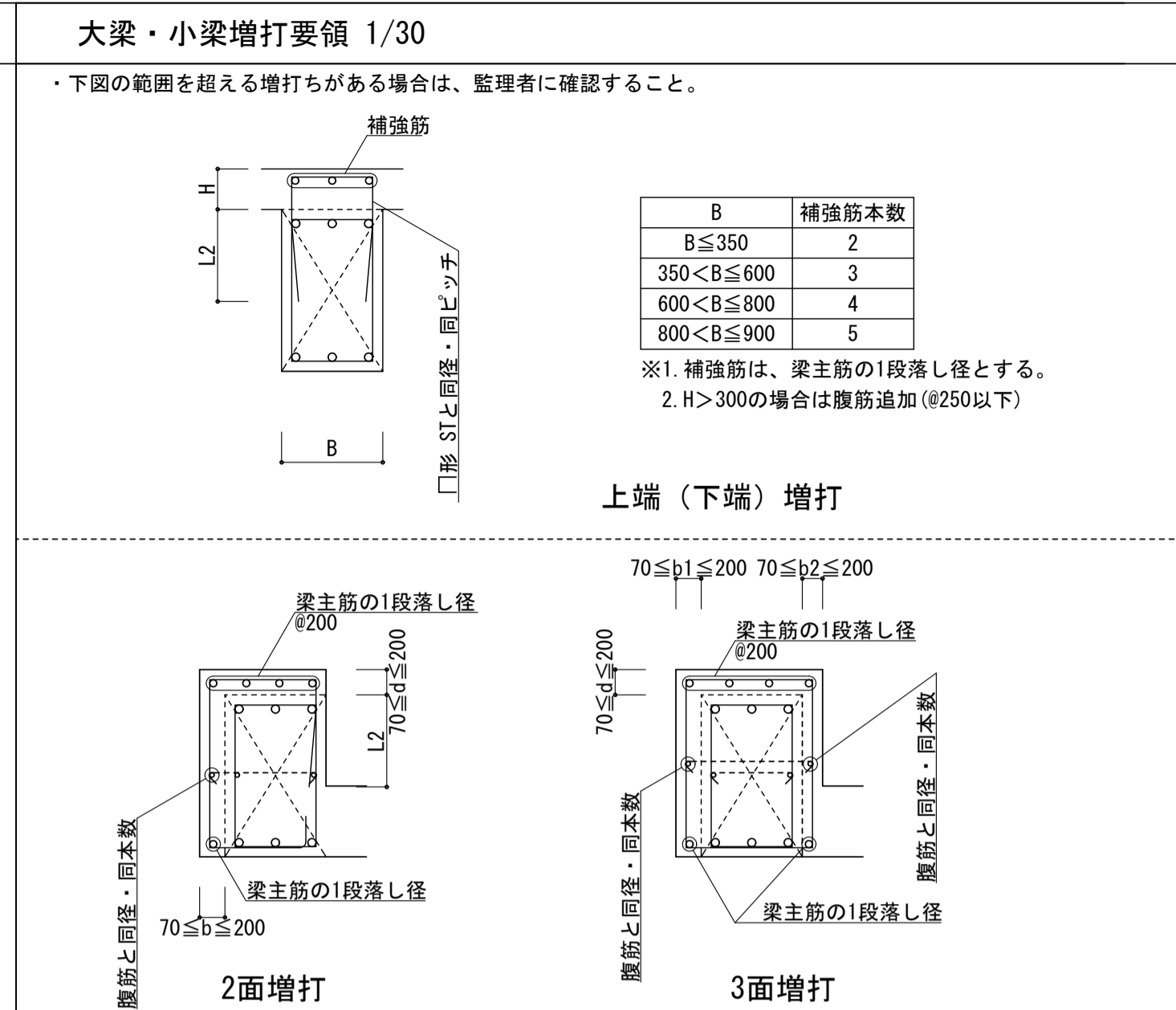
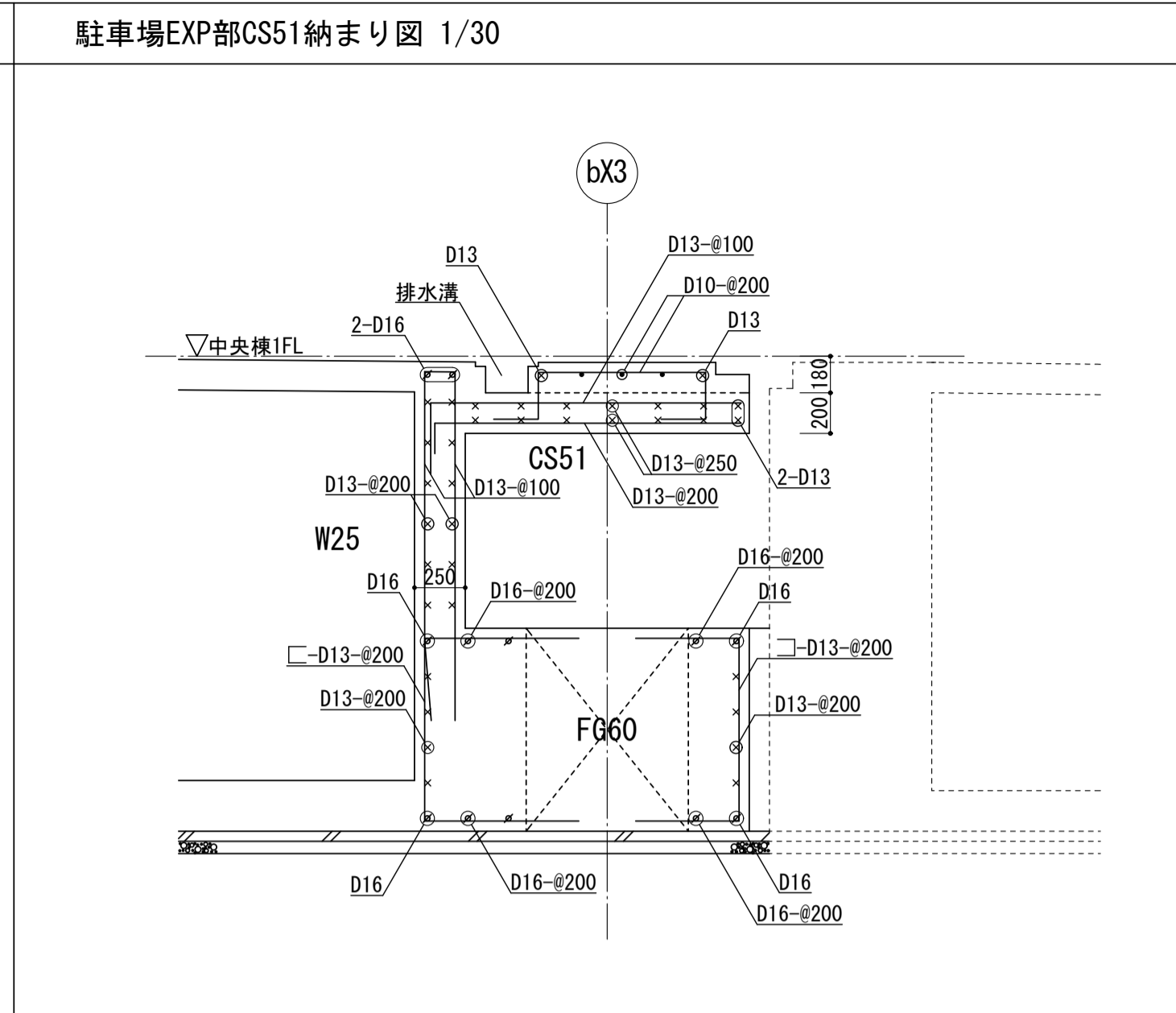
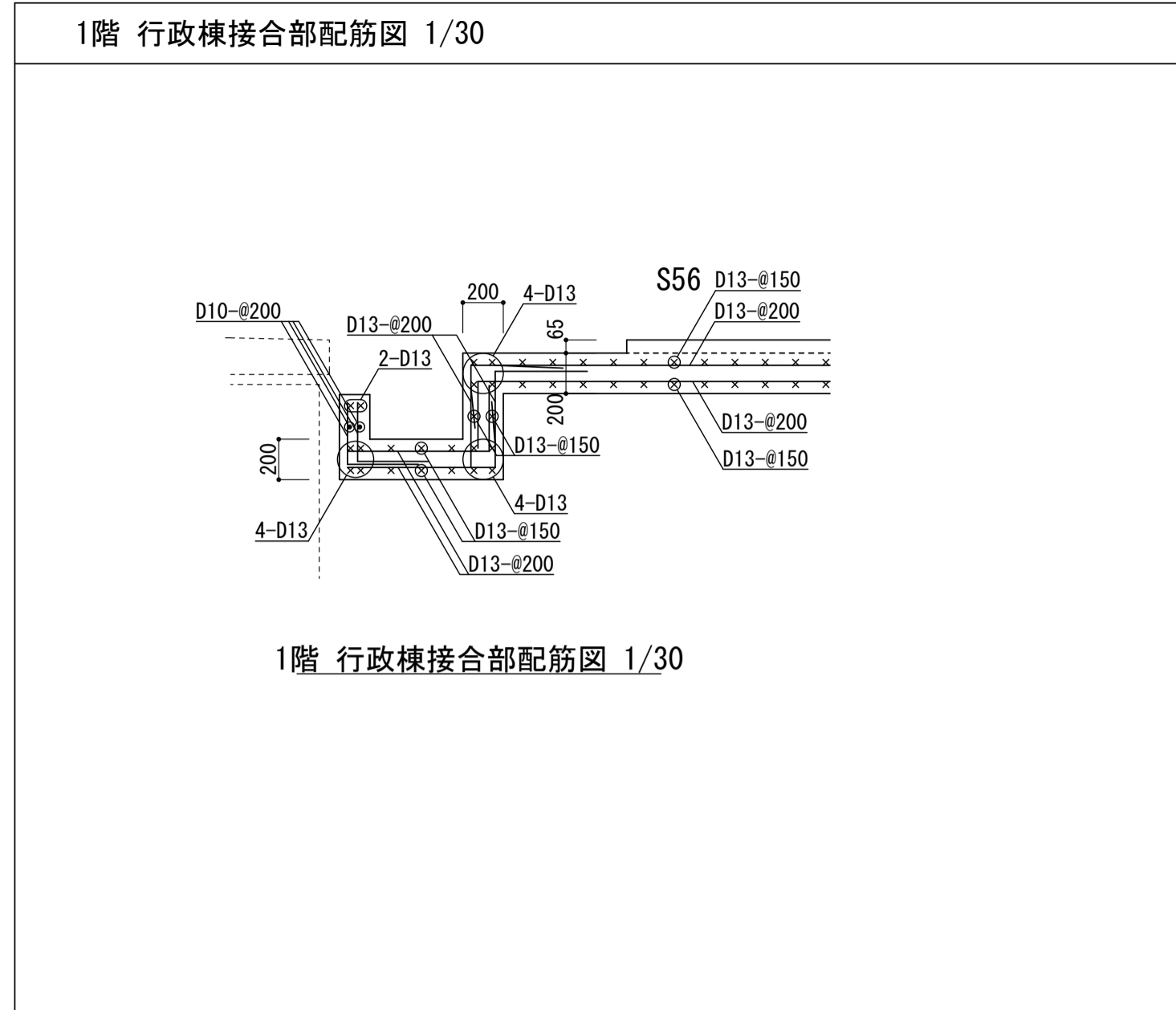
端部・コーナ部配筋要領



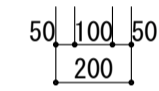
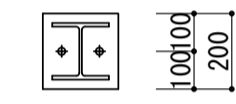
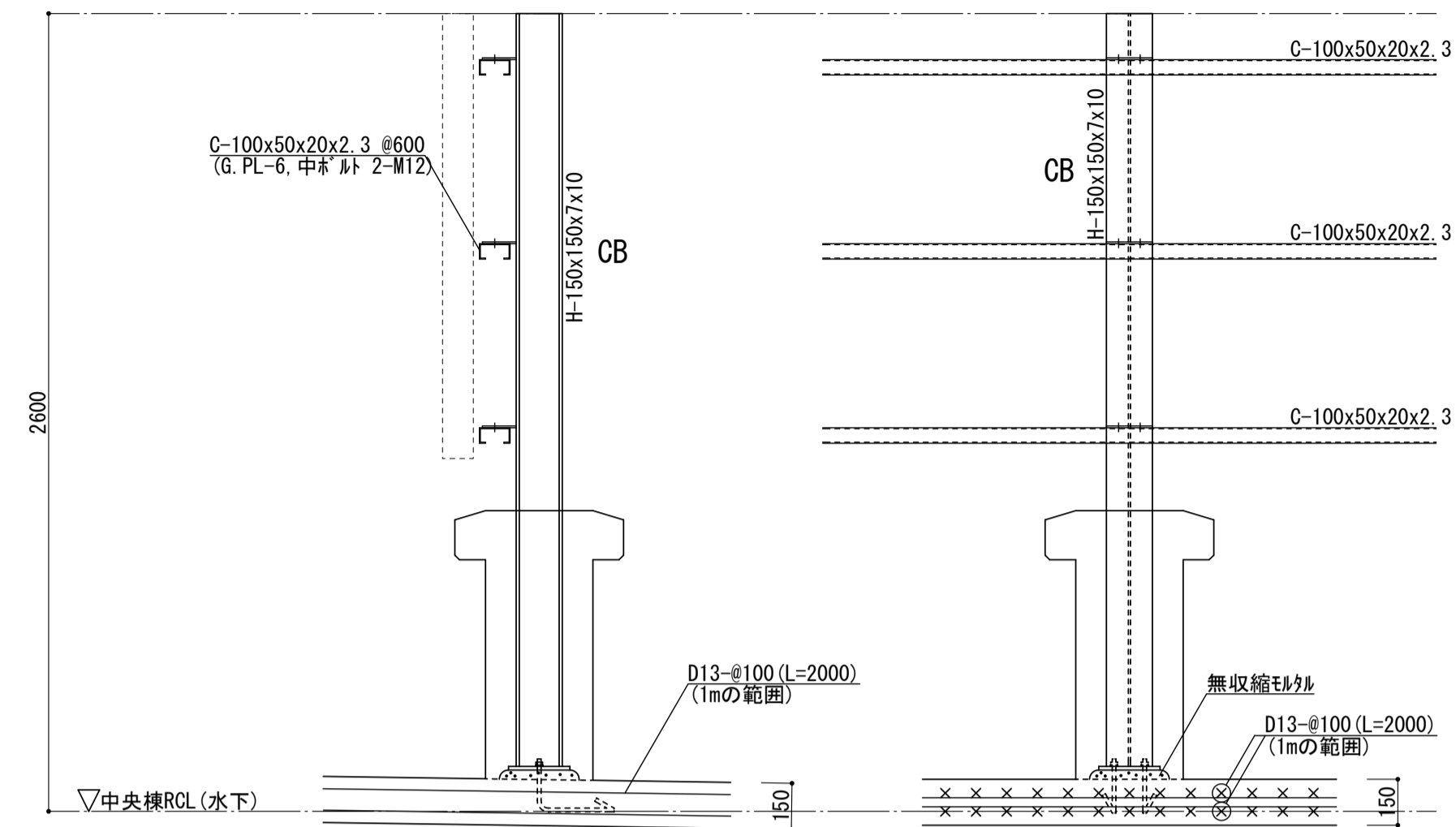
構造スリット要領



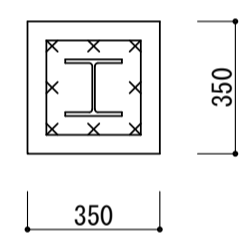
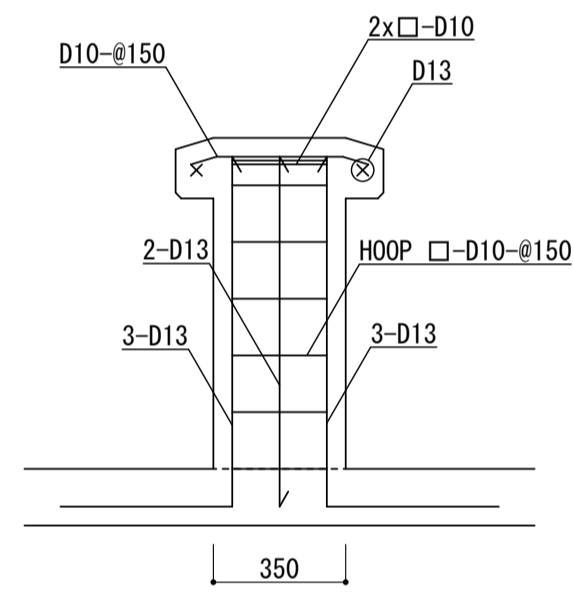
※上図は参考図である。同等の性能が得られる既製品等の使用については、
監理者の承認を得る事とする。



目隠しルーバー詳細図 1/20



B. PL-12
A. BOLT 2-M12 (SS400) (L=300)



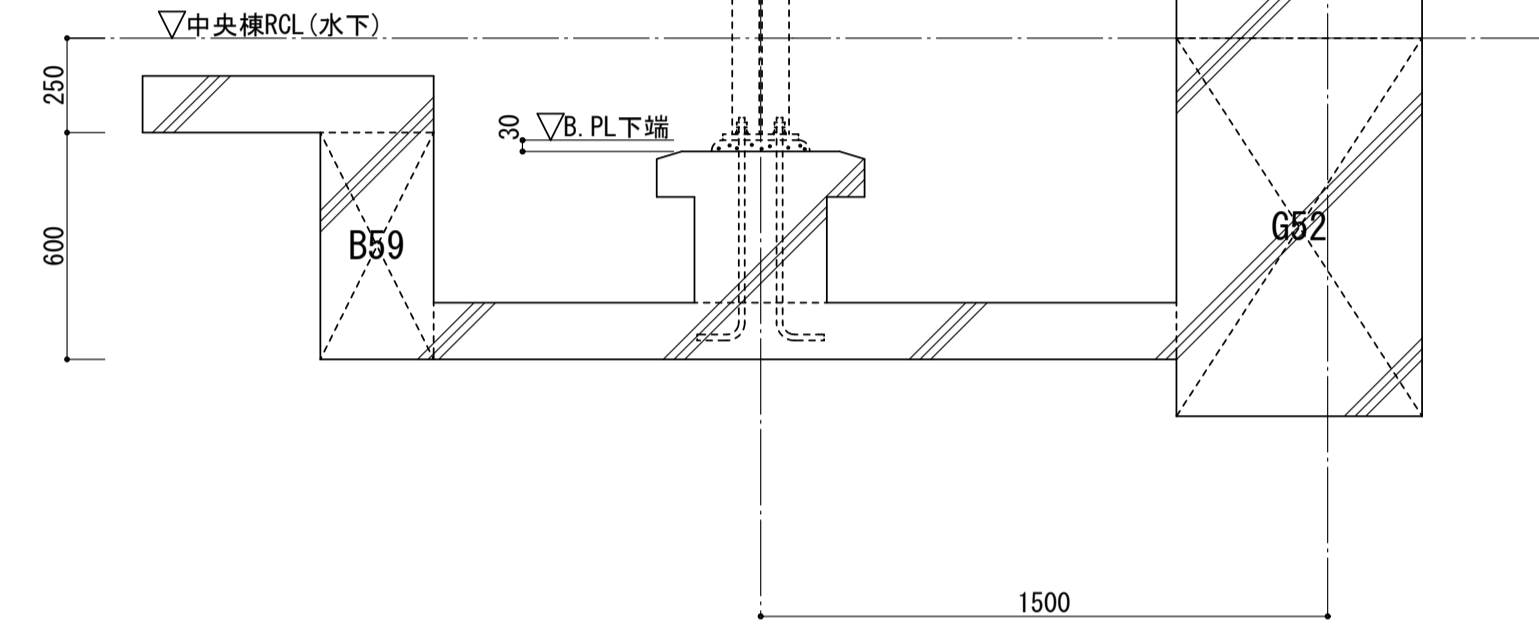
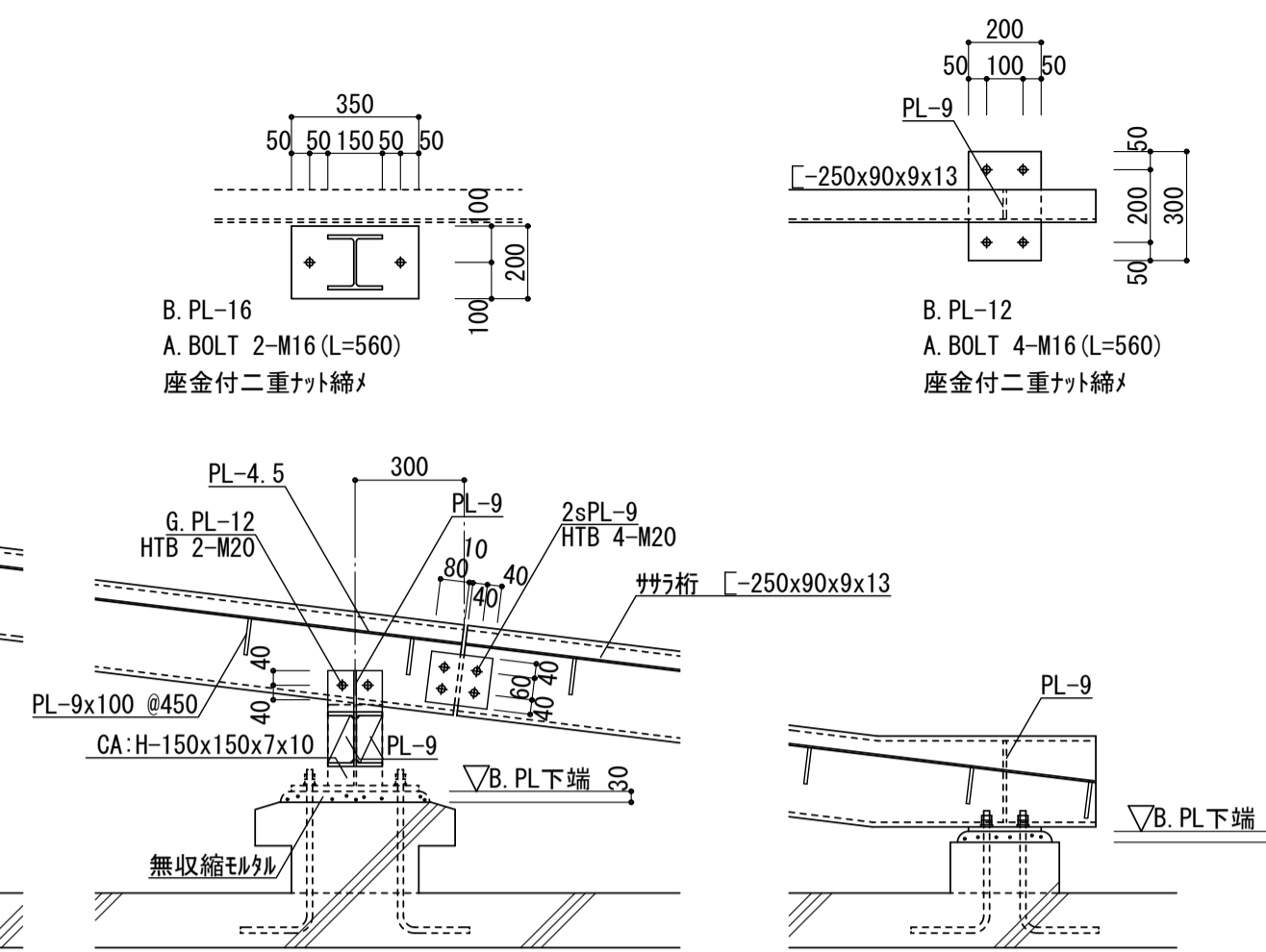
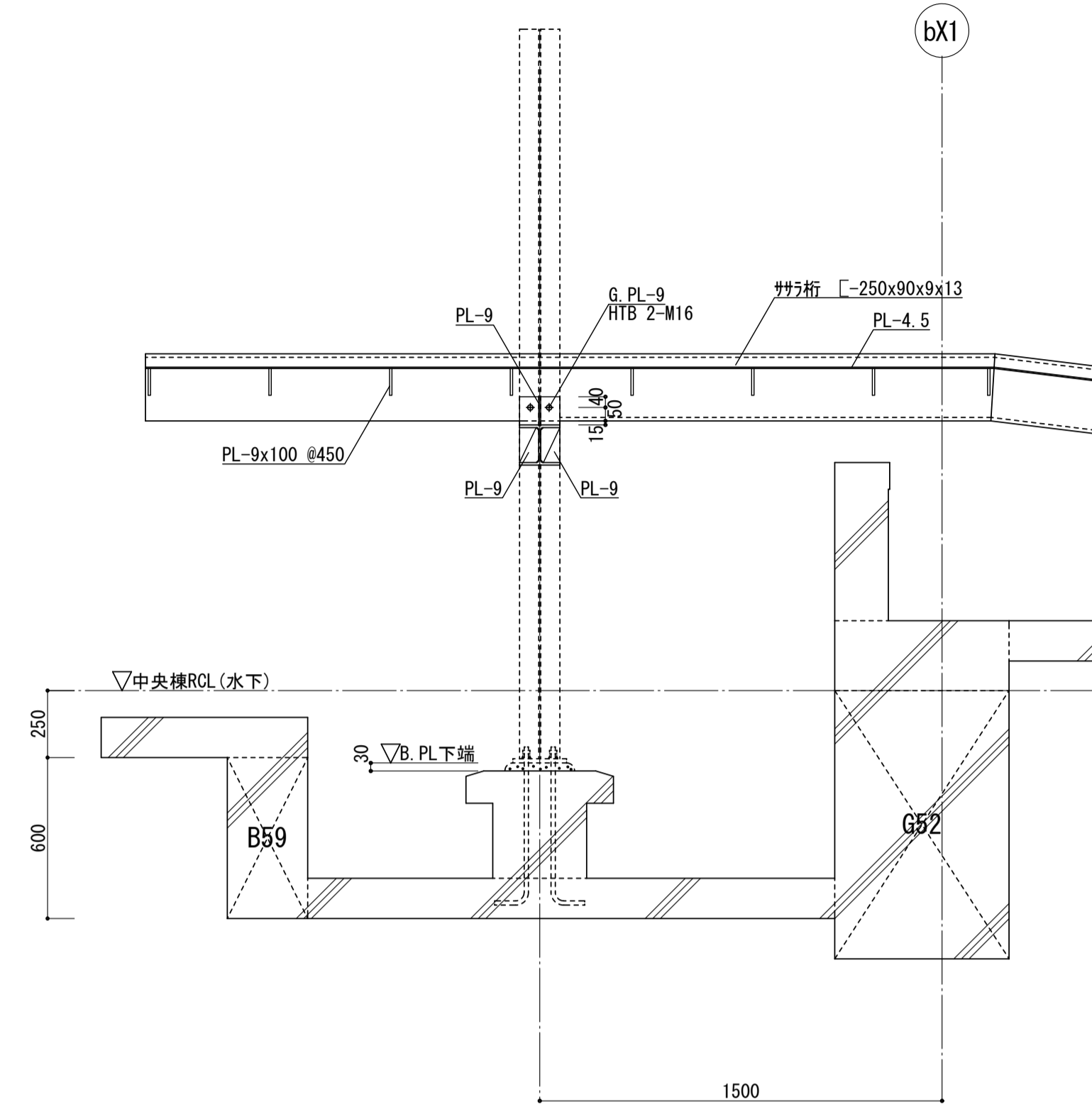
主筋 8-D13
HOOP φ-D10-φ150

目隠しルーバー 特記事項

- 鉄骨 SS400 柱
SSC400 鋼線
- ボルト 中ボルト
- 錆止塗装 溶融亜鉛メッキ

その他図面に記載なき項目は
国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」
平成25年版によること

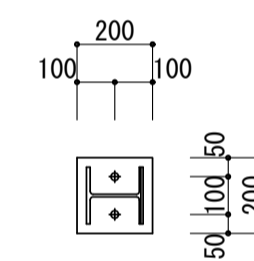
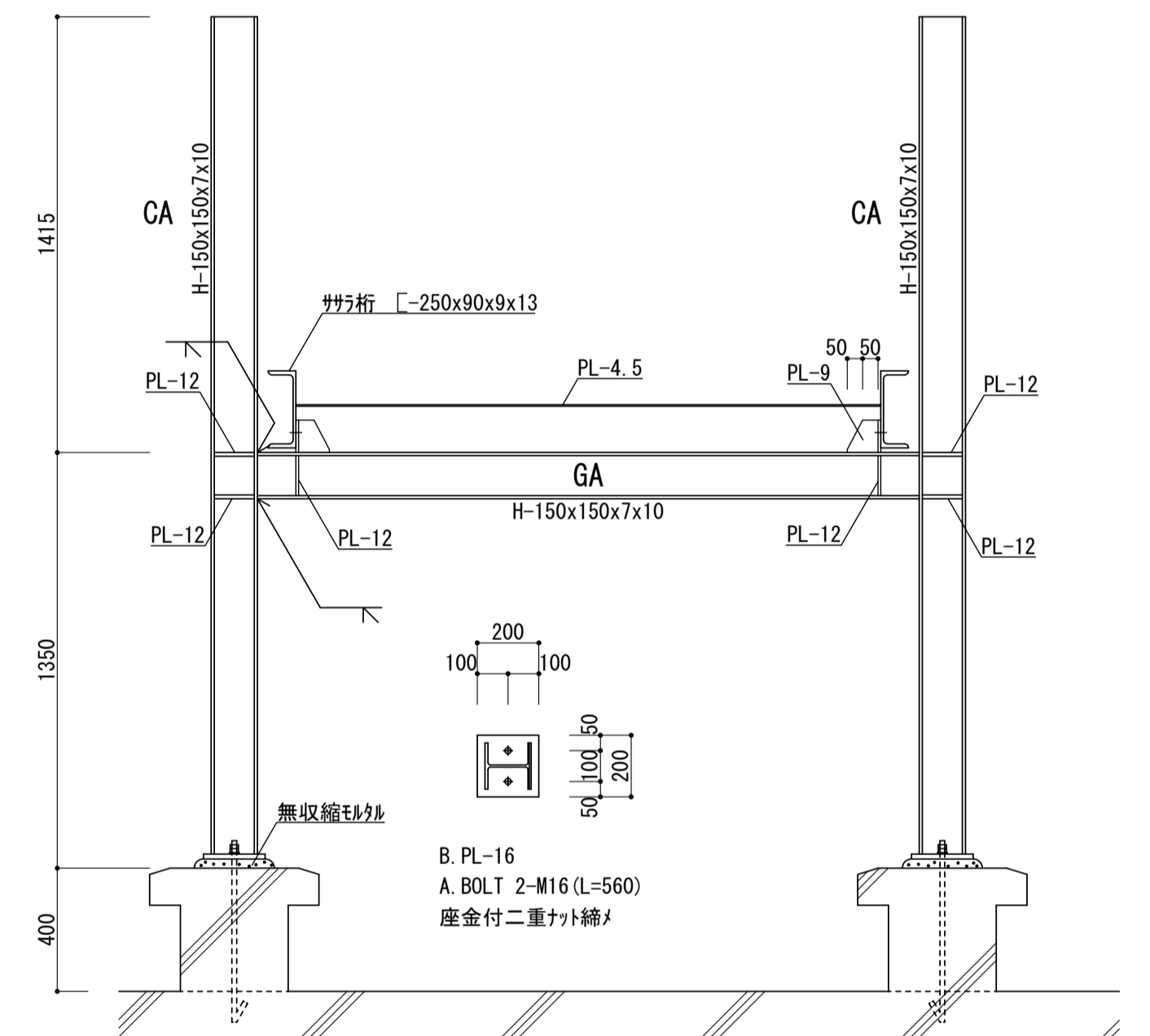
EXP. J部 鉄骨階段詳細図 1/20



EXP. J部 鉄骨階段 特記事項

- 鉄骨 SS400
- ボルト F8T (溶融亜鉛メッキ)
- 錆止塗装 溶融亜鉛メッキ

その他図面に記載なき項目は
国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」
平成25年版によること



B. PL-16
A. BOLT 2-M16 (L=560)
座金付二重ナット締り

■注記

管理建築士 一級建築士 登録第166404号 吉村久夫	横浜市建築局	工事名 金沢区総合庁舎改築工事(第2工区建築工事)
年月日 平成28年8月	縮尺 A1=1/20 A3=1/40	図面名称 雑詳細図
設計者 株式会社 国設計	図面枚数 構造	図面番号 S-C18